茨城県教育財団文化財調査報告第123集

取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書II

大山I遺跡

平成9年6月

住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第123集

取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書II

大山(おおやまいち)I遺跡

平成9年6月

住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部
財団法人　茨城県教育財団

大山Ⅰ遺跡遠景

大山Ⅰ遺跡出土遺物

序

取手市と住宅・都市整備公団は，市の西部地区に拠点都市機能を持ち，良好な居住環境を有する住宅の供給を行うための特定土地区画整理事業を進めております。その事業予定地内の下高井地区には，埋蔵文化財包蔵地である大山Ⅰ遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は，住宅・都市整備公団から開発地内の埋蔵文化財発掘調査事業について委託契約を受け，平成８年４月から平成８年９月にかけて発掘調査を実施してまいりました。

本書は，平成８年度に調査を実施した大山Ⅰ遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史の理解を深め，ひいては教育・文化の向上の一助として，活用されることを希望いたします。

なお，発掘調査及び整理を進めるにあたり，委託者である住宅・都市整備公団からいただいた多大な御協力に対し，心から感謝申し上げます。

また，茨城県教育委員会，取手市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から御指導，御協力を賜りましたことに，衷心より感謝の意を表します。

平成９年６月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　橋　本　　昌

例　　言

1　本書は，住宅・都市整備公団の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成8年4月から平成8年9月まで発掘調査を実施した，茨城県取手市大字寺田字大山4,448番地の3ほかに所在する大山Ⅰ遺跡の発掘調査報告書である。

2　大山Ⅰ遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は，次のとおりである。

理事長		橋本　昌	平成7年4月～
副理事長		中島弘光	平成7年4月～
		斎藤佳郎	平成8年4月～
常務理事		梅澤秀夫	平成8年4月～平成9年3月
		斎藤紀彦	平成9年4月～
事務局長		小林隆郎	平成8年4月～平成9年3月
		西村敏一	平成9年4月～
埋蔵文化財部長		沼田文夫	平成8年4月～
埋蔵文化財部長代理		河野佑司	平成6年4月～
企画管理課	課長	小幡弘明	平成8年4月～平成9年3月
	課長	河崎孝典	平成9年4月～
	課長代理	根本達夫	平成7年4月～
	課長代理	清水　薫	平成9年4月～
	主任調査員	小高五十二	平成8年4月～
経理課	課長	河崎孝典	平成8年4月～平成9年3月
	課長	鈴木三郎	平成9年4月～
	主査	田所多佳男	平成8年4月～
	課長代理	大高春夫	平成7年4月～平成9年3月
	主任	小池　孝	平成7年4月～
	主任	宮本　勉	平成9年4月～
	主事	柳澤松雄	平成8年4月～平成9年3月
	主事	小西孝典	平成9年4月～
調査課	課長（部長兼務）	沼田文夫	平成8年4月～
	調査第一班長	荻野谷　悟	平成8年4月～平成8年9月
	主任調査員	中山忠久	平成8年4月～平成8年9月　調査
	主任調査員	菱沼良幸	平成8年4月～平成8年9月　調査
整理課	課長	山本静男	平成7年4月～平成9年3月
	課長	小泉光正	平成9年4月～
	首席調査員	古澤義一	平成9年4月～平成9年6月　整理・執筆・編集
	主任調査員	菱沼良幸	平成9年4月～平成9年6月　整理・執筆・編集

3　本書で使用した記号等については，凡例を参照されたい。

4　発掘調査及び整理に際して，御指導，御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を

表します。

5　遺跡の概略

ふ り が な	とりでとしけいかくじぎょうしもたかいとくていとちくかくせいりじぎょうちないまいぞうぶんかざいちょうきほうこくしょ
書　　名	取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
副 書 名	大山Ⅰ遺跡
巻　　次	Ⅱ
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第123集
編 著 者 名	吉澤　義一・菱沼　良幸
編 集 機 関	財団法人　茨城県教育財団
所　在　地	〒310　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL　029(225)6587
発 行 機 関	茨城県教育財団
所　在　地	〒310　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL　029(225)6587
発行年月日	1997（平成9）年6月30日

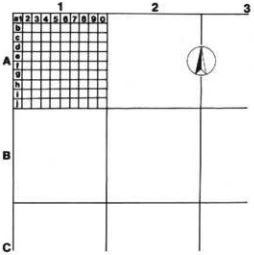
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
おおやまいちいせき 大山Ⅰ遺跡	いばらきけんとりでしおおあざ 茨城県取手市大字 てらだあざおおやま 寺田字大山4,448 ばんち 番地の3ほか	08217 －28	35度 55分 7秒	140度 2分 51秒	19960401～ 19960930	12,597㎡	取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大山Ⅰ遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡　25軒 竪穴遺構　3基	土師器，土製品，石製品，鉄製品，ガラス小玉	古墳時代前期の集落跡である。

凡　　例

1　大山Ⅰ遺跡の調査区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系を原点とし，X軸（南北）－8,200m，Y軸（東西）＋18,320mの交点を基準点（A1a$_1$）とした。

大調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を40m方眼で区画設定した。さらに，この大調査区を東西，南北に各々10等分し，4m方眼の小調査区を設定した。大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ1，2，3…とし，その組み合わせで「A1区」，「B1区」のように呼称した。小調査区も同様に，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3…0とし，名称は大調査区の名称を冠し，「A1a$_1$区」，「B2b$_1$区」のように呼称した。



第1図　調査呼称方法概念図

2　遺構，遺物，土層に使用した記号は，以下のとおりである。

遺構　住居跡－ＳＩ　竪穴遺構－ＳＸ　ピット－Ｐ

遺物　土器－Ｐ　石器・石製品－Ｑ　土製品－ＤＰ　金属製品－Ｍ

拓本土器－ＴＰ

土層　撹乱－Ｋ

3　遺構，遺物の実測図中の表示は，以下のとおりである。

＝炉　＝焼土・赤彩　＝繊維土器断面

● 土器　○ 土製品　□ 石器・石製品　△ 金属製品　——・—— 硬化面

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構，遺物実測図の作成方法と掲載方法については，以下のとおりである。

(1) 遺跡全体図は縮尺500分の1とし，各遺構の実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては個個にスケールで表示した。

(3) 「主軸方向」は，炉をとおる軸線あるいは長軸方向とし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した。（例Ｎ－10°－Ｅ，Ｎ－10°－Ｗ）

なお，［　　］を付したものは推定である。

(4) 土器の計測値は，Ａ－口径　Ｂ－器高　Ｃ－底径　Ｄ－高台径（脚部径）　Ｅ－高台高（脚部高）Ｆ－体部径とし，単位はcmである。

なお，現存値は（　　）を，推定値は［　　］を付して示した。

目　　次

序
例言
凡例
第１章　調査経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1
第２章　位置と環境 …… 2
　第１節　地理的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 2
第３章　大山Ⅰ遺跡 …… 9
　第１節　遺跡の概要 …… 9
　第２節　基本層序 …… 9
　第３節　遺構と遺物 …… 10
　　１　古墳時代 …… 10
　　(1)　竪穴住居跡 …… 10
　　(2)　竪穴遺構 …… 72
　　２　遺構外遺物 …… 74
　　(1)　縄文土器 …… 74
　　(2)　土師器 …… 75
　　(3)　その他の遺物 …… 77
　第４節　まとめ …… 82
付　章　遺跡周辺確認遺構 …… 84
写真図版

挿 図 目 次

第１図　調査区呼称方法概念図
第２図　周辺遺跡分布図 …… 5
第３図　大山Ⅰ遺跡調査区割図 …… 6
第４図　大山Ⅰ遺跡遺構全体図 …… 7・8
第５図　基本土層図 …… 9
第６図　第１号住居跡実測図 …… 11
第７図　第１号住居跡出土遺物実測図 …… 12
第８図　第２号住居跡出土遺物実測図 …… 12
第９図　第２号住居跡実測図 …… 13
第10図　第３号住居跡実測図 …… 14
第11図　第３号住居跡出土遺物実測図 …… 15
第12図　第４号住居跡実測図 …… 17
第13図　第５号住居跡実測図(1) …… 18
第14図　第５号住居跡実測図(2) …… 19
第15図　第５号住居跡出土遺物実測図(1) …… 20
第16図　第５号住居跡出土遺物実測図(2) …… 21
第17図　第６号住居跡実測図 …… 23
第18図　第６号住居跡出土遺物実測図 …… 24
第19図　第７号住居跡実測図 …… 25
第20図　第７号住居跡出土遺物実測図 …… 26
第21図　第10号住居跡実測図 …… 27
第22図　第10号住居跡出土遺物実測図(1) …… 28
第23図　第10号住居跡出土遺物実測図(2) …… 29
第24図　第12号住居跡実測図 …… 31
第25図　第12号住居跡出土遺物実測図 …… 32
第26図　第13号住居跡実測図 …… 34
第27図　第13号住居跡出土遺物実測図 …… 35
第28図　第14号住居跡実測図 …… 35
第29図　第14号住居跡出土遺物実測図 …… 36
第30図　第15号住居跡実測図 …… 37
第31図　第15号住居跡出土遺物実測図 …… 38
第32図　第16号住居跡出土遺物実測図 …… 38
第33図　第16号住居跡実測図 …… 39
第34図　第17号住居跡実測図 …… 40
第35図　第17号住居跡出土遺物実測図 …… 41
第36図　第18・19号住居跡実測図(1) …… 44
第37図　第18・19号住居跡実測図(2) …… 45
第38図　第18号住居跡出土遺物実測図 …… 46
第39図　第19号住居跡出土遺物実測図 …… 47
第40図　第20号住居跡実測図 …… 48
第41図　第20号住居跡出土遺物実測図 …… 49
第42図　第21号住居跡実測図 …… 50
第43図　第21号住居跡出土遺物実測図 …… 51
第44図　第22号住居跡実測図 …… 53
第45図　第22号住居跡出土遺物実測図 …… 53
第46図　第23号住居跡実測図 …… 54
第47図　第23号住居跡出土遺物実測図 …… 55
第48図　第24号住居跡実測図 …… 57
第49図　第24号住居跡出土遺物実測図(1) …… 58
第50図　第24号住居跡出土遺物実測図(2) …… 59
第51図　第25号住居跡実測図 …… 63
第52図　第25号住居跡出土遺物実測図 …… 64
第53図　第26号住居跡実測図 …… 65
第54図　第26号住居跡出土遺物実測図 …… 66
第55図　第27号住居跡実測図 …… 68
第56図　第27号住居跡出土遺物実測図 …… 69
第57図　第28号住居跡実測図 …… 70
第58図　第１号竪穴遺構実測図 …… 72
第59図　第１号竪穴遺構出土遺物実測図 …… 72
第60図　第２号竪穴遺構実測図 …… 73
第61図　第３号竪穴遺構実測図 …… 74
第62図　遺構外出土遺物実測・拓影図(1) …… 76
第63図　遺構外出土遺物実測・拓影図(2) …… 77
第64図　遺構外出土遺物実測図(1) …… 78
第65図　遺構外出土遺物実測図(2) …… 79
第66図　遺構外出土遺物実測・拓影図(3) …… 80
第67図　第29号住居跡実測図 …… 85
第68図　第29号住居跡出土遺物実測図(1) …… 86
第69図　第29号住居跡出土遺物実測図(2) …… 87
第70図　第30号住居跡実測図 …… 88

第71図　第30号住居跡出土遺物実測図 …… 89

表　目　次

表1　大山Ⅰ遺跡周辺遺跡一覧表 …… 4
表2　大山Ⅰ遺跡住居跡一覧表 …… 71
表3　大山Ⅰ遺跡竪穴遺構一覧表 …… 74

写真図版目次

PL1　調査前風景，遺構確認状況，第1号住居跡完掘状況
PL2　第2・3・4号住居跡完掘状況
PL3　第5号住居跡完掘状況，第5号住居跡遺物出土状況
PL4　第6・7・10号住居跡完掘状況
PL5　第10号住居跡遺物出土状況，第12号住居跡完掘状況
PL6　第12号住居跡遺物出土状況，第13・14号住居跡完掘状況
PL7　第15・16・17号住居跡完掘状況
PL8　第18・19号住居跡完掘状況，第18・19号住居跡遺物出土状況，第20号住居跡完掘状況
PL9　第21・22・23号住居跡完掘状況
PL10　第24号住居跡完掘状況，第24号住居跡遺物出土状況
PL11　第25・26・27号住居跡完掘状況
PL12　第1・2・3号竪穴遺構完掘状況
PL13　旧石器出土状況，第29・30号住居跡完掘状況
PL14　第1・2・3号住居跡出土遺物
PL15　第3・5号住居跡出土遺物
PL16　第5・6・7号住居跡出土遺物
PL17　第7・10号住居跡出土遺物
PL18　第10・12号住居跡出土遺物
PL19　第10・12・13・14号住居跡出土遺物
PL20　第14・15・16・17号住居跡出土遺物
PL21　第17・18号住居跡出土遺物
PL22　第18・19・20・21号住居跡出土遺物
PL23　第22・23・24号住居跡出土遺物
PL24　第24号住居跡出土遺物
PL25　第24号住居跡出土遺物
PL26　第25・26号住居跡出土遺物
PL27　第26・27号住居跡，第1号竪穴遺構，遺構外出土遺物
PL28　第29号住居跡，遺構外出土遺物
PL29　第29・30号住居跡出土遺物
PL30　第29・30号住居跡，遺構外出土遺物
PL31　遺構外出土遺物

第1章　調査経緯

第1節　調査に至る経過

取手市は，整備された交通網や首都圏40km以内という恵まれた立地条件のもと，工業団地の進出や住宅地の増加が著しく，めざましい発展を遂げている。また，常磐新線や首都圏中央連絡自動車道の開発計画に伴い，ますます茨城県南部の業務核都市としての役割を期待されている。そこで，住宅・都市整備公団は，取手市の西部地区に「取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業」を計画した。この事業は，業務機能と都市的機能を備えた良好な居住環境を有した市街地の形成を目指すものである。

これにより，平成4年8月26日，住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部は，茨城県教育委員会に対し，この事業計画地区である取手市西部地域における埋蔵文化財の有無の照会をした。これを受け，茨城県教育委員会は，取手市教育委員会と埋蔵文化財の有無の確認とその取り扱いについての協議を行い，平成4年11月25日，表面観察及び試掘調査を実施した結果，甚五郎崎遺跡ほか下高井向原遺跡など数遺跡が所在することを確認し，住宅・都市整備公団あてに回答した。平成5年2月4日から，住宅・都市整備公団と茨城県教育委員会は，埋蔵文化財の取り扱いについて，文化財保護の立場から慎重に協議を重ねた結果，発掘調査による記録保存の措置を講ずることにした。そこで，茨城県教育委員会は，住宅・都市整備公団に，埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県教育財団は，住宅・都市整備公団と取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内の埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び，平成5年10月1日から下高井向原II遺跡の発掘調査を開始した。平成6年度，甚五郎崎遺跡，下高井向原I遺跡及び下高井向原II遺跡，平成7年度，柏原遺跡，前畑遺跡及び東原遺跡の発掘調査を実施した。さらに，平成8年度，大山I遺跡の埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び，同年4月から9月まで大山I遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節　調査経過

大山I遺跡の発掘調査を，平成8年4月1日から平成8年9月30日までの6か月にわたって実施した。以下，調査の経過について，その概要を月ごとに記述する。

4　月　発掘調査を開始するため，現場事務所や倉庫の設置，調査器材の搬入，補助員募集等の諸準備を行った。22日から補助員を投入して，諸施設の整備，大山I遺跡の伐開作業を開始し，23日から試掘調査を実施した。

5　月　15日から山林部分の業者委託による立木の伐開，焼却作業を開始し，これと並行して試掘調査を行った。

6　月　10日から重機による表土除去及び遺構確認作業を開始し，竪穴住居跡28軒を確認した。

7　月　17日から遺構調査を開始した。

8　月　遺構調査を継続した。

9　月　24日には遺構調査を終了した。その後，諸帳簿や諸記録の点検，発掘現場の安全対策を行い，25日には当遺跡の平成8年度分の12,597㎡の現地調査を完了した。

第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

大山Ⅰ遺跡は取手市大字寺田字大山4,448番地ほかに所在し，取手市役所の北西約2kmのところに位置している。遺跡のある取手市は，茨城県最南部の利根川沿いにあり，東は利根町，龍ヶ崎市，西は守谷町，南は利根川を挟んで千葉県の我孫子市，北は伊奈町，藤代町と境を接している。市域は，南側の利根川沿いの低地と北側の小貝川沿いの低地に挟まれて東西に細長く伸びた北相馬台地を骨格としており，面積は36.84㎢である。市の中央部を，国道6号線とJR常磐線が並行してほぼ南北に通じ，中央部から西に国道294号線と関東鉄道常総線が通っている。交通条件の良さと首都圏40km内にあることから工業団地と併せて大規模住宅団地化が進み，県南部の中枢的商業都市としての発展がめざましい。

取手市の地形は，標高21～25mの北相馬台地と利根川水系の低地からなっている。利根川は，群馬県を水源とし，市の南部を西から東に流れ千葉県との県境を形成している。小貝川は，栃木県を水源とし，蛇行しながら市の東部で利根川と合流している。北相馬台地は，利根川や小貝川の支流が入り込み，複雑な地形となっている。市街地より東では，小文間の小台地や利根町の小台地などが孤立した台地として連なっている。台地の地層は，第四紀洪積世古東京湾時代に堆積した成田層が基盤層となり，下部から成田層下部，成田層上部，竜ヶ崎砂礫層，常総粘土層，関東ローム層の順で堆積している。堆積状況は，水平で単調であり，褶曲や断層はみられない。

大山Ⅰ遺跡は，小貝川右岸から南西側に入り込む小支谷に挟まれた標高16～22mの舌状台地の南側に立地している。遺跡のある台地と小支谷の比高は8～10mで，調査前の現況は畑及び山林である。

参考文献

・茨城県農地部農地計画課　『土地分類基本調査　龍ヶ崎』　1987年12月
・蜂須紀夫　『茨城県　地学のガイド』　1986年11月
・取手市教育委員会　『取手市史　原始古代（考古）資料編』 1989年3月
・取手市教育委員会　『中妻貝塚』 1995年7月

第2節　歴史的環境

大山Ⅰ遺跡が所在する取手市は，大小の河川，低地，台地と変化に富んだ自然環境の中で昔から人々の生活が営まれており，数多くの遺跡が残っている。特に，利根川水系によって形成された台地上には，旧石器時代から中世までの遺跡が多数所在している。ここでは，当地域の主な遺跡について時代をおって述べることにする。

旧石器時代の遺跡としては，<ruby>稲原<rt>かいはら</rt></ruby>遺跡〈68〉があり，細石刃核や細石刃，彫器及び削器等が出土している。また，<ruby>西方<rt>にしかた</rt></ruby>貝塚〈2〉，<ruby>大袁<rt>おおわだり</rt></ruby>Ⅰ遺跡〈55〉の発掘調査の出土遺物中に旧石器時代と思われる石器や石器剥片が出土している。

縄文時代草創期の遺跡としては，<ruby>椿山<rt>つばきやま</rt></ruby>・<ruby>大日原<rt>だいにはら</rt></ruby>遺跡〈33〉があり，撚糸文土器片や稲荷台式土器片が出土している。縄文時代早期の遺跡としては，<ruby>宮<rt>みや</rt></ruby>ヶ<ruby>崎井<rt>さきい</rt></ruby><ruby>向原<rt>むかいはら</rt></ruby>Ⅰ遺跡〈70〉，<ruby>西方<rt>にしかた</rt></ruby>貝塚，<ruby>春日神社<rt>かすがじんじゃ</rt></ruby>遺跡〈6〉，<ruby>餘戸<rt>よべ</rt></ruby>Ⅰ遺跡〈18〉

東原遺跡〈27〉，市之代遺跡，堀尻遺跡〈53〉，大渡Ⅰ遺跡，鴉ノ脇遺跡〈60〉等があり台地の縁辺及び小高い尾根上の台地に立地している。縄文時代前期の遺跡としては，西方貝塚，除戸Ⅰ遺跡，西浦Ⅰ遺跡〈21〉，椿山・大日原遺跡，向山貝塚〈34〉，上高井鑪塚古墳〈40〉，白旗遺跡〈61〉等があり，早期の遺跡と比較して規模が大きくなる。縄文時代中期の遺跡としては，西方貝塚，除戸Ⅰ遺跡，陣谷原遺跡〈29〉，下高井向原Ⅰ遺跡，堀尻遺跡，大渡Ⅰ遺跡等がある。特に，西方貝塚は，昭和59年から61年まで断続的に調査が行われ，環状に住居跡が構成された，貝塚を伴う環状集落であることがわかっている。縄文時代後期の遺跡としては，中妻貝塚〈3〉，谷耕地下貝塚〈4〉，西方遺跡〈5〉，春日神社遺跡，谷耕地遺跡〈8〉，台道南遺跡〈7〉，北中原Ａ遺跡〈15〉，北中原Ｂ遺跡〈16〉，除戸Ⅰ遺跡，駒場Ⅰ遺跡〈23〉，前畑遺跡〈28〉，陣谷原遺跡，五郎崎遺跡〈69〉，山王作遺跡〈37〉，台坪遺跡〈38〉，神明遺跡〈39〉，前新田遺跡〈41〉，天境遺跡〈42〉，稲荷原Ⅰ遺跡〈43〉，稲向原Ⅱ遺跡〈45〉，舌戸遺跡〈47〉，慈代八幡遺跡〈49〉，遠道遺跡〈52〉，堀尻遺跡，大渡Ⅰ遺跡，竹ノ花Ⅰ遺跡〈57〉，東山遺跡〈59〉等がある。中妻貝塚は古くから著名な貝塚で，昭和47年から62年までの発掘調査により，堀之内式，加曽利Ｂ式から安行式にいたるまでの土器が出土している。厚さ１ｍ以上の貝層が直径200ｍの円形に展開しており，縄文時代後期における巨大な馬蹄形の貝塚である。神明遺跡からは，安行Ⅰ式のミミズク形土偶が出土している。縄文時代晩期の遺跡としては，中妻貝塚，神明遺跡等があり，大規模な後期の遺跡が継続したものであるが，遺跡数は急減している。

弥生時代の遺跡としては，市之代遺跡，大渡Ⅱ遺跡〈56〉，柏原遺跡，東原遺跡等がある。

古墳時代の遺跡としては，今回調査した大山Ⅰ遺跡〈1〉，市之代古墳群〈71〉，大渡Ⅱ遺跡，宗西郎坂古墳〈9〉，北中原Ⅱ遺跡〈17〉，除戸Ⅱ遺跡〈19〉，大山Ⅱ遺跡〈26〉，下高井向原Ⅱ遺跡〈71〉，椿山・大日原遺跡，上高井鑪塚古墳群，稲向原Ⅱ遺跡〈44〉，宿畑遺跡〈50〉，竹ノ代Ⅱ遺跡〈58〉等が確認されている。市之代古墳群は，小貝川の沖積地に独立した市之代の台地にあり，小貝川をのぞむ縁辺部に集中して立地している。現在，３基の前方後円墳と12基の円墳が確認されている。

奈良・平安時代の遺跡としては，戸田井遺跡〈10〉，中原遺跡〈12〉，南中原遺跡〈13〉，花輪台遺跡〈14〉，北中原Ⅱ遺跡，除戸Ⅱ遺跡，西浦Ⅱ遺跡〈22〉，駒場Ⅱ遺跡〈24〉，如何崎遺跡〈31〉，東遺跡〈32〉，向山Ⅱ遺跡〈35〉，貝塚新田遺跡〈36〉，稲向原Ⅳ遺跡〈46〉，佃Ⅱ遺跡〈51〉，堂ノ脇遺跡，新屋敷遺跡〈62〉，出土遺跡〈63〉，寺田耕地遺跡〈64〉等がある。

中世の遺跡としては，小文間城跡〈11〉，大鹿城跡〈20〉，大山遺跡〈25〉，大山Ⅱ遺跡，古戸城跡〈48〉，野々井城跡〈54〉等がある。下高井城跡〈30〉は保存がよくその形状が確認できる。

※　文中の〈　〉内の番号は，表１，第２図中の該当番号と同じである。

参考文献

・取手市教育委員会　『取手市史原始古代（考古）資料編』 1989年３月

・取手市教育委員会　『茨城県取手市大渡Ⅰ遺跡平成５年度発掘調査報告書』 1994年

・取手市教育委員会　『取手市小文間における縄文時代中期の貝塚』 1983年

・取手市教育委員会　『茨城県取手市中妻貝塚発掘調査報告書』 1995年

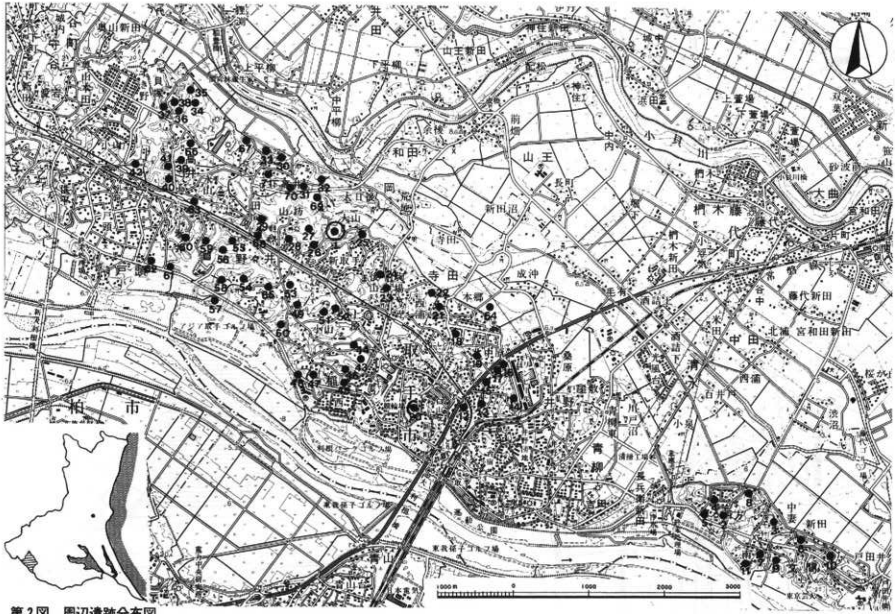
・取手市教育委員会　『取手と先史文化別巻１－上高井神明貝塚の先史土器－』 1984年

・取手市教育委員会　『市之代古墳群第３号墳調査報告』 1978年

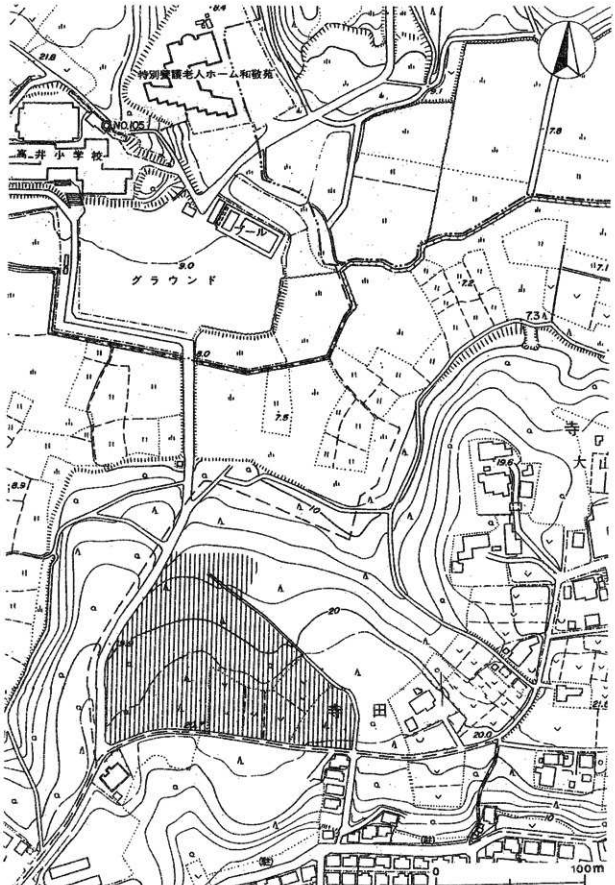
・茨城県教育委員会　『茨城県遺跡地図』 1990年３月

表1　大山Ⅰ遺跡周辺遺跡一覧表

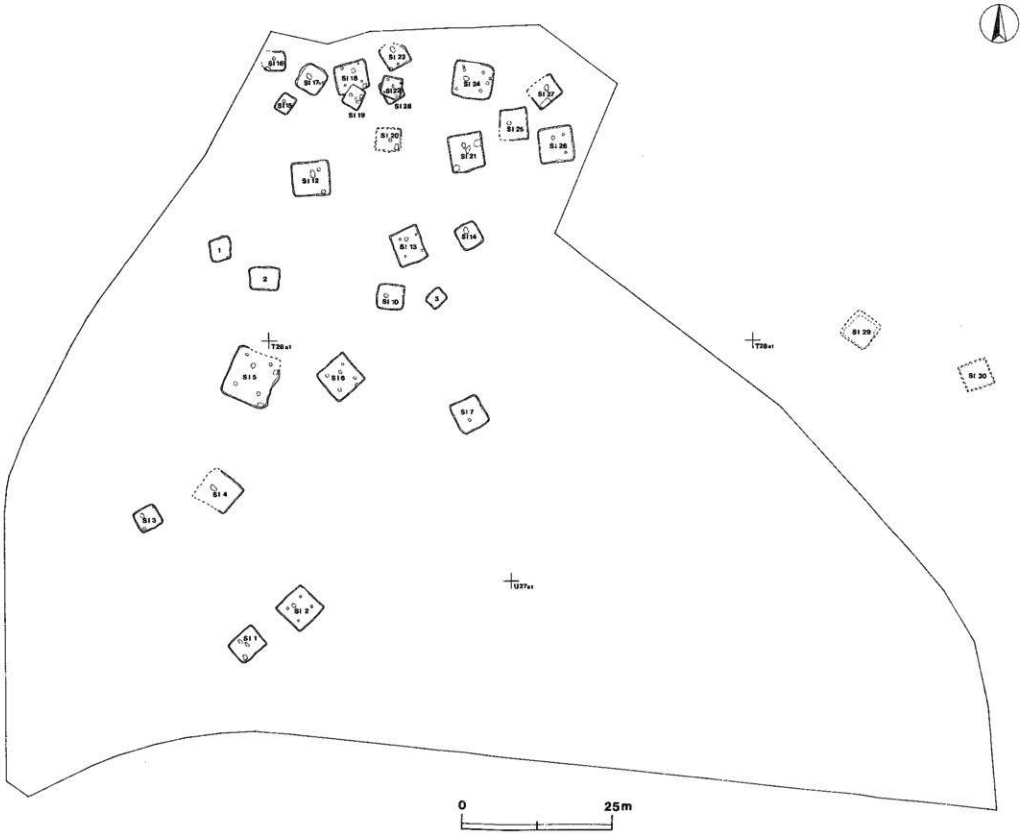
番号	遺跡名	県遺跡番号	時代 旧	縄	弥	古	奈平	中世	番号	遺跡名	県遺跡番号	時代 旧	縄	弥	古	奈平	中世
①	大山Ⅰ遺跡	5589				○			37	山王作遺跡	5604		○				
2	西方貝塚	2588		○					38	台坪遺跡	5605		○				
3	中妻貝塚	2581		○					39	神明遺跡	5606		○				
4	谷耕地下貝塚	5569		○					40	上高井鞍塚古墳	5607				○		
5	西方遺跡	5570		○					41	前新田遺跡	5608		○				
6	春日神社遺跡	5571		○					42	大塚遺跡	5609		○				
7	台道南遺跡	5572		○					43	稲向原Ⅰ遺跡	5613		○				
8	谷耕地遺跡	5573		○					44	稲向原Ⅱ遺跡	5614				○		
9	宗四郎坂古墳	3620				○			45	稲向原Ⅲ遺跡	5615		○				
10	戸田井遺跡	5574					○		46	稲向原Ⅳ遺跡	5616					○	
11	小文間城跡	5575						○	47	古戸遺跡	5617		○				
12	中原遺跡	5577					○		48	古戸城跡	5618						○
13	南中原遺跡	5578					○		49	惣代八幡遺跡	4132		○				
14	花輪台遺跡	5579					○		50	宿畑遺跡	5619				○		
15	北中原A遺跡	4077		○					51	但Ⅱ遺跡	5621					○	
16	北中原B遺跡	4078		○					52	遠道遺跡	5622		○				
17	北中原Ⅱ遺跡	5580					○		53	堀尻遺跡	5623		○				
18	除戸Ⅰ遺跡	5581		○					54	野々井城跡	5624						○
19	除戸Ⅱ遺跡	5582				○			55	大渡Ⅰ遺跡	4133		○		○		
20	大鹿城跡	2583						○	56	大渡Ⅱ遺跡	4134				○		
21	西浦Ⅰ遺跡	5584		○					57	竹ノ代Ⅰ遺跡	5625		○				
22	西浦Ⅱ遺跡	5585					○		58	竹ノ代Ⅱ遺跡	5626				○		
23	駒場Ⅰ遺跡	5586		○					59	東山遺跡	5627		○				
24	駒場Ⅱ遺跡	5587					○		60	堂ノ脇遺跡	5628					○	
25	大山遺跡	5588						○	61	白旗遺跡	5629		○				
26	大山Ⅱ遺跡	5590		○					62	新屋敷遺跡	5630					○	
27	東原遺跡	5591		○	○				63	出土遺跡	5631					○	
28	前畑遺跡	5592		○					64	寺田耕地遺跡	5632					○	
29	陣谷原遺跡	5593		○					65	西光寺前遺跡	5633		○				
30	下高井城跡	2584						○	66	神明貝塚	2585		○				
31	如何崎遺跡	5597					○		67	下高井貝塚	2589		○				
32	東遺跡	5598					○		68	柏原遺跡		○	○	○		○	
33	椿山・大日原	5599		○					69	甚五郎崎遺跡	5596			○			○
34	向山貝塚	5601		○					70	下高井向原Ⅰ遺跡	5594		○		○	○	
35	向山Ⅱ遺跡	5602					○		71	下高井向原Ⅱ遺跡	5595		○				
36	貝塚新田遺跡	5603					○		72	市之代古墳群	2587				○		



第2図　周辺遺跡分布図



第3図　大山Ⅰ遺跡調査区割図



第4図　大山Ⅰ遺跡遺構全体図

第3章　大山Ⅰ遺跡

第1節　遺跡の概要

大山Ⅰ遺跡は，取手市北西部，小貝川右岸から南西方向に入り込む支谷に突出した標高16～22mの舌状台地上に位置した古墳時代の遺跡である。現状は，畑と山林で面積は12,597㎡である。谷津を挟んだ北側には甚五郎崎遺跡，北西側には東原遺跡がある。

今回の発掘調査によって，古墳時代の竪穴住居跡25軒と竪穴遺構3基を確認した。

遺物は，遺物収納箱（60×40×20cm）に44箱出土した。旧石器時代の遺物は，ナイフ型石器と剥片である。縄文時代の遺物は，縄文土器片，石鏃及び剥片である。古墳時代の遺物は，土師器の甕，壺，甑，坩，鉢，高坏，器台の他に，土錘等の土製品，ガラス小玉が出土している。近世の遺物としては，古銭，煙管などがある。

第2節　基本層序

調査区域西側台地平坦部（H21j7区）にテストピットを設定した。深さ3.5mまで掘り下げ，第5図に示すような土層の堆積状況を確認した。

第1層　厚さ30cmの褐色の表土で，ローム粒子を多量に含む。

第2層　厚さ35cmの黄褐色のソフトローム層である。

第3層　厚さ10cmの黄褐色のハードローム層である。締まりが強い。

第4層　厚さ20cmの明黄褐色のハードローム層で，締まりが強い。

第5層　厚さ40cmの暗褐色のハードローム層である。粘性がある。

第6層　厚さ20cmの褐色のハードローム層で，赤色スコリアを少量含む。粘性が強い。

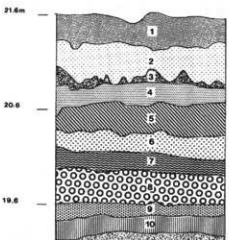
第7層　厚さ20cmの黄褐色土で，粘性が強い。

第8層　厚さ40cmの明黄褐色土で，粘性が強い。

第9層　厚さ10cmのオリーブ褐色土で，粘性が強い。

第10層　厚さ20cmの黄褐色土で，粘性が強い。

第11層　厚さ40cmのオリーブ褐色土で，粘性が強い。



第5図　基本土層図

第12層　厚さ30cmの褐色土で，スコリア粒子をわずかに含む。

第13層　厚さ10cmの黄褐色土で，黄白色パミスと明赤褐色・黒色スコリアを含む。

第14層　厚さ20cmの黒褐色土で，黒色スコリアを含む。粘性が強い。

第15層　厚さ10cmの黄灰色の粘土層で，黒色スコリアを含む。

遺構は，第1層下面及び第2層上面で平面形が確認され，第2層から第3層にかけて掘り込んでいる。

第3節　遺構と遺物

1　古墳時代

(1)　竪穴住居跡

当遺跡から，古墳時代の竪穴住居跡25軒を検出した。以下，検出した住居跡とそこから出土した遺物について記載する。

第1号住居跡（第6図）

位置　調査区の南西部，U25c区。

規模と平面形　長軸5.24m，短軸4.19mの長方形である。

主軸方向　N－43°－W

壁　壁高は13～33cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，あまり踏み固められていない。中央部を中心に，全面に焼土塊が遺存している。

炉　2か所。炉1は中央部に位置し，長径100cm，短径48cmの楕円形の地床炉である。炉2は，炉1の北西側に位置し，長径83cm，短径58cmの楕円形の地床炉である。

炉1・2土層解説

1　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子多量，ローム粒子少量
2　橙　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
3　橙　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

貯蔵穴　南コーナー部に位置し，長軸90cm，短軸64cmの長方形で，深さは42cmである。平坦な底面から外傾して立ち上がり，断面は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム大・中ブロック・ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，焼土中ブロック微量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量

覆土　5層からなる自然堆積土層である。

土層解説

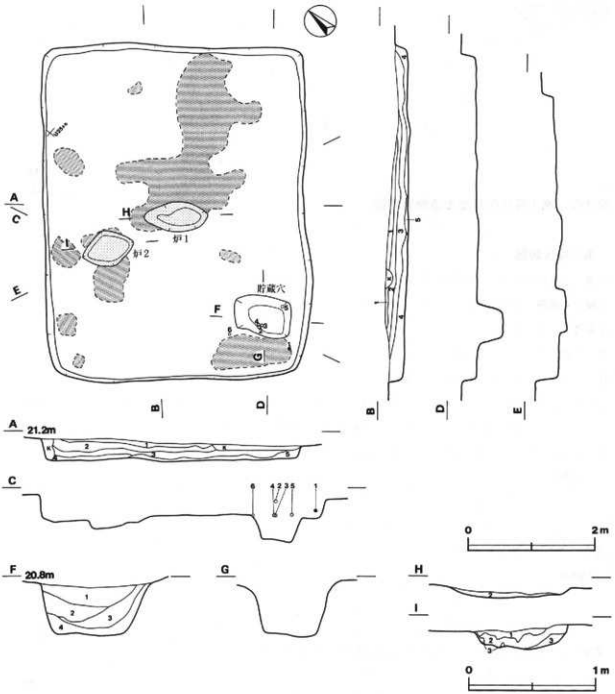
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化材微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗赤褐色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，ローム粒子微量

遺物　覆土下層から上層にかけて，土師器片107点が出土している。第7図1の器台は南コーナー部の覆土中層から逆位で出土している。2～6の球状土錘は北コーナー部と北西壁付近の上・中・下層から出土している。なお，覆土下層から少量の炭化種子が出土している。

所見　本跡は，床面に焼土塊が散在していることから焼失家屋と思われる。出土遺物等から古墳時代前期（4世紀）の住居跡と考えられる。

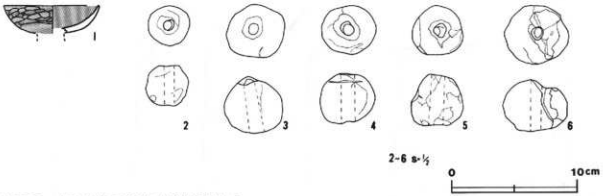
第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第7図 1	器台 土師器	A 5.7 B（ 2.1）	脚部欠損。坏部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	坏部内・外面丁寧なヘラ磨き。坏部内・外面赤彩。	長石・雲母・石英 赤色 普通	P 1　50% 覆土中層 PL14



第6図　第1号住居跡実測図

図版番号	種別	計測値（cm）				出土地点	備考	
		長さ	幅	孔径	重量（g）			
第7図 2	球状土錘	2.2	2.2	0.5	10.4	覆土上層	DP1	PL14
3	球状土錘	3.0	2.8	0.5	25.9	覆土中層	DP2	PL14
4	球状土錘	2.7	2.6	0.6	20.5	覆土中層	DP3	PL14
5	球状土錘	2.7	2.7	0.6	20.0	覆土中層	DP4	PL14
6	球状土錘	2.8	3.2	0.5	25.2	覆土中層	DP5	PL14



第7図　第1号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡（第9図）

位置　調査区の南西部，U26b₂区。

規模と平面形　長軸5.71m，短軸5.50mの方形である。

主軸方向　N－42.5°－W

壁　壁高は，3～10cmで外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1は径40cmの円形で，深さ55cm。P_2は径38cmの円形で，深さ60cm。P_3は径33cmの円形で，深さ34cm。P_4は径42cmの円形で，深さ40cm。いずれも主柱穴と考えられる。

炉　中央部から北西寄りに位置し，長径74cm，短径50cmの楕円形を呈する地床炉である。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

覆土　3層からなる人為堆積土層である。

土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

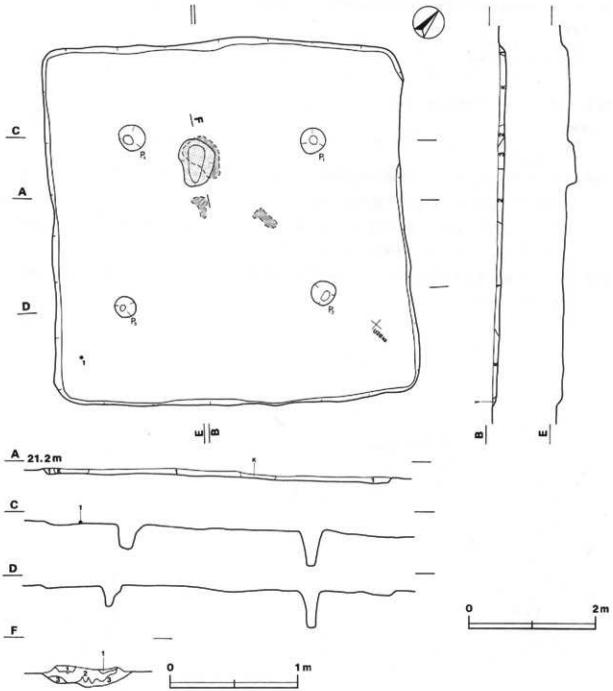
遺物　遺物量は少ない。壺の体部片80点，口縁部片10点が出土している。第8図のミニチュア土器は，南コーナー付近から正位の状態で出土している。

所見　出土遺物が少なく，時期決定できる遺物がない。本跡の時期は不明である。

第8図　第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 1	ミニチュア土器 土師器	A 6.8 B 3.3 C 2.4	口縁部一部欠損。平底。体部は球形を呈し，内彎して立ち上がる。	体部内・外面丁寧なナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 2　80% 覆土下層 PL14



第9図　第2号住居跡実測図

第3号住居跡（第10図）

位置　調査区の南西部，T25h₈区。

規模と平面形　長軸4.14m，短軸3.63mの長方形である。

主軸方向　N－36′－W

壁　壁高は13～38cmで，やや外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁付近を中心に焼土の広がりがある。

ピット　2か所（P_1～P_2）。P_1は長径40cm，短径30cmの不定形で，深さ34cm。P_2は長径50cm，短径45cmの円形で，深さ44cm。それぞれの性格は不明である。

炉　中央部から北西寄りに位置し，長径40cm，短径30cmの楕円形を呈する地床炉である。

炉土層解説

1　明赤褐色　焼土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　明 褐 色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック少量
3　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量

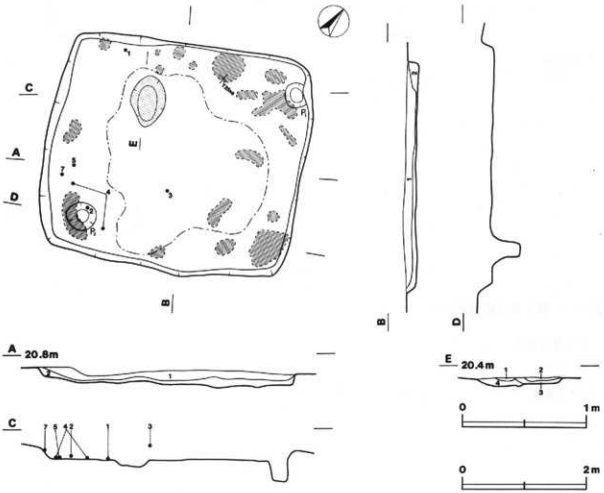
覆土　2層からなる自然堆積土層である。

土層解説

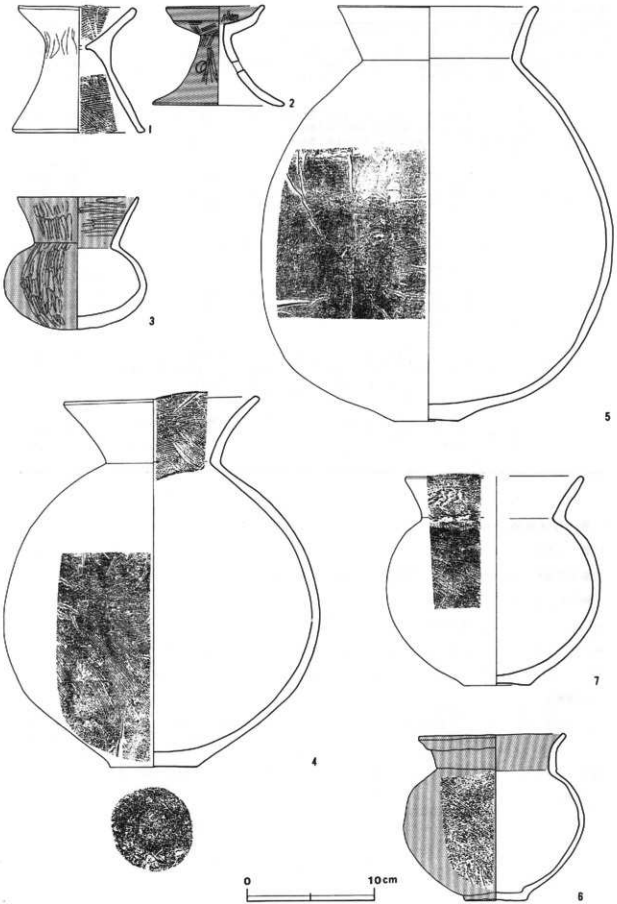
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

遺物　覆土下層から上層にかけて，土師器の器台脚部片4点他土師器片123点が出土している。特に，南コーナー付近から多く出土している。第11図1の器台は，完形で西コーナー付近の床面から逆位で，2の器台は，南コーナー付近のピット内から正位で，3の坩は，中央部の覆土上層から正位で，4の壺は，南コーナー付近の下層から出土している。5の壺，7の小形壺は，南コーナー付近の中層から出土している。

所見　本跡は，床面に焼土塊が散在していることから焼失家屋と思われる。出土遺物から古墳時代前期（4世紀）の住居跡と考えられる。



第10図　第3号住居跡実測図



第11図　第3号住居跡出土遺物実測図

第３号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第11図 1	器台 土師器	A 9.3 B 10.0 D 10.5 E 6.7	脚部は「ハ」の字状に下方へ開く。器受部は外傾して立ち上がる。器受部中央に単孔。	器受部外面ハケ目整形後一部ナデ，内面ハケ目整形。脚部内・外面ハケ目整形。	長石・パミス にぶい橙色 普通	P３ 100% 床面 PL14
2	器台 土師器	A 7.8 B 7.9 D 10.4 E 5.5	脚部は「ハ」の字状に下方に開く。器受部の下位に稜をもち外傾して立ち上がる。脚部に３孔。器受部中央に単孔。	器受部内・外面丁寧なヘラ磨き。脚部外面丁寧なヘラ磨き，内面ハケ目整形後ナデ。坏部内・外面，脚部外面赤彩。	長石・石英・雲母・赤褐色 普通	P４ 100% P２ PL14
3	坩 土師器	A 9.5 B 10.5	丸底。体部は偏平な球形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面丁寧なヘラ磨き，内面ハケ目整形後丁寧なヘラ磨き。体部内外面丁寧なヘラ磨き。口縁部内・外面及び体部外面赤彩。	雲母 赤色 普通	P138 100% 覆土上層 PL14
4	壺 土師器	A 15.3 B 29.3 C 6.8	平底。底部に擬痕あり。体部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ハケ目整形後ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P５ 95% 覆土下層 PL14
5	壺 土師器	A 15.8 B 32.7 C 5.0	平底。体部はたまご状を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ハケ目整形後ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・パミス にぶい黄橙色 普通	P６ 70% 覆土中層 PL14
6	小形壺 土師器	A 11.7 B 13.2 C 5.1	突出した平底。体部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。頸部は外傾して立ち上がり，口縁部は複合口縁。	口縁部・頸部内面ハケ目整形後ナデ，外面ナデ，輪積み痕有り。体部内面ヘラナデ，外面ハケ目整形後ナデ。口縁部・頸部及び体部外面赤彩。	長石・パミス 明赤褐色 普通	P７ 95% 覆土中 PL14
7	小形壺 土師器	A [14.2] B 16.4 C 5.3	平底。体部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部・体部外面ハケ目整形後ナデ。口縁部内面ハケ目整形。	長石・石英・雲母・スコリア・パミス にぶい黄色 普通	P８ 60% 覆土中層 体部外面煤付着 PL15

第４号住居跡（第12図）

位置　調査区の南西部，T25g₈区。

規模と平面形　長軸［6.22］m，短軸［5.66］mの方形と推定される。

主軸方向　N－29°－W

壁　削平により，北部の壁が残るのみである。壁高は2～12cmである。

床　平坦である。削平のため，遺存状態が悪い。中央部から南寄りに焼土の広がりが見られる。

炉　中央部から北西寄りに位置し，長径68cm，短径44cmの不整楕円形を呈する地床炉である。

炉土層解説

1　赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　明赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量
4　赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
7　橙色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量

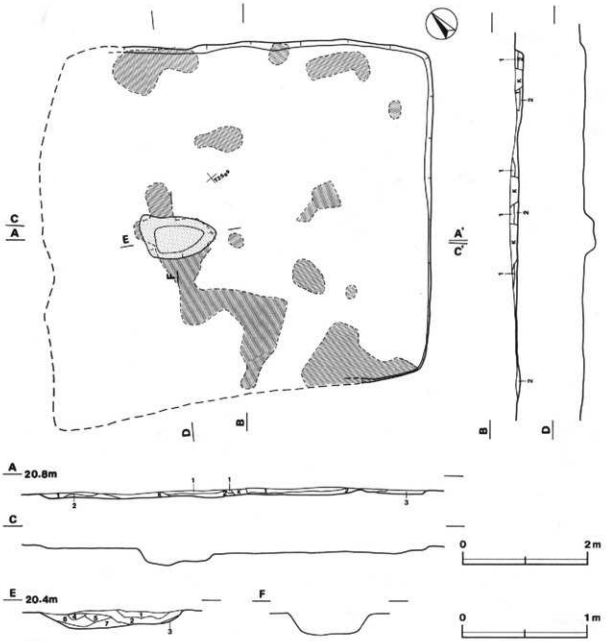
覆土　上面は削平され，覆土がわずかに残るだけである。３層からなる自然堆積土層である。

土層解説

1　褐灰色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物　本跡からの出土遺物は無い。

所見　本跡は，床面から炭化物及び焼土塊が確認されている事から焼失家屋と考えられる。本跡の時期は不明である。



第12図　第4号住居跡実測図

第5号住居跡（第13・14図）

位置　調査区の西部，T25b₀区。

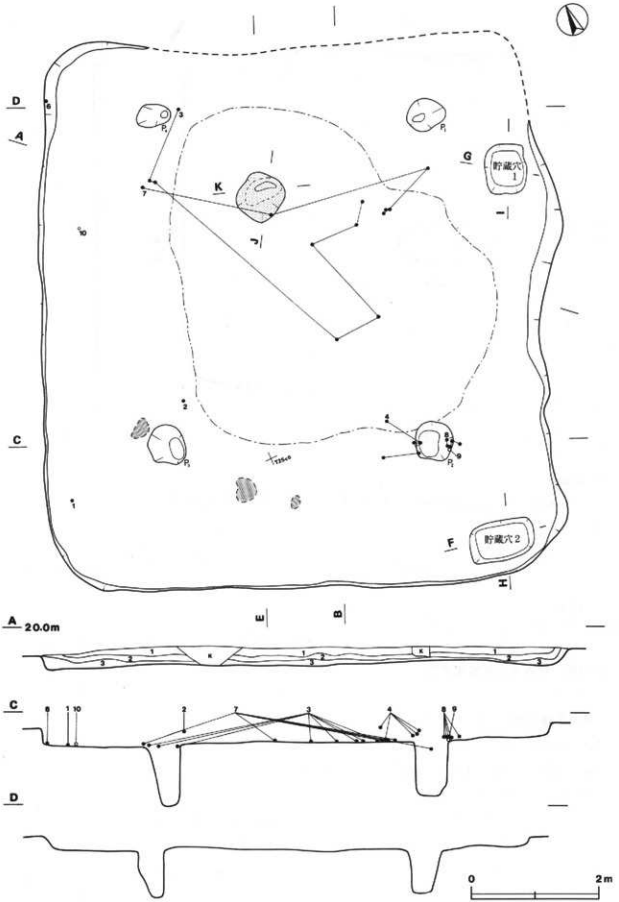
規模と平面形　長軸［8.48］m，短軸7.90mの方形と推定される。

主軸方向　N－26°－E

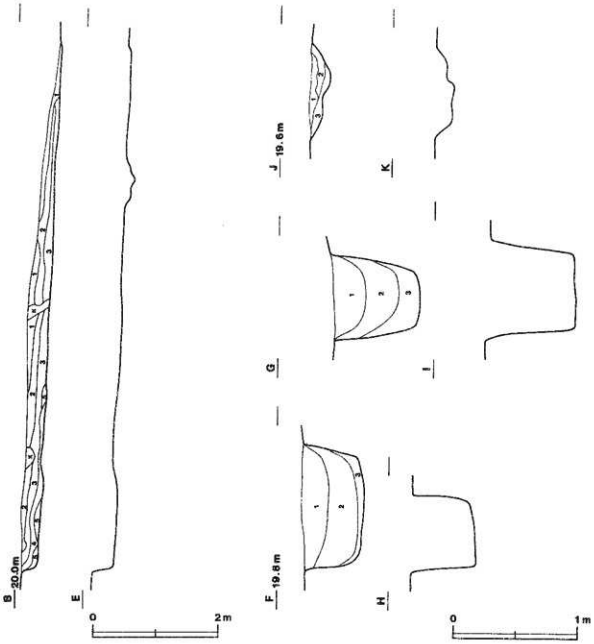
壁　壁高は26～32cmで，外傾して立ち上がる。北部および北東部の壁の一部は，削平により確認できない。

床　平坦で，比較的柔らかく，踏み固めは弱い。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1は長径62cm，短径52cmの楕円形で，深さ64cm。P_2は径65cmの円形で，深さ84cm。P_3は長径66cm，短径56cmの楕円形で，深さ92cm。P_4は長径54cm，短径36cmの楕円形で，深さ76cm。いずれも主柱穴と考えられる。



第13図　第５号住居跡実測図



第14図　第5号住居跡実測図

炉　中央部から北寄りに位置し，長径80cm，短径76cmの不整円形を呈した地床炉である。

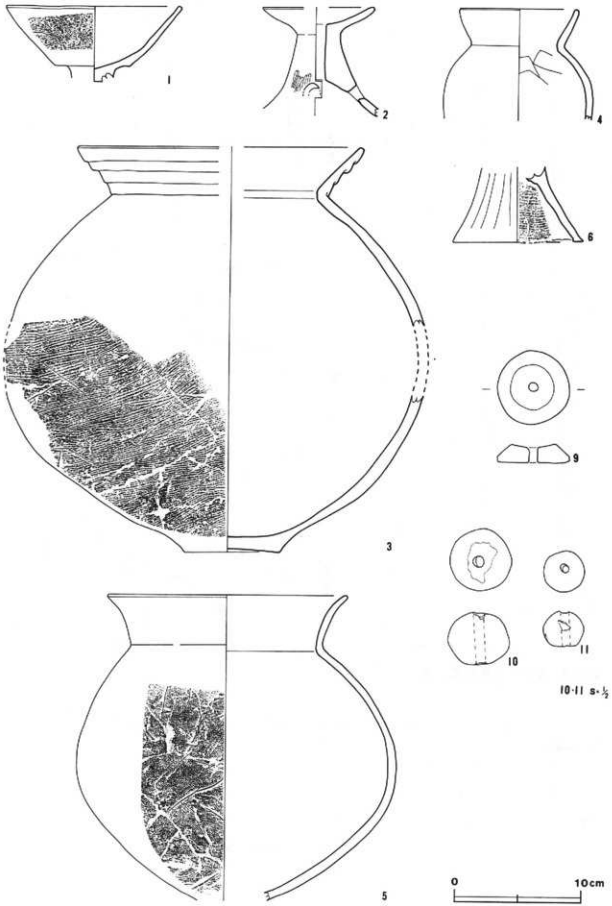
炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土大・中ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子少量
3　にぶい赤褐　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

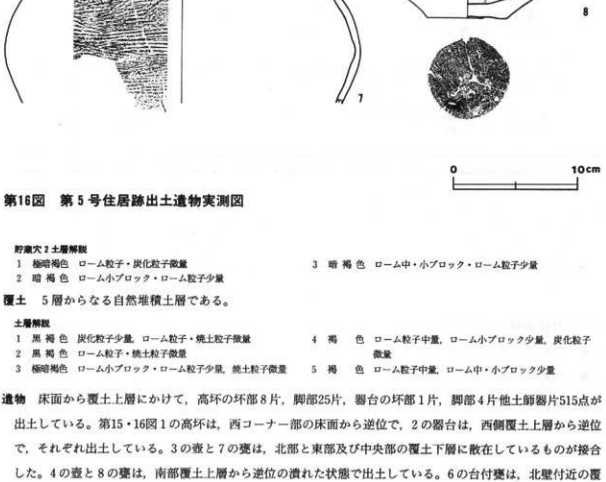
貯蔵穴　貯蔵穴1は，東壁際北東コーナー寄りに位置し，長軸80cm，短軸66cmの隅丸長方形で，深さは72cmである。貯蔵穴2は，南コーナー部に位置し，長軸103cm，短軸64cmの隅丸長方形で，深さは50cmである。いずれも平坦な底面から外傾して立ち上がり，断面は逆台形である。

貯蔵穴1土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子少量



第15図　第５号住居跡出土遺物実測図



第16図　第5号住居跡出土遺物実測図

貯蔵穴2土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

覆土　5層からなる自然堆積土層である。

土層解説

1　黒褐色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5　褐色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量

遺物　床面から覆土上層にかけて，高坏の坏部8片，脚部25片，器台の坏部1片，脚部4片他土師器片515点が出土している。第15・16図1の高坏は，西コーナー部の床面から逆位で，2の器台は，西側覆土上層から逆位で，それぞれ出土している。3の壺と7の甕は，北部と東部及び中央部の覆土下層に散在しているものが接合した。4の壺と8の甕は，南部覆土上層から逆位の潰れた状態で出土している。6の台付甕は，北壁付近の覆土上層から逆位で出土している。9の紡錘車は，完形で南東部覆土下層から出土している。10の球状土錘は，北西部覆土下層から，5の台付甕，11の球状土錘は，覆土中から出土している。なお，覆土中より極微量の炭化種子が出土している。

所見　本跡は，出土遺物から古墳時代前期（4世紀）の住居跡と考えられる。

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15図 1	高坏 土師器	A 13.9 B（5.9）	脚部欠損。坏部下端に稜をもち，やや内彎して立ち上がる。	坏部外面ハケ目整形後ナデ。内面ナデ。	石英・スコリア 明褐色 普通	P9 50% 床面 PL15
2	器台 土師器	A［8.9］ B（8.5） E（6.4）	脚部の裾部一部欠損。器受部大部分欠損。脚部は「ハ」字状に下方に開く。器受部中央に単孔。脚部2孔。	器受部内面ヘラ磨き。脚部内面ハケ目整形後ナデ，外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P10 60% 覆土上層 PL15
3	壺 土師器	A［22.6］ B（32.0） C 7.7	体部剥離。平底。体部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。複合口縁。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ，内面ナデ。	石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P11 45% 覆土下層 PL15
4	壺 土師器	A 9.4 B（8.7）	体部上半から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状を呈し，口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横ナデ，内面ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P12 40% 覆土上層 PL15

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15図 5	台付甕 土師器	A 19.0 B (24.0)	台欠損。体部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。頸部ハケ目整形。体部外面ハケ目整形後ナデ，内面ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい黄橙色 普通	P13 60% 覆土中 PL15
6	台付甕 土師器	D 10.4 E (5.9)	台部片。台部は「八」字状に下方に開く。	台部外面はヘラナデ。内面はハケ目整形後ナデ。	長石・スコリア 明褐色 普通	P14 10% 覆土上層 PL15
第16図 7	甕 土師器	A [23.2] B (14.0)	口縁部一部，体部上半の破片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部・体部外面ハケ目整形。内面は横ナデ。	長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P15 10% 覆土下層 PL16
8	甕 土師器	B (7.1) C 6.4	底部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラナデ，内面ヘラ削り。草の実痕有り。	長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P16 30% 覆土上層 PL16

図版番号	種別	計測値(cm) 長さ	幅	孔径	重量(g)	出土地点	備考
第15図 9	紡錘車	1.4	5.8	0.7	45.7	覆土下層	DP6 PL16
10	球状土錘	2.6	3.3	0.6	26.2	覆土下層	DP7 PL16
11	球状土錘	1.8	2.2	0.4	7.5	覆土中	DP8 PL16

第6号住居跡（第17図）

位置　調査区の中央部，T26b₂区。

規模と平面形　長軸6.00m，短軸5.90mの方形である。

主軸方向　N－51°－E

壁　壁高は15～44cmで，やや外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1は長径42cm，短径37cmの楕円形で，深さ52cm。P_2は長径50cm，短径24cmの楕円形で，深さ68cm。P_3は長径60cm，短径40cmの楕円形で，深さ62cm。P_4は径60cmの円形で，深さ50cm。いずれも主柱穴と考えられる。

炉　中央部から北寄りに位置し，長径70cm，短径44cmの楕円形を呈する地床炉である。

炉土層解説

1　明赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，ローム粒子少量
2　明褐色　ローム粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子少量

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長径56cm，短径42cmの楕円形で，深さは42cmである。平坦な底面からほぼ垂直に立ち上がり，断面は方形に近い。

貯蔵穴土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量

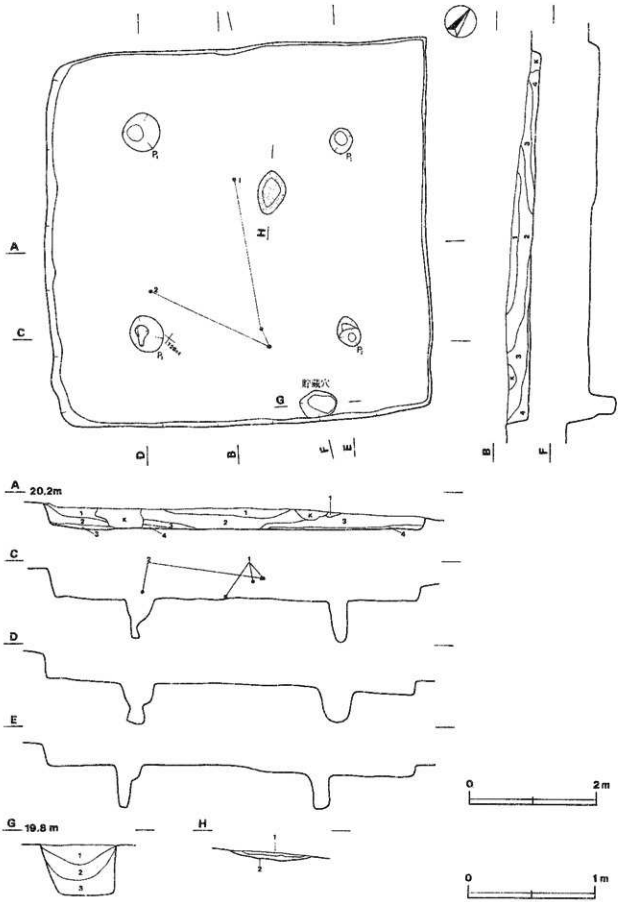
覆土　4層からなる自然堆積土層である。

土層解説

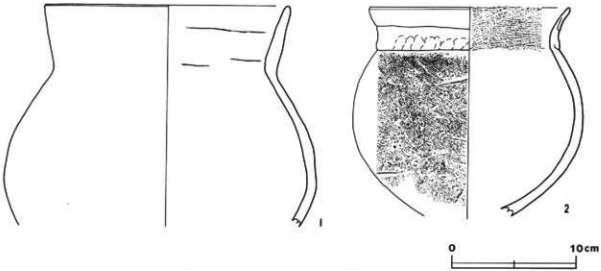
1　黒色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物　高坏の口縁部片2点，体部片12点，脚部片5点，甕の口縁部片9点，底部片350点，底部片3点の土師器片が出土している。第18図1・2の甕は，住居中央西寄りの覆土下層から潰れた状態で出土している。

所見　本跡は，出土遺物から古墳時代前期（4世紀）の住居跡と考えられる。



第17図　第6号住居跡実測図



第18図　第６号住居跡出土遺物実測図

第６号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図 1	甕 土師器	A 19.7 B (17.8)	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は「く」の字状を呈し、外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ナデ外面丁寧なナデ。口縁部に輪積み痕有り。	長石 にぶい黄橙色 普通	P17 20% 覆土下層 PL16
2	甕 土師器	A 16.2 B (16.7)	体部下半欠損。体部は球形状で中位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。複合口縁。	口縁部内面ハケ目整形後ナデ，外面指頭押圧痕。体部内・外面ハケ目整形後ナデ。	石英・パミス・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P18 20% 覆土下層 PL16

第７号住居跡（第19図）

位置　調査区の中央部，T26d$_9$区。

規模と平面形　長軸［5.44］m，短軸［5.00］mの方形と推定される。

長軸方向　N－27.5°－W

壁　壁高は（8～12）cmで，外傾して立ち上がる。北西・南西壁の一部は削平により確認できない。

床　平坦であるが，比較的柔らかく，一部攪乱を受けている。南東壁付近に焼土の広がりがある。

炉　中央部から南寄りに位置し，長径60cm，短径42cmの楕円形を呈した地床炉である。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子少量
2　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

覆土　上面が削平され，覆土がわずかに残るのみである。７層からなる自然堆積土層である。

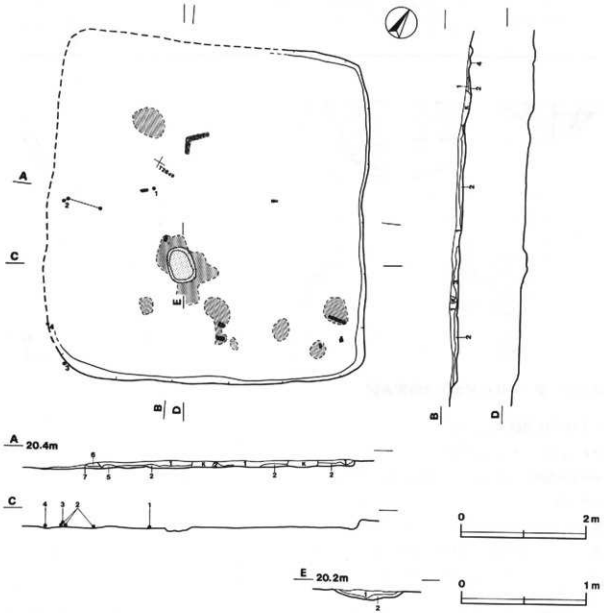
土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム中ブロック少量
3　赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　暗赤褐色　ローム大・中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

遺物　床面から，器台の脚部片３点他70点の土師器片が出土している。第20図１の器台は，中央部付近の床面から，２の坩は，西壁付近の床面から，３の甕は，南コーナー部の床面から，４の甑は，南コーナー付近の床面から，それぞれ潰れた状態で出土している。

所見　本跡は，床面に焼土塊が散在していることから焼失家屋と思われる。出土遺物から古墳時代前期（４世紀）

の住居跡と考えられる。

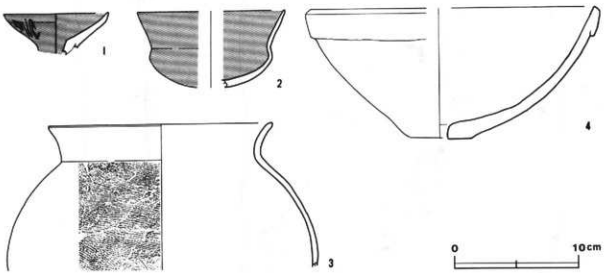


第19図　第7号住居跡実測図

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 1	器台 土師器	A 8.4 B (2.1)	脚部欠損。坏部一部欠損。坏部は外傾して立ち上がる。上位に稜をもつ。器受部中央に軍孔。	器受部外面ハケ目整形後最位のヘラ磨き，端部横位のハケ目痕有り，内面丁寧なヘラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア にぶい赤褐色 普通	P19　40% 床面 PL16
2	坩 土師器	A [11.9] B (6.1)	体部・口縁部一部欠損。口縁部はやや内彎気味に外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ磨き。口縁部・体部内・外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P20　40% 床面 PL16
3	甕 土師器	A 18.1 B (11.6)	口縁部一部欠損，体部下半欠損。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ハケ目整形後ナデ。体部外面ハケ目整形。内面はナデ，一部にハケ目。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P21　20% 床面 体部外面に煤付着 PL17

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 4	甕 土師器	A［23.6］ B 10.3 C 5.2	平底。底部中央に単孔。体部はお椀型で，内彎して立ち上がる。口縁部は複合口縁。	口縁部・体部・底部外面ナデ，内面ナデ。	長石・雲母・パミス 橙色 普通	P22 30% 床面 体部内・外面剥離 PL17



第20図　第7号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡（第21図）

位置　調査区の中央部，S26is区。

規模と平面形　長軸4.49m，短軸4.24mの方形である。

主軸方向　N－7°－E

壁　壁高は27～47cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部から東壁寄りにかけて踏み固められている。焼土の広がりがある。

炉　中央部から西寄りに位置し，長径71cm，短径54cmの楕円形を呈する地床炉である。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
2　赤褐色　焼土大・中ブロック・焼土粒子中量
3　暗赤褐色　焼土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

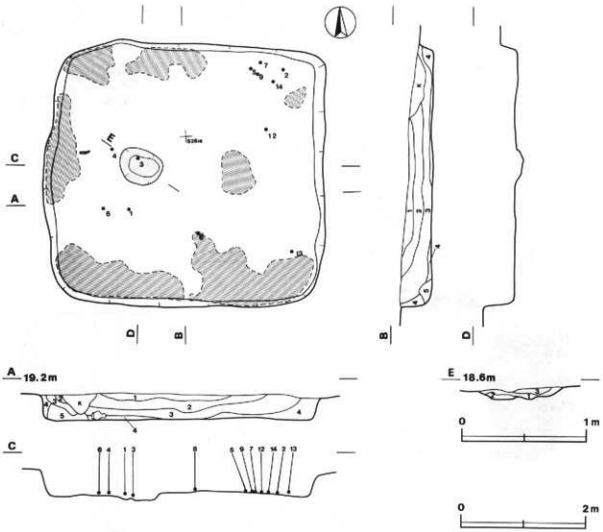
覆土　5層からなる自然堆積土層である。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量

遺物　高坏口縁部片2点，体部片6点，脚部片7点，器台器受部片1点，脚部片2点，甕口縁部片59点，体部片394点，底部片8点の土師器片が出土している。第22・23図2の鉢，5の小形壺，7の台付甕，9・12の甕，14の甑は北東コーナー覆土下層から床面にかけまとまった状態で出土している。1の鉢は潰れた状態で，6の台付甕は横位，3の器台は正位，4の粗製器台は横位の状態で中央部やや西寄りの床面から出土している。8の台付甕は住居中央からやや南寄り，13の甕は南東コーナー部から出土している。15の紡錘車は住居南西部から周縁部欠損の状態で出土している。16～18の球状土錘はいずれも半分を欠損した状態で出土している。なお，覆土中より少量の炭化種子が出土している。

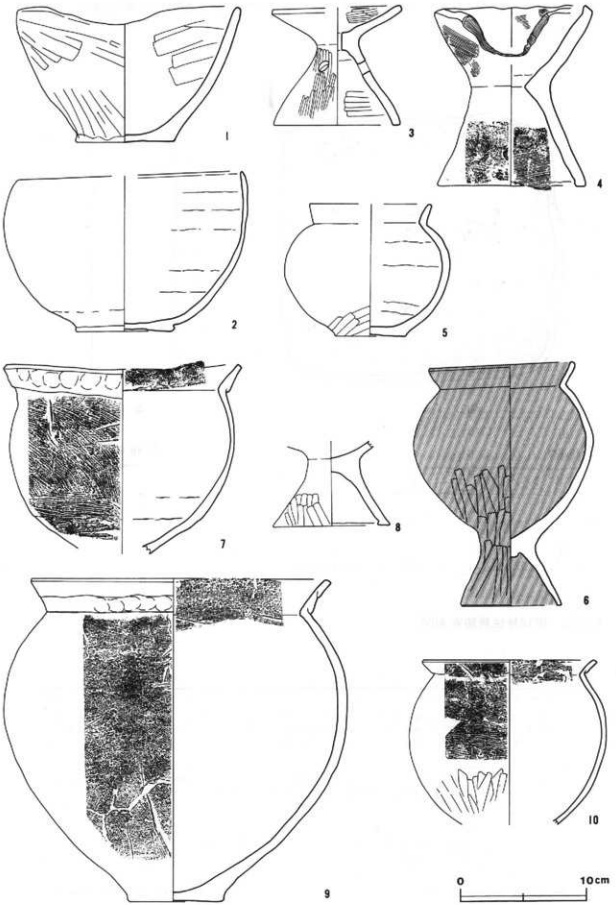
所見　床面に焼土塊が見られることから焼失家屋と思われる。本跡は，出土遺物から古墳時代前期（4世紀）の住居跡である。



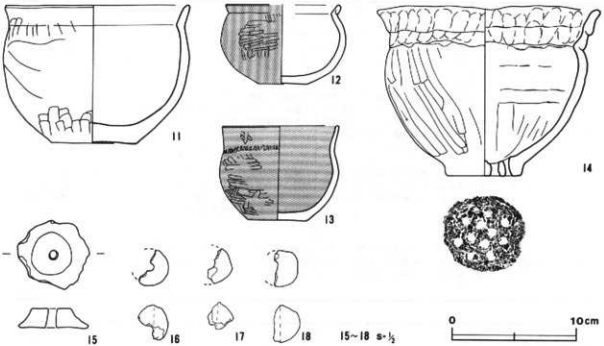
第21図　第10号住居跡実測図

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 1	鉢 土師器	A 17.6 B 10.6 C 7.8	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は底部から外傾して立ち上がり，頸部でさらに外傾して口縁部となる。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ヘラ削り一部ナデ。底部外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P24　95% 床面 PL17
2	鉢 土師器	A [17.6] B 12.6	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は半球形を呈する。口縁部は内彎気味につまみ上げて立ち上がる。	体部内面ナデ，外面上半ハケ目整形後ナデ，下半ヘラ削り後ナデ。 **輪積み痕有り。**	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P25　70% 床面 PL17
3	器台 土師器	A [10.2] B 9.4 D 10.0 E 6.5	器受部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は外傾して立ち上がる。脚部に3孔。器受部中央に単孔。	器受部内面ヘラ磨き，外面ナデ。脚部内面ヘラ削り後ナデ，外面ヘラ磨き。	石英・雲母・パミス 明黄褐色 普通	P26　80% 床面 PL17



第22図　第10号住居跡出土遺物実測図(1)



第23図　第10号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 4	粗製器台 土師器	A 12.4 B 13.2 D 11.7 E 8.0	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は外傾して立ち上がる。中央に貫通口を有す。器受部の一部に切り込みを入れている。	器受部内・外面ハケ目整形後ナデ。脚部内面ヘラ削り，外面ハケ目整形後ナデ，切り込み部ハケ目整形後ナデ。	雲母・スコリア・パミス にぶい黄褐色 普通	P27 100% 床面 二次焼成痕有り PL17
5	小形壺 土師器	A [9.6] B 10.4 C 5.4	口縁部一部欠損。やや突出ざみの平底で中央がわずかにくぼむ。体部は球形で中位に最大径をもつ。口縁部はわずかに外傾して立ち上がる。複合口縁。	口縁部内・外面ハケ目整形後ナデ。体部内面ナデ，外面上半ハケ目整形後ナデ，下半ヘラ削り後ナデ。輪積み痕有り。	長石・パミス 明赤褐色 普通	P28 95% 床面 PL17
6	台付壺 土師器	A 11.5 B 19.2 D 8.0 E 4.5	台部は「ハ」の字状に開く。体部は球形状で上位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状を呈する。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内面ハケ目整形後ナデ，外面ナデ，頸部横ナデ，体部内面ナデ，外面上半ハケ目整形後ナデ，下半ヘラ削り後ナデ。台部内・外面ヘラ削り後ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P29 100% 床面 二次焼成痕有り PL17
7	台付壺 土師器	A 18.6 B (14.9) C 5.5	台部欠損。体部は球形状で中位に最大径を持つ。口縁部は外反して立ち上がる。複合口縁。	口縁部内面横ナデ，外面指頭押圧痕有り。体部内面横ナデ，外面横位ハケ目整形後ナデ。輪積み痕有り。	長石・雲母・スコリア 明黄褐色 普通	P30 80% 床面 PL17
8	台付壺 土師器	B (6.7) D 9.2 E 5.3	台部片。台部は「ハ」の字状に下方へ開き，下方でやや内彎気味に裾部に至る。	台部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・スコリア・パミス 明黄褐色 普通	P31 20% 覆土下層 PL17
9	壺 土師器	A 23.7 B 25.2 C 7.7	平底。体部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。頸部は「く」の字状を呈し，口縁部はやや外反して立ち上がる。複合口縁。	口縁部内面ハケ目整形後頸部横ナデ，外面指頭押圧痕有り。体部内面横ナデ，外面ハケ目整形後ナデ。口縁部外面輪積み痕有り。	長石・雲母・スコリア・パミス 明赤褐色 普通	P32 90% 床面 PL18
10	壺 土師器	A 13.8 B (12.8)	体部下半欠損。体部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。頸部は「く」の字状を呈し，外反して立ち上がる。複合口縁。	体部内面横ナデ，外面上半ハケ目整形後ナデ，下半ヘラ削り後ナデ。口縁部内面ハケ目整形後ナデ，外面ナデ。	石英・雲母・スコリア・パミス 明赤褐色 普通	P33 40% 覆土中 PL18

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第23図 11	壺 土師器	A 14.8 B 11.2 C 6.9	口縁部一部欠損。体部は球形を呈し，最大径をやや上位にもつ。口縁部は緩く外傾して立ち上がる。	口縁部内面ナデ，頸部横ナデ，外面ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ，上半丁寧なナデ。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P34 98% 覆土中 PL18
12	甕 土師器	A［9.2］ B 6.3 C 3.8	口縁部・体部一部欠損。平底。体部はやや偏平な球形を呈し，最大径を中位にもつ。頸部は「く」の字状を呈し，口縁部は緩く外傾しながら立ち上がる。複合口縁。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部内面丁寧なナデ，外面ヘラ磨き。体部外面及び口縁部内・外面赤彩。	雲母・パミス 赤色 普通	P35 60% 床面 PL18
13	甕 土師器	A 9.2 B 7.6 C 4.5	口縁部・体部上半一部欠損。平底。体部は球形を呈し，最大径をやや上位にもつ。口縁部は緩く外傾する。	口縁部内面横ナデ，外面ヘラ磨き。頸部にヘラ状工具による刻み。体部内面・外面ナデ，外面ヘラ磨き。口縁部内・外面及び体部外面赤彩。	雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P36 70% 覆土下層 口縁部内面まだら に剥離 PL18
14	甑 土師器	A 18.0 B 13.6 C 6.0	突出した平底。体部は内湾して立ち上がる。口縁部は緩く外反し，粘土紐を貼り付け複合口縁状を呈している。	口縁部内・外面指頭押圧痕有り。体部内・外面ヘラ削り後ナデ。輪積み痕有り。	雲母・スコリア・パミス 橙色 普通	P37 100% 床面 PL19

図版番号	種別	計測値（cm）				出土地点	備考
		長さ	幅	孔径	重量（g）		
第23図15	紡錘車	(1.7)	(5.7)	0.8	(41.3)	覆土中	DP9 PL18
16	球状土錘	(1.8)	(2.0)	—	(3.3)	覆土中	DP10 PL18
17	球状土錘	(1.5)	(1.9)	—	(2.1)	覆土中	DP11 PL18
18	球状土錘	2.0	(2.0)	—	(3.7)	覆土中	DP12 PL18

第12号住居跡（第24図）

位置　調査区の北西部，S26d$_2$区。

規模と平面形　長軸6.35m，短軸5.55mの長方形である。

主軸方向　N－9°－W

壁　壁高は37～61cmで，やや外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部から東壁寄りにかけて踏み固められている。

ピット　1か所（P_1）。P_1は長径61cm，短径56cmの楕円形で，深さ42cm。性格は不明である。

炉　中央部からやや北寄りに位置し，長径120cm，短径78cmの不整楕円形を呈した地床炉である。

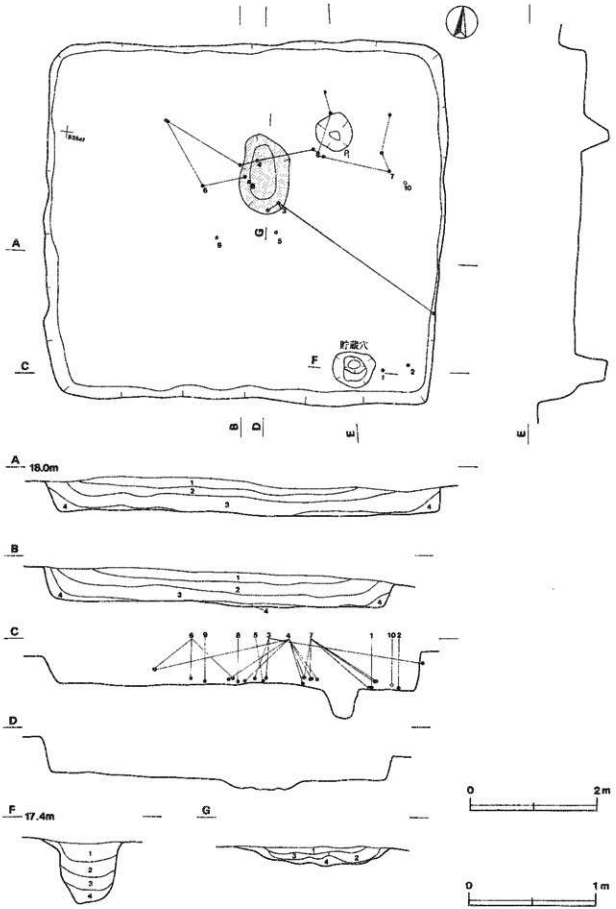
炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　赤褐色　焼土大・小ブロック・焼土粒子少量
3　赤褐色　ローム粒子・焼土中・小ブロック・焼土粒子少量
4　明褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量

貯蔵穴　南東のコーナー付近に位置し，長径68cm，短径55cmの不整円形で，深さは50cmである。平坦な底面から外傾して立ち上がり，断面は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量



第24図　第12号住居跡実測図

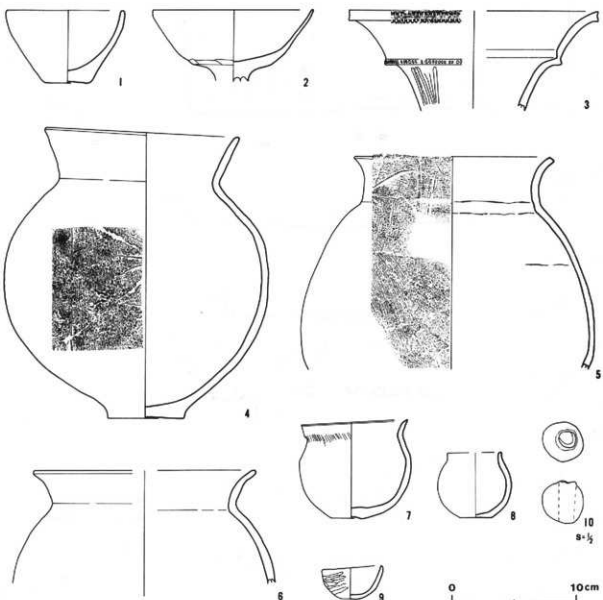
覆土　4層からなる自然堆積土層である。

土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量	3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	4	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック小量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　本跡中央部を中心に土師器片1,836点と球状土錘1点が出土している。第25図1の鉢は正位，2の高坏は逆位の状態で南東コーナー床面から出土している。3の壺，5の甕は中央部覆土下層から出土している。4の甕は中央部出土のものと北東コーナー付近出土のものが接合した。6の甕は中央部からやや北寄りの覆土下層から出土している。7の甕は北東コーナー付近の床面から出土している。8・9のミニチュア土器は中央部覆土下層から出土している。10の球状土錘は東壁付近の床面から出土している。

所見　本跡は，出土遺物から古墳時代前期（4世紀）の住居跡と考えられる。



第25図　第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第25図 1	鉢 土師器	A 9.6 B 5.8 C 3.4	口縁部・体部上半一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	体部内・外面ヘラ削り後ナデ。底部外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P38 85% 床面 PL18
2	高 坏 土師器	A 12.9 B (5.8)	坏部。坏部下端に稜を持ち，内彎気味に外傾しながら立ち上がる。	坏部内面ハケ目整形後丁寧なナデ，外面丁寧なナデ。	石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P39 60% 床面 PL18
3	壺 土師器	A [20.2] B (7.9)	口縁部片。有段口縁で中位に段を持ち，外反しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラ磨き，中位の段刻み，端部刻み後横ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P40 10% 覆土下層 PL18
4	甕 土師器	A 15.6 B 22.6 C 6.1	口縁部・体部一部欠損。やや尖出した平底。体部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。頸部は「く」の字状を呈し，緩く外傾しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ハケ目整形後ナデ。体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P41 65% 覆土下層 PL19
5	甕 土師器	A 16.1 B (17.0)	体部下半欠損。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に外反する。	口縁部内面ナデ，外面ハケ目整形後横ナデ。体部内面ナデ，外面ハケ目整形上半に横ナデ。輪積み痕有り。	長石・石英・スコリア にぶい黄橙色 普通	P42 15% 覆土下層 PL18
6	甕 土師器	A [18.0] B (9.0)	口縁部・体部片。体部は内彎している。口縁部は外反しながら立ち上がる。	口縁部内面横ナデ，外面ヘラナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・パミス 橙色 普通	P43 5% 覆土下層 PL19
7	小形甕 土師器	A 8.6 B 7.9 C 2.5	体部一部欠損。平底。体部は球形を呈し，最大径をやや上位にもつ。口縁部は緩く外反しながら立ち上がる。	口縁部内面ナデ，外面ハケ目整形後ナデ，端部横ナデ。頸部外面最位ハケ目痕。体部内面ナデ，外面上半ハケ目整形後ナデ，下半ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P44 70% 床面 PL19
8	ミニチュア土器 土師器	A [4.3] B 5.2 C 2.4	口縁部一部欠損。平底。体部は球形で中位に最大径をもつ。口縁部はやや外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 明黄褐色 普通	P45 95% 覆土下層 PL19
9	ミニチュア土器 土師器	A 4.9 B 2.2 C 1.3	平底。体部は半球形状で上位に最大径をもつ。	体部内面ナデ，外面上半ハケ目整形後ヘラ磨き下半ヘラ磨き。底部外面ヘラ磨き。	雲母・パミス 褐色 普通	P46 100% 覆土下層 PL19

図版番号	種別	計測値 (cm) 長さ	幅	孔径	重量 (g)	出土地点	備考
第25図10	球状土錘	2.3	2.3	0.3	9.4	床面	DP13 PL19

第13号住居跡（第26図）

位置　調査区の中央部，S26g6区。

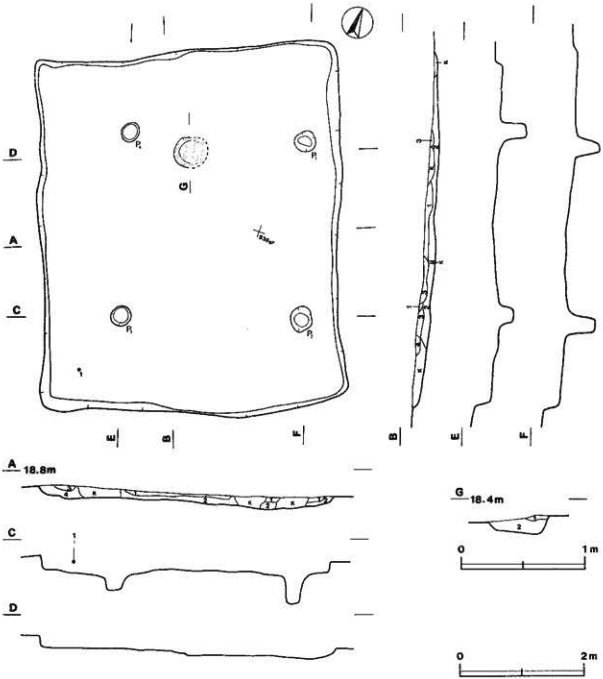
規模と平面形　長軸5.85m，短軸4.78mの長方形である。

主軸方向　N－21.5°－W

壁　壁高は4～22cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，踏み固めは弱く，柔らかい。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1は径35cmの円形で，深さ40cm。P_2は長径44cm，短径34cmの楕円形で，深さ42cm。P_3は径32cmの円形で，深さ18cm。P_4は径30cmの円形で，深さ40cm。いずれも主柱穴と考えられる。



第26図　第13号住居跡実測図

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第27図 1	坩 土師器	B (11.1) C 3.1	口縁部欠損。平底。体部はやや偏平な球形を呈し、最大径を中位にもつ。	体部外面ハケ目整形後ナデ。内面はナデ。内・外面赤彩。	長石・雲母 赤色 普通	P47 80% 覆土中層 体部外面に煤付着 PL19

図版番号	種別	計測値 (cm)				出土地点	備考
		長さ	幅	孔径	重量 (g)		
第27図2	球状土錘	2.1	1.9	0.5	4.4	覆土中	DP14 PL19

炉　中央部から北西寄りに位置し，径55～45cmの円形を呈した地床炉である。

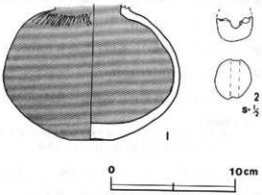
炉土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
2　橙　　色　ローム粒子・焼土粒子少量

覆土　4層からなる自然堆積土層である。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム中・小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
4　黒 褐 色　炭化物・炭化粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量



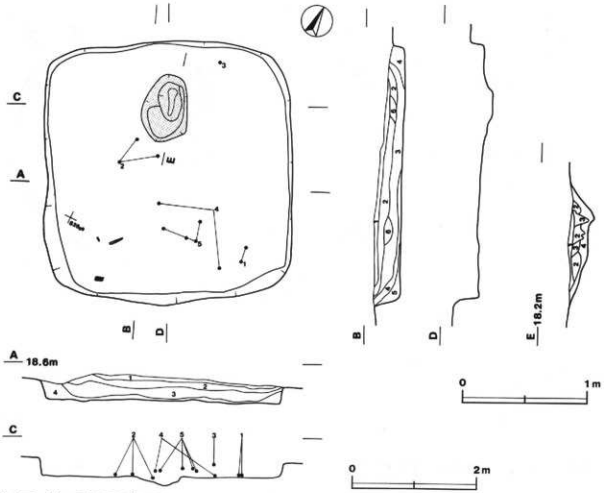
第27図　第13号住居跡出土遺物実測図

遺物　高坏の脚部片10点，器台の脚部片2点他，土師器片172点が出土している。第27図1の坩は南コーナー付近の覆土中層から正位で出土している。2の球状土錘は覆土中から半分欠損の状態で出土している。なお，覆土下層より微量の炭化種子・炭化米が出土している。

所見　本跡は，出土遺物等から古墳時代前期（4世紀）の住居跡と考えられる。

第14号住居跡（第28図）

位置　調査区の中央部，S26f₉区。



第28図　第14号住居跡実測図

規模と平面形　長軸4.20m，短軸3.90mの方形である。

主軸方向　N－30°－W

壁　壁高は22～40cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，踏み固めは弱い。

炉　中央部から北西寄りに位置し，長径110cm，短径75cmの楕円形を呈した地床炉である。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，ローム粒子微量
3　極赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子微量
4　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量

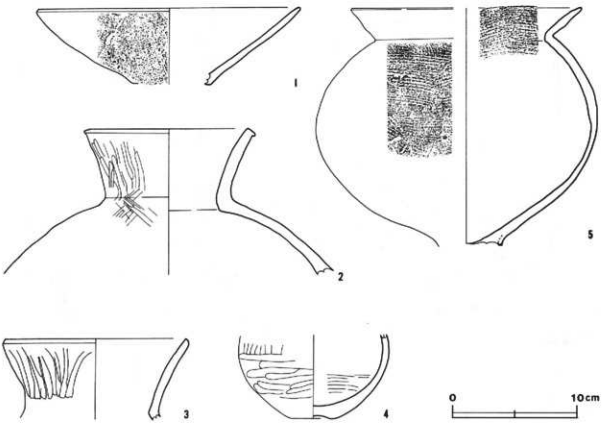
覆土　6層からなる人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子小量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
6　極赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器細片180点が，住居中央部を中心に出土している。第29図1の高坏は南東コーナー付近から出土している。2は中央部，3は北壁付近から出土している壺である。4の小形壺は南東コーナー部出土のものと中央部出土のものが接合した。5の台付甕は中央部やや南寄りから出土している。

所見　本跡は，出土遺物から古墳時代前期（4世紀）の住居跡と考えられる。



第29図　第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 1	高坏 土師器	A 21.1 B (6.2)	坏部。坏部は内彎気味に外傾しながら立ち上がる。	坏部内面ヘラ削り後ナデ，外面ハケ目整形後ナデ。	石英・スコリア・パミス 橙色 普通	P48 45% 覆土下層 PL19
2	壺 土師器	A 13.1 B (11.7)	頸部から口縁部片。体部から口縁部にかけて外反しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラ削り後ヘラ磨き。体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	雲母・スコリア・パミス 橙色 普通	P49 15% 覆土下層 PL20
3	壺 土師器	A 14.8 B (6.6)	口縁部。口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・スコリア・パミス 橙色 普通	P50 10% 覆土中層 PL20
4	小形壺 土師器	B (6.7) C 3.6	口縁部・体部上半欠損。平底。体部は球形を呈し，中位に最大径をもつ。	体部内面ヘラ削り後丁寧なナデ，外面ヘラ磨き。	雲母・スコリア・パミス 浅黄橙色 普通	P51 60% 床面 PL20
5	台付甕 土師器	A [18.6] B (19.1)	台部・口縁部から体部の一部欠損。体部は球形状で中位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状に外傾し口縁部に至る。	口縁部内・外面ハケ目整形後ナデ，端部磨ナデ。体部内・外面下半ヘラ削り後ナデ，外面上半ハケ目整形後ナデ。	スコリア・パミス 橙色 普通	P52 55% 覆土下層 PL20

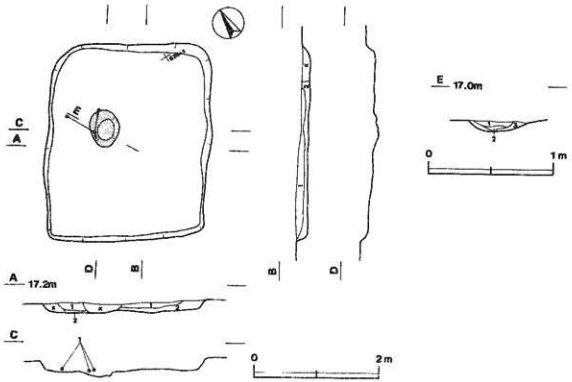
第15号住居跡（第30図）

位置　調査区の北西部，S26a1区。

規模と平面形　長軸3.14m，短軸2.62mの長方形である。

主軸方向　N－33.5°－E

壁　壁高は10～20cmで，やや外傾して立ち上がる。



第30図　第15号住居跡実測図

床　一部攪乱による凹凸が見られるが，全体的に平坦で，踏み固めは強い。

炉　中央部から北西寄りに位置し，長径60cm，短径46cmの楕円形を呈した地床炉である。

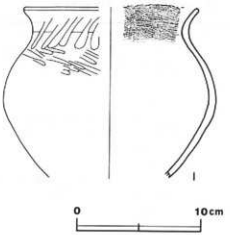
炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
3　橙　　色　ローム粒子・焼土粒子少量

覆土　2層からなる自然堆積土層である。

土層解説
1　極暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物　床面及び覆土下層から土師器片97点が出土している。特に，北西の壁付近から多く出土している。第31図1の小形甕は北西壁付近の床面から散在して出土している。

所見　本跡は，出土遺物から古墳時代前期（4世紀）の住居跡と考えられる。



第31図　第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図 1	小形甕 土師器	A［14.2］ B（13.7）	底部欠損，体部・口縁部一部欠損。体部はやや偏平の球形状で，中位に最大径をもつ。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部外面ハケ目整形後ヘラナデ，内面はナデ。体部外面ヘラナデ，内面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P53　40% 床面 体部外面剥離 PL20

第16号住居跡（第33図）

位置　調査区の北西部，R26i₁区。

規模と平面形　長軸（3.50）m，短軸3.15mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は5～10cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦であるが，踏み固めは弱い。

ピット　1か所（P_1）。P_1は長径82cm，短径44cmの楕円形で，深さ60cm。性格は不明である。

炉　中央部からやや北寄りに位置し，長径82cm，短径44cmの楕円形を呈する地床炉である。

炉土層解説
1　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子，焼土小ブロック少量
3　にぶい赤色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
4　赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量
5　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

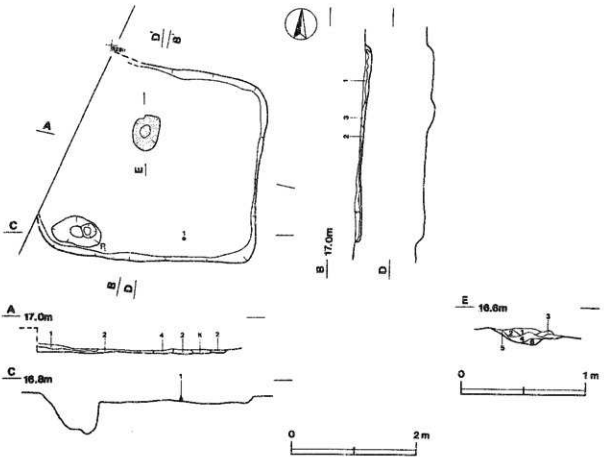
覆土　4層からなる人為堆積土層である。

土層解説
1　極暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量

第32図　第16号住居跡出土遺物実測図

遺物　出土遺物は少なく，高坏坏部片１点，器台脚部片１点，甕口縁部片２点，体部片75点が出土している。第32図のミニチュア土器は，南壁付近の覆土下層から出土している。

所見　本跡は，出土遺物が少ないが，床面から古墳時代前期の土師器片が出土していることから，古墳時代前期の住居跡と考えられる。



第33図　第16号住居跡実測図

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第33図 1	ミニチュア土器 土師器	A 〔5.8〕 B 4.8 C 3.3	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外反して立ち上がる。	体部内面ヘラ削り後ナデ痕部指頭押圧痕有り，外面ヘラ削り後ナデ。底部外面ヘラ削り後横ナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P.54 65% 覆土下層 PL.20

第17号住居跡（第34図）

位置　調査区の北西部，R26g₂区。

規模と平面形　長軸4.56m，短軸4.46mの方形である。

主軸方向　N－46°－W

壁　壁高は44～50cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部から南壁寄りに踏み固められている。中央部に焼土の広がりがある。

ピット　2か所（P_1～P_2）。P_1は長径48㎝，短径27㎝の楕円形で，深さ26㎝。出入り口施設にともなうものであると考える。P_2は径39㎝の円形，深さ38㎝で，性格は不明である。

炉　中央部から北西寄りに位置し，長径105㎝，短径66㎝の楕円形を呈した地床炉である。

炉土層解説

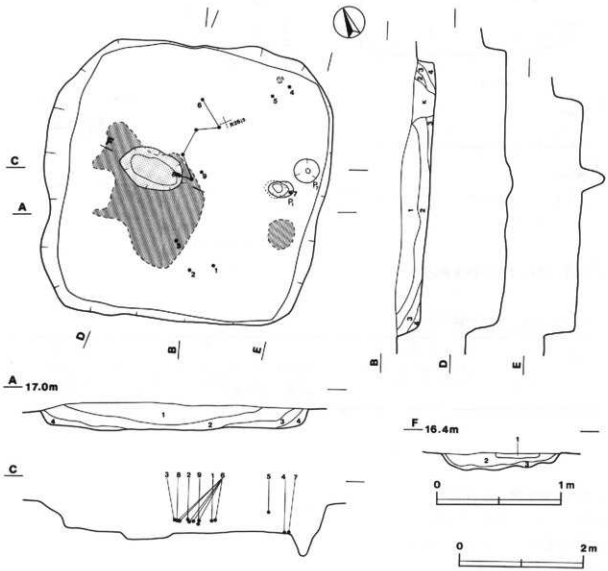
1　赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量，ローム粒子微量
2　赤 褐 色　焼土大・中ブロック，焼土粒子多量，ローム粒子微量
3　暗赤褐色　ローム大・中ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量

覆土　4層からなる自然堆積土層である。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　極暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

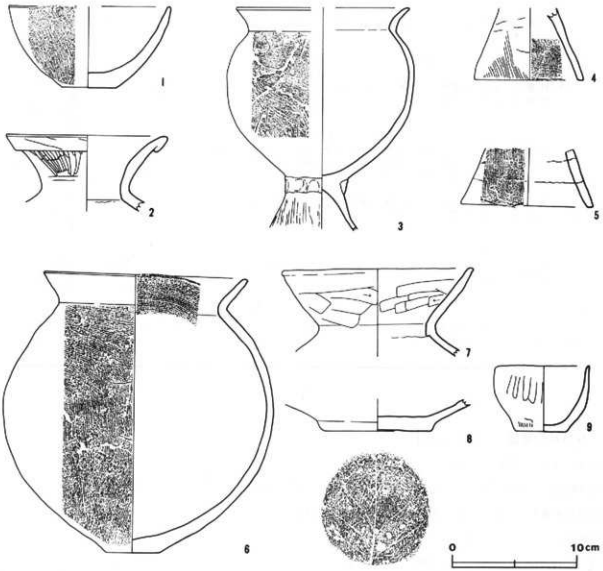
遺物　床面と覆土中層から，器台の口縁部1点，体部3点他土師器片536点が出土している。特に，中央部付近から多く出土している。第35図1の椀は南側の覆土中層から正位で，3の台付甕は中央部付近（炉の南側）の覆土中層から横位で，7の甕は中央部（炉の東側）の床面から正位の潰れた状態で，9のミニチュア土器は中



第34図　第17号住居跡実測図

央部の覆土中層から正位で，それぞれ出土している。4の台付甕は東コーナー部の床面から正位で，8の甕は中央部の覆土中層から逆位で出土している。2の壺は南西部の中層から正位で，6の甕は中央部の中層から出土している。

所見　本跡は，床面に焼土塊が散在していることから焼失家屋と思われる。遺物から古墳時代前期（4世紀）の住居跡と考えられる。



第35図　第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第35図 1	椀 土師器	A［13.1］ B　6.5 C　4.3	平窪。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ハケ目整形後ナデ，内面ナデ。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P55　90% 覆土中層 PL20

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第35図 2	壺 土師器	A 12.9 B (5.6)	体部欠損。口縁部は外傾して立ち上がる。撫合口縁。	口縁部外面ハケ目整形後ヘラナデ。内面は横ナデ。	密母・パミス 明赤褐色 普通	P56 10% 覆土中層 内・外面剥離有り PL20
3	台付甕 土師器	A [13.8] B (17.9) E (3.8)	台部・体部・口縁部一部欠損。台部は「ハ」の字状に開く。体部上位に最大径をもつ。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ハケ目整形後ナデ。体部内・外面ハケ目整形後ナデ。台部内・外面ハケ目整形。	長石・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P57 70% 覆土中層 台・体部内外面剥離 PL20
4	台付甕 土師器	D 8.8 E (5.8)	台部片。「ハ」の字状に下方に開く。	台部外面ハケ目整形後ヘラナデ，内面はハケ目整形。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P58 10% 床面 PL20
5	台付甕 土師器	D 10.6 E (4.7)	台部片。一部欠損。「ハ」の字状に下方に開く。	台部内・外面ハケ目整形後ナデ。輪積み痕有り。	長石・雲母 橙色 普通	P59 5% 覆土上層 内・外面剥離有り PL20
6	甕 土師器	A 16.4 B 22.5 C 4.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ハケ目整形。体部外面上半ハケ目整形，下半・内面ナデ。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P61 70% 覆土中層 PL21
7	甕 土師器	A 15.4 B 7.0	口縁部片。体部欠損。口縁部はやや内弯して立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラナデ。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P62 10% 床面 PL20
8	壺 土師器	B (2.5) C 8.6	底部片。平底。	底部に木葉痕有り。体部外面ナデ。	石英・密母・スコリア・パミス 明黄褐色 普通	P60 5% 覆土中層 PL21
9	ミニチュア壺 土師器	A 7.1 B 5.3 C 4.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がる。	体部内・外面ナデ，一部ヘラナデ。	長石 にぶい黄橙色 普通	P63 98% 覆土中層 PL21

第18号住居跡（第36・37図）

位置　調査区の北西部，S25j$_4$区。

重複関係　本跡は，第19号住居跡と重複している。本跡が，第19号住居跡に掘り込まれており古い。

規模と平面形　長軸5.53m，短軸4.83mの長方形である。

主軸方向　N－20°－W

壁　壁高は12～22cmで，やや外傾して立ち上がる。

床　平坦で，踏み固めは弱い。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1は径30cmの円形で，深さ56cm。P_2は径31cmの円形で，深さ56cm。P_3は長径38cm，短径32cmの楕円形で，深さ42cm。いずれも主柱穴と考えられる。

炉　中央部からやや北寄りに位置し，長径78cm，短径62cmの楕円形を呈した地床炉である。

炉土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

貯蔵穴　南のコーナー部に位置し，長軸68cm，短軸56cmの隅丸長方形で，深さは32cmである。平坦な底面から外傾して立ち上がり，断面は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　3層からなる自然堆積土層である。

土層解説

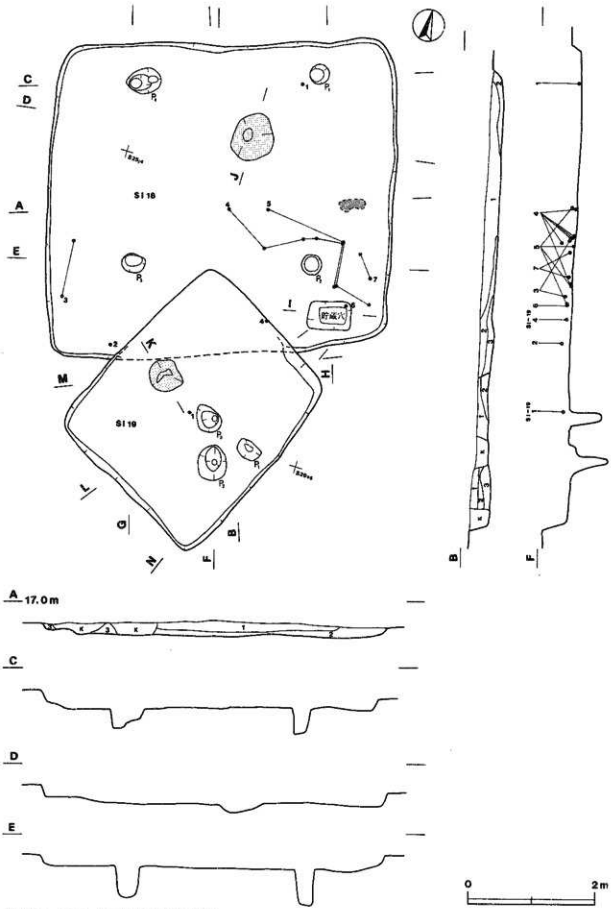
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　出土遺物のほとんどが中央部から南西コーナー部に集中して出土している。出土遺物は，土師器器台・壺・甕の細片197点である。第38図1の器台は北東部の床面から出土している。2の坩は南西コーナー部，3の坩は西壁付近から出土している。4～6の壺は南東コーナー付近のほぼ同じ位置から出土している。7の甕も南東コーナーから出土している。

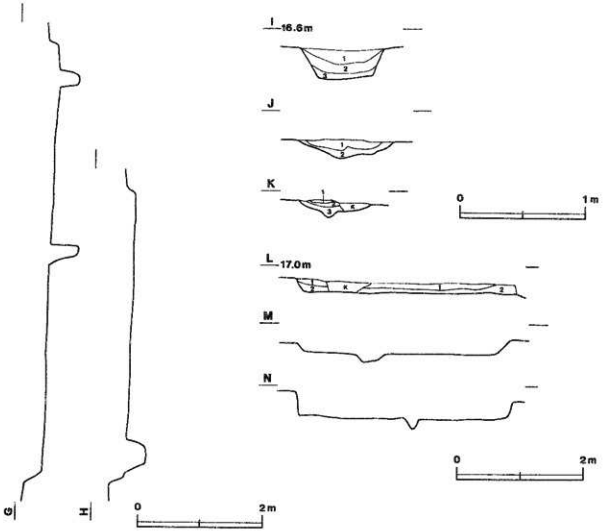
所見　本跡は，出土遺物や第19号住居跡との重複関係から古墳時代前期前半（4世紀前半）の住居跡と考えられる。

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第38図 1	器台 土師器	A 6.3 B (3.7) E (1.8)	脚部下半欠損。脚部は「ハ」字状に開く。器受部はやや外反気味に立ち上がる。受器部中央に単孔。	脚部内面ナデ，外面ヘラ磨き。器受部内・外面ヘラ磨き。	長石・パミスにおい黄褐色 普通	P64 20% 床面 PL21
2	坩 土師器	A 8.6 B 7.2	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部偏平な半球形を呈し，頸部下位に最大径をもつ。口縁部は外傾しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ヘラ磨き。	長石・雲母 におい橙色 普通	P65 60% 覆土中層 PL21
3	坩 土師器	B (4.3) C 1.9	口縁部・体部の一部欠損。やや上げ底。体部は半球形を呈し，最大径を中位にもつ。	体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ヘラ磨き。体部外面赤彩。	長石・パミス 赤色 普通	P66 60% 覆土中層 PL21
4	壺 土師器	A [20.1] B (28.6)	体部下半欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部はやや短く頸部からほぼ垂直に立ち上がる。頸部下位に2個の一単位とした円形の瘤状突起が3か所に有る。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	長石・石英・雲母・スコリア・パミス におい橙色 普通	P67 30% 床面 PL21
5	壺 土師器	B (37.0) C 17.0	底部・体部下半の一部。突出した平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ヘラ削り後ヘラ磨き。底部外面の突出部ハケ目整形後ナデ。輪積み痕有り。	石英・雲母・スコリア・パミス におい赤褐色 普通	P68 30% 覆土下層 PL22
6	壺 土師器	A 14.1 B (5.4)	口縁部。頸部から外反しながら立ち上がる。内面上部に緩やかな稜を持つ。複合口縁。	口縁部内・外面ヘラ磨き。	長石・スコリア におい橙色 普通	P69 5% 床面 PL22
7	甕 土師器	A 16.8 B (17.1)	口縁部・体部上半部片。体部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。頸部は「く」の字状で外反している。	口縁部内面ハケ目整形後横ナデ，外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ハケ目整形後ナデ。頸部に指頭押圧痕有り。	石英・雲母 におい褐色 普通	P70 40% 覆土下層 PL21



第36図　第18・19号住居跡実測図(1)



第37図　第18・19号住居跡実測図(2)

第19号住居跡（第36・37図）

位置　調査区の北西部，S25j$_4$区。

重複関係　本跡は，第18号住居跡と重複している。本跡が，第18号住居跡を掘り込んでおり新しい。

規模と平面形　長軸3.42m，短軸3.02mの長方形である。

主軸方向　N－62°－W

壁　壁高は12～37cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，踏み固めは弱く，東部に板根の跡がある。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は長径45cm，短径33cmの楕円形で，深さ18cm。出入り口施設にともなうものであると考えられる。P_2は長径54cm，短径42cmの楕円形で，深さ60cm。P_3は長径46cm，短径38cmの楕円形で，深さ40cm。いずれも性格は不明である。

炉　中央部から西寄りに位置し，長径61cm，短径50cmの楕円形を呈した地床炉である。

炉土層解説

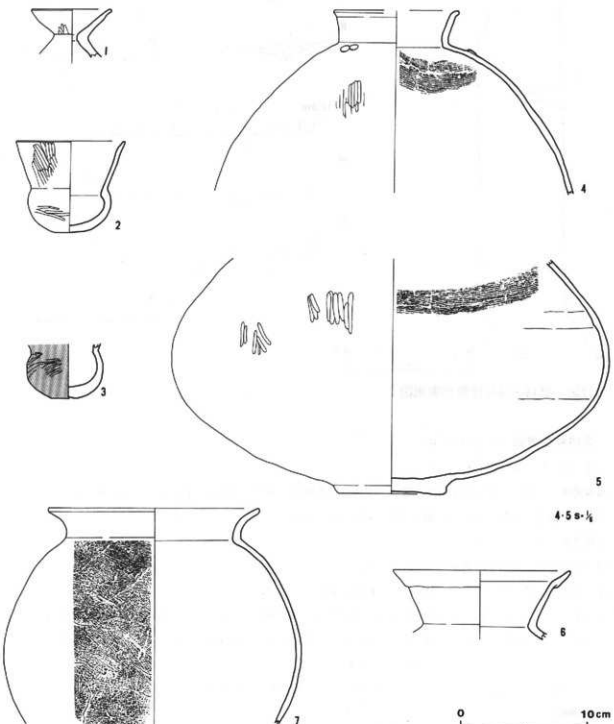
1　暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　明赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子多量，ローム粒子少量
3　赤褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

覆土　3層からなる自然堆積土層である。

土層解説

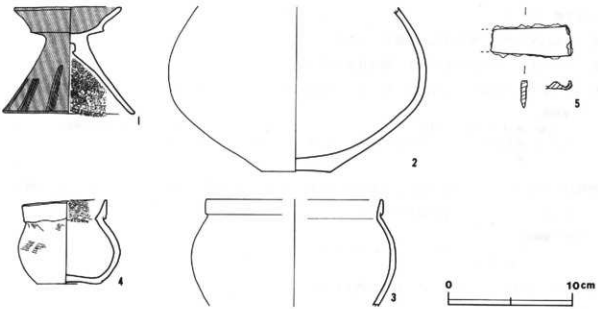
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子少量

遺物　覆土下層から，高坏口縁部1点，体部1点他坩等の土師器片218点が出土している。第39図1の器台は中央部付近の覆土下層から散在して出土し，4のミニチュア土器は東壁際の覆土下層から逆位で出土している。5の鉄製の鎌は南壁際床面から出土している。



第38図　第18号住居跡出土遺物実測図

所見　本跡は，出土遺物や第18号住居跡との重複関係から古墳時代前期後半（4世紀後半）の住居跡と考えられる。



第39図　第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第39図 1	器台 土師器	A　8.5 B　8.7 D　10.5 E　6.3	器受部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は外傾して立ち上がり，下部に稜線が有る。孔は無い。	器受部内・外面横位のヘラ磨き。器受部内・外面及び脚部外面赤彩。	長石・雲母・パミス 赤色 普通	P71　90% 覆土下層 PL22
2	壺 土師器	B（13.3） C　5.4	口縁部欠損。体部一部欠損。平底。体部は偏平の球形で中位に最大径をもつ。	体部外面ハケ目整形後ナデ，内面ヘラナデ。	石英・雲母 にぶい橙色 普通	P72　15% 覆土中 PL22
3	甕 土師器	A［14.2］ B（8.5）	口縁部・体部片。口縁部はやや外傾して立ち上がる。複合口縁。	口縁部・体部外面ナデ，内面ハケ目整形後ナデ。	石英・雲母 明褐色 普通	P73　5% 覆土中 PL22
4	ミニチュア土器 土師器	A　6.8 B　6.8 C　5.0	口縁部一部欠損。平底。体部は偏平の球形で中位に最大径をもつ。口縁部はやや外傾して立ち上がる。複合口縁。	口縁部外面ヘラナデ，内面ハケ目整形。体部外面ハケ目整形後ヘラナデ，内面ナデ。	長石・雲母・パミス にぶい橙色 普通	P74　90% 覆土下層 体部内・外面剥離 PL22

図版番号	種別	計測値（cm）				出土地点	備考
		長さ	幅	厚さ	重量（g）		
第39図5	鎌	（8.6）	2.8	0.6	（16.1）	床面	M1　PL22

第20号住居跡（第40図）

位置　調査区の北西部，S26bs区。

規模と平面形　長軸［4.15］m，短軸［3.95］mの方形と推定される。

主軸方向　N－0°

壁　上面は削平され，壁はほとんど確認できない。

床　平坦である。木の根の攪乱により遺存状態が悪い。

炉　住居中央部に位置し，長径55cm，短径41cmの楕円形を呈した地床炉である。

炉土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
2　赤褐色　焼土中・小ブロック・焼土粒子多量，ローム粒子微量
3　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量

貯蔵穴　南東のコーナー部に位置し，長軸86cm，短軸57cmの隅丸長方形で，深さは58cmである。平坦な底面から外傾して立ち上がり，断面は逆台形である。

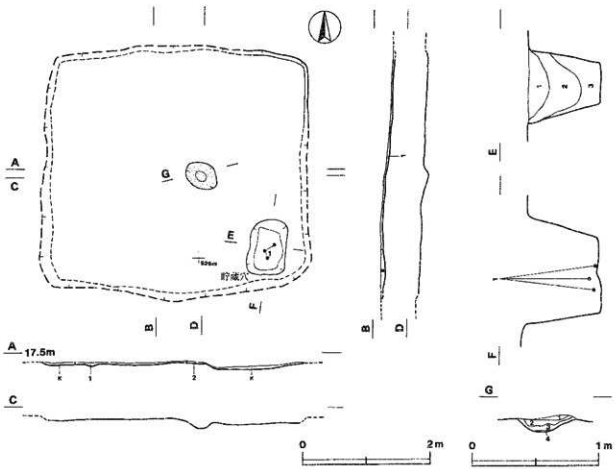
貯蔵穴土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

覆土　薄く2層から堆積している。自然堆積土層である。

土層解説

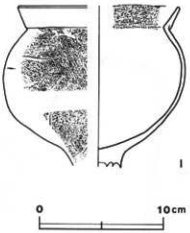
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量



第40図　第20号住居跡実測図

遺物　土師器片24点が出土している。出土遺物は，全て住居南東コーナー部の貯蔵穴覆土下層からである。第41図の台付甕は潰れた状態で出土している。

所見　出土遺物が少ないが，貯蔵穴の出土遺物から古墳時代前期（4世紀）の住居跡と考えられる。



第41図　第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第41図 1	台付甕 土師器	A［13.0］ B（13.0）	台部欠損。体部はやや扁平な球状を呈し，最大径を中位にもつ。頸部は「く」の字状を呈し，口縁部にかけ外傾する。	頸部下位から口縁部内面ハケ目整形後ナデ，外面ハケ目整形後丁寧なナデ。体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ハケ目整形後ナデ。輪積み痕有り。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P75　55% 貯蔵穴 PL22

第21号住居跡（第42図）

位置　調査区の北部，S26c9区。

規模と平面形　長軸6.13m，短軸5.55mの長方形である。

主軸方向　N－12°－W

壁　壁高は12～30cmで，やや外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。南壁付近に焼土と炭化材の広がりがある。

ピット　1か所（P_1）。P_1は長径128cm，短径104cmの楕円形で，深さ8cmである。性格は不明である。

炉　2か所。炉1は，中央部から北西寄りに位置し，長径92cm，短径53cmの不整楕円形である。炉2は，住居中央部に位置し，長径125cm，短径52cmの不整楕円形である。どちらも地床炉である。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　赤褐色　焼土粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量

貯蔵穴　南西のコーナー部に位置し，長径114cm，短径80cmの不整形で，深さは78cmである。底面から外傾して立ち上がり，断面は逆台形である。

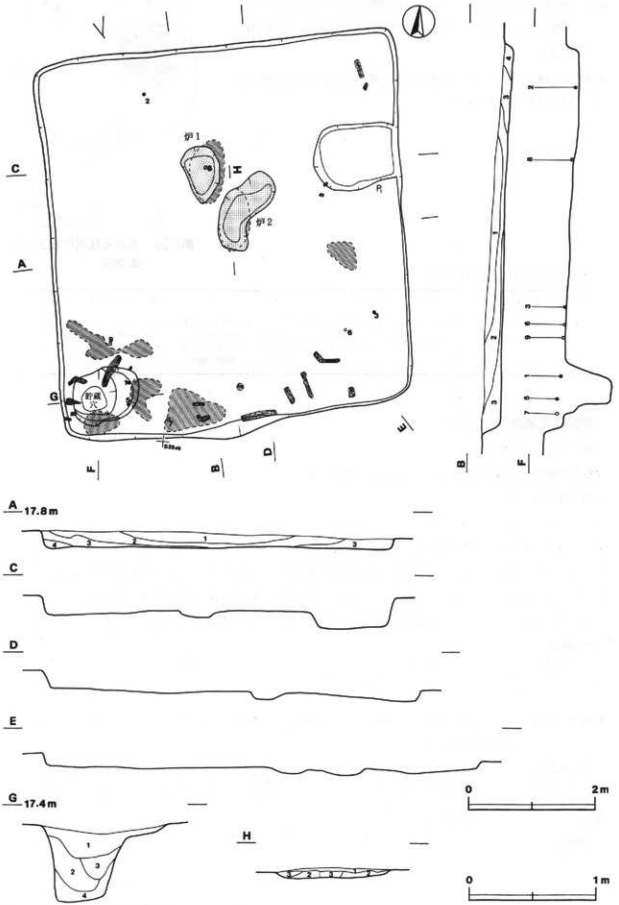
貯蔵穴土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量，焼土粒子微量

覆土　3層からなる人為堆積土層である。

土層解説

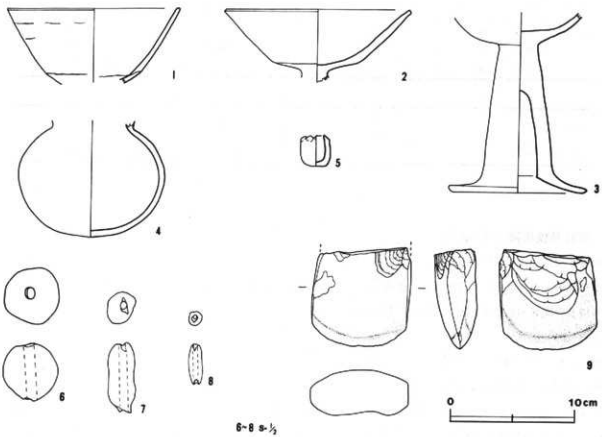
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
3　褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子極少量，炭化粒子少量
4　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量



第42図　第21号住居跡実測図

遺物　床面から覆土中層にかけて，高坏の口縁部3点，坏部3点，裾部4点，脚部1点，坩の口縁部7点他土師器片961点が出土している。特に，南西のコーナー部から多く出土している。第43図1の高坏は南西コーナー部の覆土中層から散在して出土し，5のミニチュア土器は南西のコーナー部の床面から出土している。2の高坏は北側の床面から逆位の潰れた状態で，3の高坏は南東の床面から出土している。6の球状土錘は南東コーナー部の床面から，7・8の管状土錘はそれぞれ南壁際覆土下層・中央部付近床面から出土している。9の磨製石斧は南西コーナー部焼土付近から半分欠損した状態で出土している。

所見　本跡は，出土遺物等から古墳時代前期（4世紀）の住居跡と考えられる。



第43図　第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第43図 1	高坏 土師器	A 13.8 B (6.0)	脚部欠損。坏部一部欠損。坏部は底部から外傾して立ち上がる。下位に稜線有り。	体部内・外面ハケ目整形後ナデ。輪積み痕有り。	長石・石英・スコリア・パミス にぶい橙色 普通	P76 70% 覆土中層 PL22
2	高坏 土師器	A 15.0 B (5.8)	脚部欠損。坏部は下位に稜を持ち，やや内彎気味に立ち上がる。	口縁部ハケ目整形後ナデ。坏部外面ヘラナデ。	長石・雲母・パミス 橙色 普通	P77 50% 床面 PL22
3	高坏 土師器	B (14.5) D 11.2 E 11.9	坏部欠損。脚部は中空の円筒状で下方に膨らみをもつ。裾部は「ハ」の字状に大きく開く。	裾部内・外面ハケ目整形後ナデ。脚部外面ハケ目整形後ナデ。	長石・雲母・パミス 明褐色 普通	P78 50% 床面 PL22

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	坩土師器	B (9.4)	体部一部欠損，口縁部欠損。丸底。体部は球形を呈する。	体部外面ハケ目整形後ナデ，内面はナデ。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P79 40% 覆土中 体部内・外面剥離 PL22
5	ミニチュア土師器	A 2.3 B 2.6 C 1.2	平底。体部は円筒状で，口縁部は内彎する。	体部内・外面ナデ。指頭押圧痕有り。	長石・石英・パミス 橙色 普通	P80 100% 床面 PL22

図版番号	種別	計測値(cm)				出土地点	備考
		長さ	幅	孔径	重量(g)		
第43図6	球状土錘	3.1	2.9	0.6	22.7	南東コーナー付近床面	DP15 PL22
7	管状土錘	3.8	1.6	0.5	8.8	南壁際覆土下層	DP16 PL22
8	管状土錘	2.1	0.8	0.3	1.4	中央部付近床面	DP17 PL22

図版番号	種別	計測値(cm)				石質	出土地点	備考
		長さ	幅	厚さ	重量(g)			
第43図9	磨製石斧	(7.9)	3.6	7.9	(311.6)	安山岩	覆土下層	Q2 PL22

第22号住居跡（第44図）

位置 調査区の北西部，R26j6区。

重複関係 本跡は，第28号住居跡と重複している。本跡が，第28号住居跡を掘り込んでおり新しい。

規模と平面形 長軸3.44m，短軸3.33mの方形である。

主軸方向 N－11°－E

壁 壁高は19～33cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット 4か所（P_1～P_4）。P_1は径38cmの円形で，深さ28cm。P_2は長径30cm，短径22cmの楕円形で，深さ25cm。P_3は長径48cm，短径36cmの楕円形で，深さ40cm。P_4は長径34cm，短径29cmの楕円形で，深さ25cm。いずれも主柱穴と考えられる。

炉 中央部に位置し，長径49cm，短径30cmの楕円形を呈した地床炉である。

炉土層解説

1 赤褐色 焼土大・中ブロック・焼土粒子多量，ローム粒子微量　2 明赤褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量

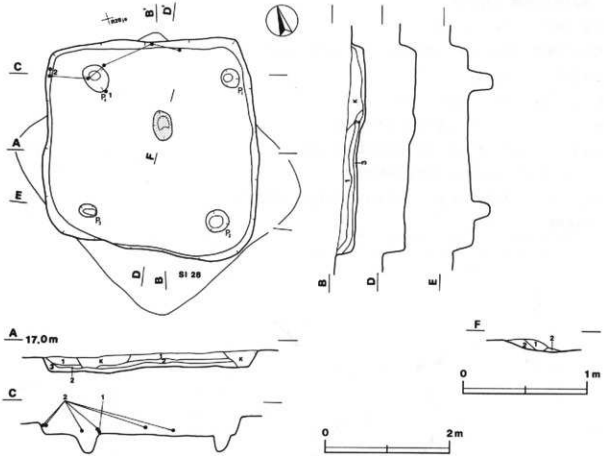
覆土 3層からなる自然堆積土層である。

土層解説

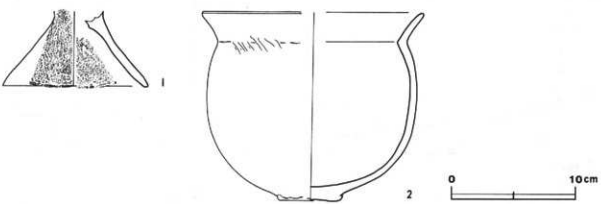
1 黒褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量　2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子微量

遺物 高坏・甕等の土師器片148点が出土している。遺物は，北壁および北西コーナー付近に集中している。第45図1の台付甕は北西コーナー寄りから出土している。2の甕は，北壁付近出土のものと北西コーナー付近出土のものが接合した。

所見 本跡は，出土遺物から古墳時代前期（4世紀）の住居跡と考えられる。



第44図　第22号住居跡実測図



第45図　第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 1	台付甕 土師器	D 11.7 E（ 6.0）	台部のみ。台部は「ハ」の字状に開く。	台部内面上半ヘラ削り，下半ハケ目整形後端部横ナデ，外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英・スコリア 明褐色 普通	P81 20% 覆土下層 PL23
2	甕 土師器	A［17.8］ B 15.2 C 5.0	体部・口縁部一部欠損。突出した平底。体部は球形状で，最大径を中位にもつ。頸部は「く」の字状で口縁部にかけて外傾する。	口縁部内面横ナデ，外面ヘラ削り後ナデ，端部横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ナデ。	長石・スコリア 橙色 普通	P82 35% 覆土下層 PL23

第23号住居跡（第46図）

位置　調査区の北西部，R26ie区。

規模と平面形　長軸4.23m，短軸（3.62）mの長方形と推定される。

主軸方向　N－30°－W

壁　壁高は40～52cmで，外傾して立ち上がる。

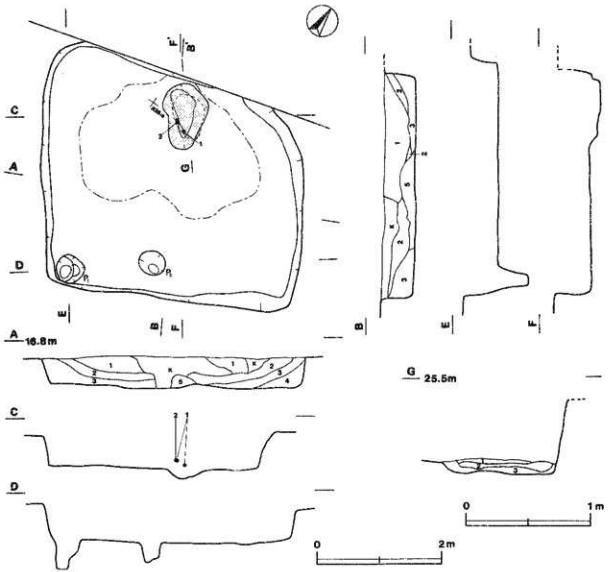
床　平坦で，炉を囲むように踏み固められている。

ピット　2か所（P_1～P_2）。P_1は径46cmの円形で，深さ47cm。主柱穴と考えられる。P_2は長径45cm，短径38cmの楕円形で，深さ32cm。性格は不明である。

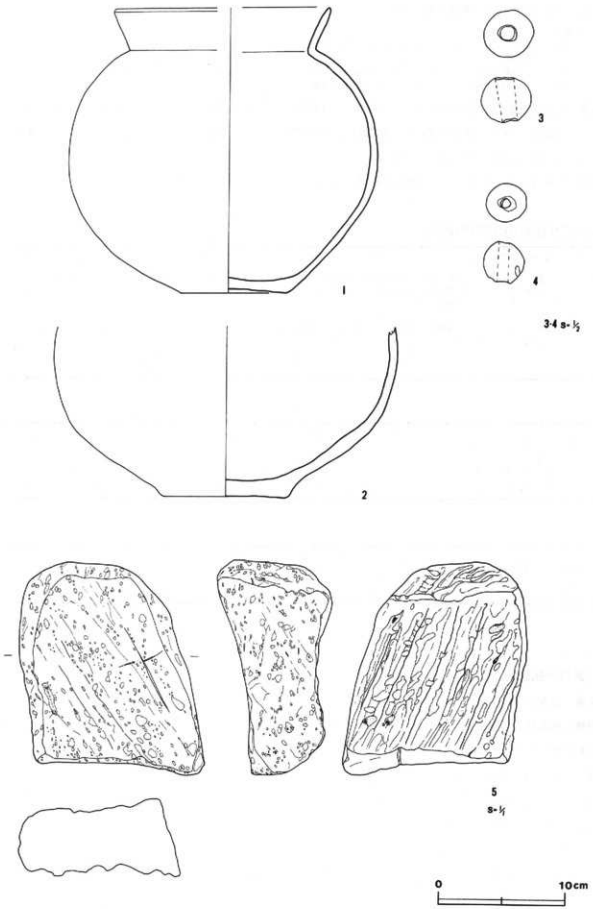
炉　中央部から北西寄りに位置し，長径104cm，短径64cmの不整楕円形を呈した地床炉である。

炉土層解説

1　暗褐赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量



第46図　第23号住居跡実測図



第47図　第23号住居跡出土遺物実測図

覆土　5層からなる人為堆積土層である。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　床面及び覆土下層から上層にかけて，鉢の口縁部1点，高坏の坏部9点，壺の口縁部3点，台付甕の台部3点が出土している。第47図1と2の甕は北側の炉床面端部から，ともに逆位で出土している。3・4の球状土錘と5の砥石は覆土中から出土している。

所見　本跡は，出土遺物等から古墳時代前期（4世紀）の住居跡と考えられる。

第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第47図1	甕 土師器	A［17.2］ B 22.4 C 8.4	平底で中央がややくぼむ。体部は球形で中位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部・体部とも内・外面ナデ。	長石・パミス 褐色 普通	P83 70% 床面 PL23
2	壺 土師器	B（13.5） C 9.6	口縁部欠損，体部大半欠損。平底。体部は球形。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 パミス 橙色 普通	P84 20% 床面 PL23

図版番号	種別	計測値（cm） 長さ	幅	孔径	重量（g）	出土地点	備考
第47図3	球状土錘	2.4	2.4	0.5	13.1	覆土中	DP18 PL23
4	球状土錘	2.1	2.0	0.6	8.7	覆土中	DP19 PL23

図版番号	種別	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	重量（g）	石質	出土地点	備考
第47図5	砥石	16.3	14.7	6.1	399.1	浮岩	覆土中	Q3 PL23

第24号住居跡（第48図）

位置　調査区の北部，R26j₉区。

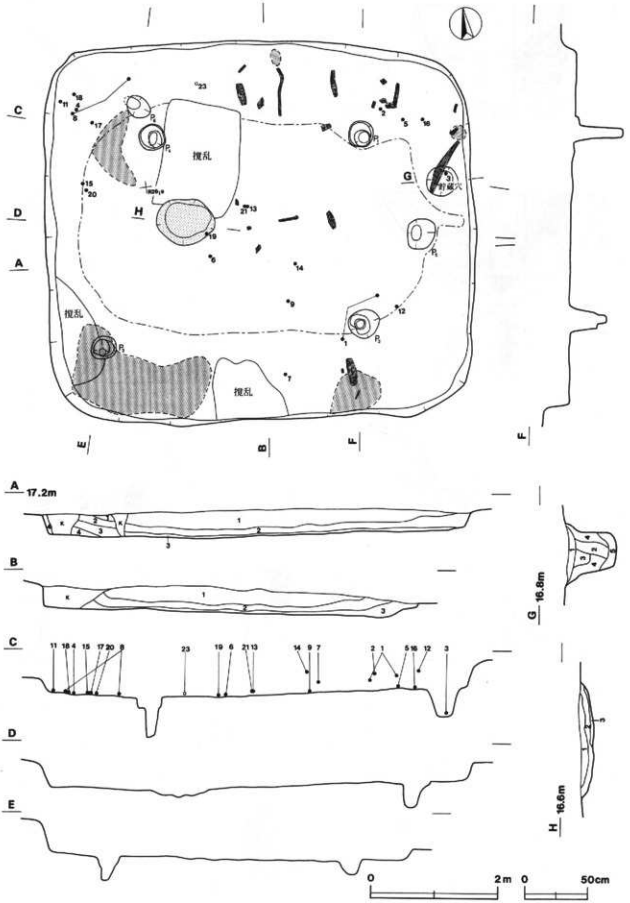
規模と平面形　長軸6.81m，短軸6.02mの長方形である。

主軸方向　N－82°－W

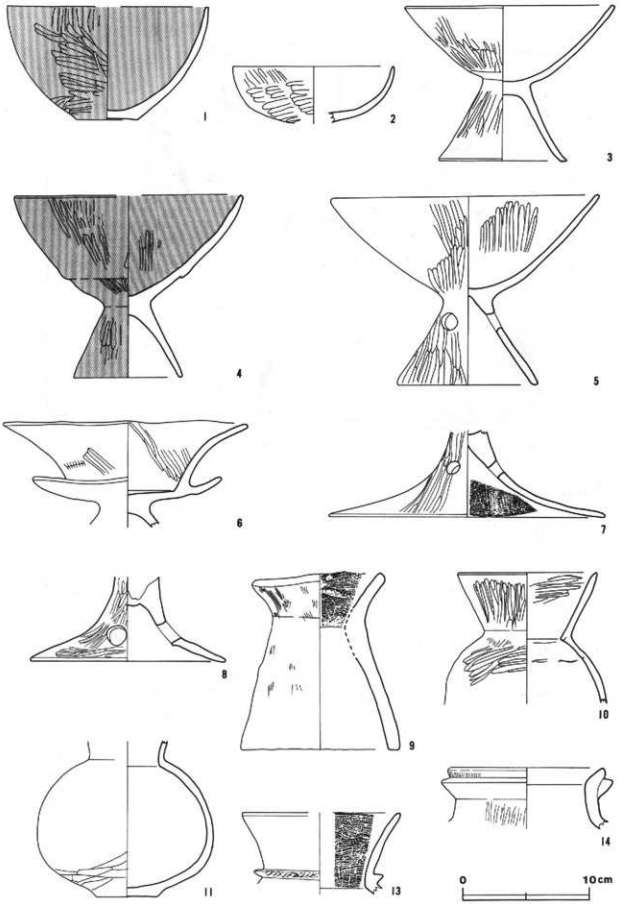
壁　壁高は15～47cmで，やや外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部から出入口ピット（P5）にかけて踏み固められている。北東コーナー部から南西コーナー部に焼土と炭化材の広がりがある。

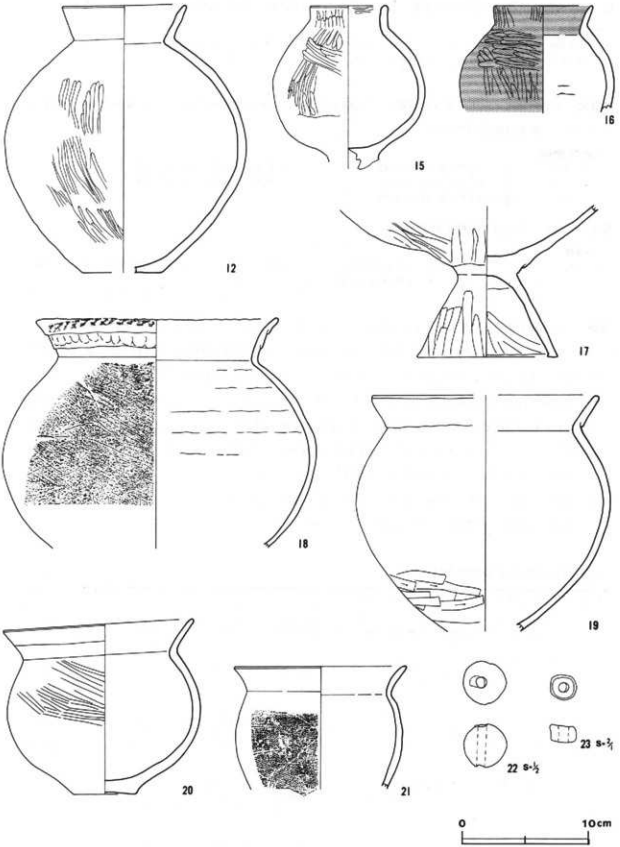
ピット　6か所（P_1～P_5）。P_1は径40cmの円形，深さ76cm。P_2は径48cmの円形，深さ58cm。P_3は径38cmの円形，深さ38cm。P_4は径42cmの円形，深さ62cmで，いずれも主柱穴と考えられる。P_5は長径48cm，短径43cmの楕円形，深さ38cmで，出入り口施設にともなうものであると考えられる。P_6は長径40cm，短径30cmの楕円形，深さ20cmで，性格は不明である。



第48図　第24号住居跡実測図



第49図　第24号住居跡出土遺物実測図(1)



第50図　第24号住居跡出土遺物実測図(2)

炉　床中央部に位置し，径70cmの不整円形で，深さ20cmの地床炉である。炉床は，熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説

1　明赤褐色　焼土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　明褐色　ローム粒子多量，ローム大・中ブロック・焼土小ブロック少量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中・小ブロック少量

貯蔵穴　東壁側北東コーナー寄りに位置し，径50cmの円形で，深さは43cmである。平坦な底面から外傾して立ち上がり，断面は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・炭化物少量，炭化粒子微量
2　黒　色　ローム粒子少量，炭化材・炭化粒子多量
3　暗褐色　ローム粒子・炭化物少量，炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
5　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量

覆土　4層からなる自然堆積土層である。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子極少量
2　黒　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物　土師器片490点とガラス小玉1点が出土している。出土遺物の多くが中央部，北東・北西コーナー部に集中している。第49図1の鉢は潰れた状態で，6・8の高坏，9の粗製器台は横位，13・14・19の甕は潰れた状態で住居中央部からやや南寄りにかけての位置で出土している。3の高坏は横位の状態で貯蔵穴から出土している。5の高坏は潰れた状態，16の小形壺が北東コーナー部から出土している。4・6の高坏，11の坩，15の小形壺は横位，17の台付甕，19の甕は逆位，20の甕は潰れた状態で北西コーナー部から出土している。10の坩は北壁付近から出土している。23のガラス小玉は北壁付近床面から1点出土している。2の坏は流れ込みの遺物と考えられる。なお，覆土下層より微量の炭化種子が出土している。

所見　本跡は，覆土下層から床面に多量の炭化材・焼土塊が確認されている事から焼失家屋と考えられる。出土遺物から古墳時代前期後半（4世紀後半）の住居跡と考えられる。

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 1	鉢 土師器	A［15.8］ B 8.9 C 4.8	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は底部から内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ヘラ磨き。体部内・外面赤彩。	石英・パミス 赤褐色 普通	P85 80% 覆土上層 PL23
2	坏 土師器	A 12.2 B（4.5）	底部・体部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	体部内面ナデ，外面ヘラ磨き。	石英・スコリア にぶい橙色 普通	P86 60% 覆土上層 PL23
3	高坏 土師器	A 16.6 B 12.4 D 10.2 E 6.0	脚部は「ハ」の字状に開く。坏部は半球形状を呈し下端に稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部外面ヘラ削り後縦位ヘラ磨き。脚部内面ヘラ削り後ヘラ磨き，外面ヘラ削り後縦位ヘラ磨き。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P87 100% 貯蔵穴 坏部内面剥離 PL23
4	高坏 土師器	A［18.0］ B 14.3 D 8.6 E 5.6	坏部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。坏部は下位に明瞭な稜を持ち，内彎気味に外傾して立ち上がる。	坏部内・外面ヘラ削り後縦位ヘラ磨き。脚部内面ヘラ削り後ナデ，外面縦位ヘラ磨き。坏部内・外面及び脚部外面赤彩。	雲母・スコリア・パミス 赤褐色 普通	P88 70% 床面 坏部内・外面剥離 PL24
5	高坏 土師器	A 21.2 B 15.0 D 11.2 E 6.7	脚部は「ハ」の字状に開く。坏部は内彎気味に外傾して立ち上がる。脚部に3孔。	坏部内・外面ヘラ削り後ヘラ磨き。脚部内面ナデ，外面ヘラ磨き。	長石・雲母・スコリア・礫 橙色 普通	P89 80% 覆土中層 PL24

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 6	高坏 土師器	A 19.3 B (8.3) E (1.6)	脚部及び坏部一部欠損。坏部は二段の張り出しがある。下段は内彎気味に緩く外傾し、上段は外反しながら立ち上がる。	坏部内面ヘラ削り後ヘラ磨き，底部ナデ，外面ヘラ削り後ナデ，上段上半ヘラ磨き。	長石・スコリア 浅黄橙色 普通	P90 70% 覆土下層 PL24
7	高坏 土師器	B (6.8) D 21.8	脚部片。脚部は「ハ」の字状に大き開く。脚部に3孔。	脚部内面ハケ目整形後ナデ，端部横ナデ，外面ハケ目整形後ヘラ磨き。	長石・石英・雲母・スコリア・パミス 橙色 普通	P91 40% 覆土上層 PL24
8	高坏 土師器	D 15.5 E (6.6)	脚部片。脚部はラッパ状に大きく開く。	脚部内面ハケ目整形後ナデ，外面ヘラ磨き，端部横位ヘラ磨き。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P92 40% 覆土下層 PL24
9	無頸器台 土師器	A 10.6 B 13.8 D 12.4 E 10.4	脚部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は外傾して立ち上がる。中央に貫通孔を有す。	器受部内・外面ハケ目整形後ナデ，内面端部横ナデ。脚部内・外面ハケ目整形後ナデ。	雲母・スコリア・パミス 橙色 普通	P93 90% 覆土下層 脚部内面上半・器受部内面に煤付着 PL24
10	坩 土師器	A 11.0 B (10.3)	体部下半欠損。体部は球形を呈していると思われる。頸部は「く」の字状を呈し，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラ削り後ヘラ磨き。体部内面横ナデ，外面ヘラ磨き。輪積み痕有り。	雲母・スコリア 橙色 普通	P94 60% 覆土中 PL24
11	坩 土師器	B (12.2) C 5.0	口縁部欠損。やや突出した平底。体部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。頸部は「く」の字状を呈する。	体部内面ヘラ削り後ナデ，外面下半ヘラ削り後ナデ，上半ハケ目整形後丁寧なナデ。	スコリア・パミス 明黄褐色 普通	P95 85% 覆土下層 PL25
第50図 12	壺 土師器	A 9.7 B 21.0 C 6.2	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は球形で中位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状で口縁部に外傾して立ち上がる。	口縁部内面ハケ目整形後ナデ，外面丁寧なナデ。体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ヘラ磨き。	石英・スコリア・パミス 橙色 普通	P97 60% 覆土下層 PL24
第49図 13	壺 土師器	A [12.5] B (6.4)	口縁部片。口縁部は外反しながら立ち上がる。頸部にキザミ目のある突帯をもつ。	口縁部内面ハケ目整形後ナデ，外面ハケ目整形後丁寧なナデ。	スコリア 橙色 普通	P96 20% 覆土上層 PL25
14	壺 土師器	A 12.0 B (4.8)	頸部片。口縁部が欠損した後も使用したと思われる。体部からほぼ垂直に立ち上がり口縁部にかけ緩く外反する。頸部上位に隆帯がある。	頸部内・外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P98 10% 覆土上層 PL25
第50図 15	小形壺 土師器	A 6.1 B (12.8)	体部一部欠損。底部は欠損しているが形状から台付きと思われる。体部は球形を呈し，中位が最大径で口縁部にかけほぼ垂直に立ち上がる。	口縁部内・外面ハケ目整形後ヘラ磨き。体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ハケ目整形後ヘラ磨き。	雲母・スコリア 橙色 普通	P100 80% 床面 PL25
16	小形壺 土師器	A 7.8 B (8.3)	体部下半欠損。体部は球形を呈し，最大径を中位にもつと思われる。口縁部にかけ緩く外傾し立ち上がる。	口縁部内・外面ハケ目整形後ヘラ磨き。体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ハケ目整形後ヘラ磨き。口縁部内・外面及び体部外面赤彩。	雲母・スコリア 赤橙色 普通	P99 60% 床面 PL25
17	台付甕 土師器	B (11.9) D 11.1 E 6.6	体部下半・台部片。台部は「ハ」の字状に開き，下位でやや内彎気味に脚部に至る。	体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ヘラ削り。台部内面ヘラ削り後ナデ，外面ヘラ削り後丁寧なナデ。	雲母・スコリア・パミス 橙色 普通	P101 20% 床面 台部内面・外面上半及び体部下半に煤付着 PL25
18	甕 土師器	A 19.0 B (18.1)	体部下半欠損。体部は球形を呈し，中位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状を呈し外反しながら口縁部に至る。	口縁部内面ヘラナデ，外面ナデ，頸部にヘラ状工具によりキザミ有り。体部内面ナデ，外面ヘラナデ。口縁部外面に輪積み痕有り。	雲母・スコリア・パミス にぶい黄橙色 普通	P102 80% 床面 体部外面に煤付着 PL25

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第50図 19	甕 土師器	A［18.0］ B（18.7）	口縁部・底部欠損。体部は球形を呈し，最大径をやや上位にもつ。頸部は「く」の字状で，外傾し口縁部に至る。	体部および口縁部内・外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア・パミス 明赤褐色 普通	P103 70% 覆土下層 PL25
20	甕 土師器	A 15.0 B 13.7 C 4.8	口縁部一部欠損。やや突出した平底。体部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部にかけ外傾して立ち上がる。	口縁部内面ヘラナデ，外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。輪積み痕有り。	長石・スコリア 明赤褐色 普通	P104 90% 床面 体部内・外面に煤付着 PL25
21	甕 土師器	A 13.5 B（ 9.6）	体部下半欠損。体部は球形を呈し，やや上位に最大径をもつ。口縁部は緩やかに外反する。	頸部内・外面ハケ目整形後ナデ。体部内面ハケ目整形，外面ハケ目整形後ナデ。	石英・スコリア・パミス 明黄褐色 普通	P105 40% 覆土下層 PL25

図版番号	種別	計測値（cm）				出土地点	備考
		長さ	幅	孔径	重量（g）		
第50図22	球状土錘	2.2	2.3	0.6	10.2	覆土中	DI'20 PL25

図版番号	種別	計測値（cm）				石質	出土地点	備考
		長さ	幅	厚さ	重量（g）			
第50図23	ガラス小玉	0.4	0.35	0.2	0.1	ガラス	床面	Q4 PL25

第25号住居跡（第51図）

位置　調査区の北部，S27b₁区。

規模と平面形　長軸5.10m，短軸4.55mの長方形である。

主軸方向　N－7°－W

壁　壁高は20～42cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。攪乱により遺存状態が悪い。

炉　中央部からやや西寄りに位置し，長径72cm，短径54cmの楕円形を呈する地床炉である。

炉土層解説

1　赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
2　赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
3　明赤褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量

覆土　4層からなる自然堆積土層である。

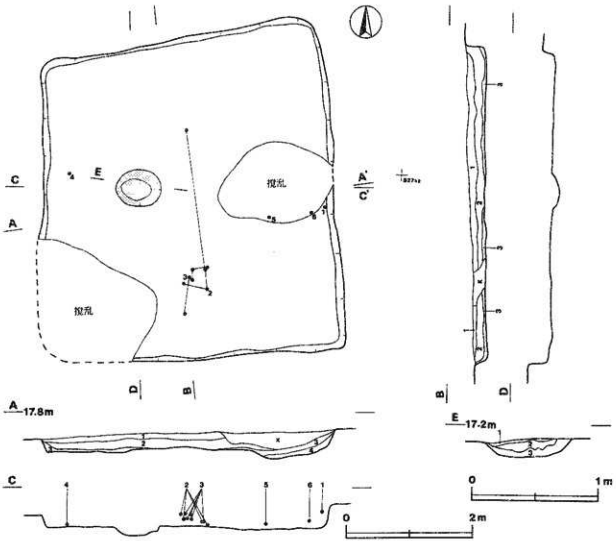
土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極微量
2　極暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　明褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

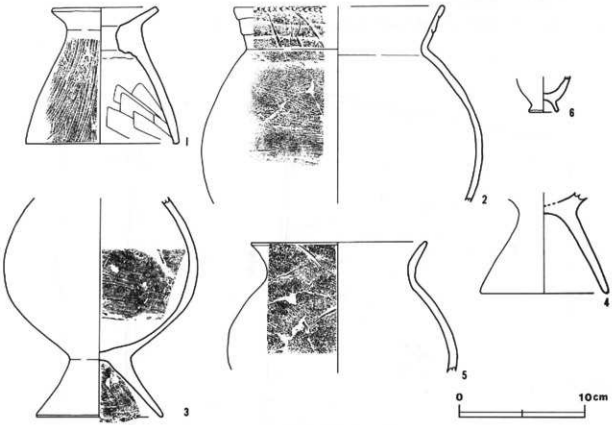
遺物　覆土下層から上層にかけて，高坏の坏部片8点，坩の口縁部片1点，台付甕の台部片4点他，土師器片407点が出土している。特に，南側にまとまって出土している。第52図1の器台は東壁際の覆土上層から横位で，6のミニチュア土器は覆土下層から逆位でそれぞれ出土している。2の壺は南側覆土下層より散在して出土し，3の台付甕は北側と南側の下層に散在していたものが接合し，4の台付甕は西壁際の下層から斜位で出土した。

5の甕は東側の下層から潰れた状態で出土している。

所見　本跡は，出土遺物から古墳時代前期（4世紀）の住居跡と考えられる。



第51図　第25号住居跡実測図



第52図　第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表

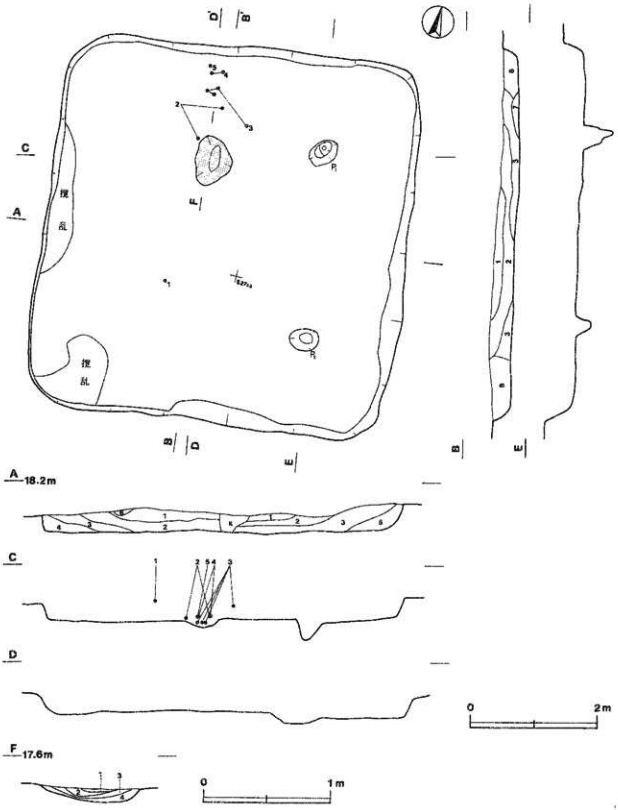
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第52図 1	器台 土師器	A 8.7 B 11.0 D 12.3 E 9.1	脚部は「ハ」の字状にやや内彎して開く。器受部は外傾して立ち上がる。器受部中央に単孔。	器受部内・外面ナデ。脚部外面ハケ目整形，内面ヘラナデ。輪積み痕有り。	長石・雲母・スコリア 明黄褐色 普通	P 106　98% 覆土上層 P L 26
2	壺 土師器	A [16.8] B (15.8)	体部下半欠損。口縁部一部欠損。体部は球形。口縁部は外傾して立ち上がる。複合口縁，端部に刻み有り。	口縁部外面ナデ，内面ハケ目整形後ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ，内面ナデ。	長石・石英・雲母・パミス にぶい黄褐色 普通	P 107　30% 覆土下層 P L 26
3	台付甕 土師器	B (17.5) D 10.2 E 4.6	体部一部欠損，口縁部欠損。台部は下方に「ハ」の字状に開く。体部は球形で中位に最大径をもつ。	体部外面ナデ，内面ハケ目整形後ナデ。台部外面ヘラ削り後ナデ，内面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P 108　40% 覆土下層 P L 26
4	台付甕 土師器	B (8.0) D 10.2 E 6.5	台部片。台部は下方に「ハ」の字状に開く。	台部外面ヘラナデ，内面ハケ目整形後ナデ。	長石・雲母・パミス 橙色 普通	P 109　20% 覆土下層 P L 26
5	甕 土師器	A 14.3 B (10.4)	体部下半欠損，上半一部欠損。体部上半は半球状。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ハケ目整形後ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ，内面ヘラナデ。	長石・雲母・パミス 黒褐色 普通	P 110　30% 覆土下層 P L 26
6	ミニチュア壺 土師器	B (2.9) D 2.4 E 0.9	台部・体部一部欠損。台部は下方に「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。台部内・外面ナデ。	長石・パミス にぶい黄褐色 普通	P 111　60% 覆土下層 P L 26

第26号住居跡（第53図）

位置　調査区の北部，S27b₂区。

規模と平面形　長軸5.83m，短軸5.63mの方形である。

主軸方向　N－8°－W



第53図　第26号住居跡実測図

壁　壁高は25～39cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，踏み固めが弱い。

ピット　2か所（P_1～P_2）。P_1は長径50cm，短径34cmの楕円形で，深さ46cm。P_2は長径46cm，短径34cmの楕円形で，深さ24cm。いずれも主柱穴と考えられる。

炉　中央部からやや北寄りに位置し，長径147cm，短径82cmの楕円形を呈する地床炉である。

炉土層解説

1　暗褐赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子少量
2　赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量
3　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子微量

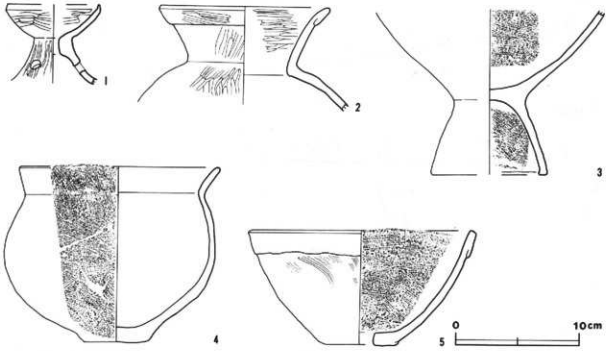
覆土　8層からなる人為堆積土層である。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
7　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片1470点が出土している。出土遺物の多くが北壁付近に集中している。第54図3の台付甕，2の壺，4の甕は潰れた状態で，5の甑は完形で，逆位の状態で北壁中央部寄り床面から出土している。1の器台は中央部から出土している。

所見　本跡は，出土遺物から古墳時代前期（4世紀）の住居跡と考えられる。



第54図　第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第54図 1	器台 土師器	A (7.2) B (6.8) E (3.7)	脚部・坏部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に下方に開く。器受部は内彎気味に立ち上がる。	器受部内・外面ヘラ磨き。脚部内面ナデ，外面ヘラ磨き。	スコリア 橙色 普通	P 113　40% 覆土上層 P L 26
2	壺 土師器	A 13.7 B (8.1)	口縁部・体部片。体部は球形を呈し口縁部にかけ「く」の字状に外反し立ち上がる。複合口縁。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部内面ハケ目整形後ナデ，外面ヘラ磨き。	石英・雲母・スコリア・パミス にぶい黄橙色 普通	P 114　20% 床面 P L 27
3	台付甕 土師器	B (13.1) D [9.2] E 6.0	台部・体部片。台部は「ハ」の字状にやや内彎気味に下方に開く。体部は，やや内彎気味に立ち上がる。	台部・体部内・外面ハケ目整形後ナデ。	石英・スコリア にぶい黄橙色 普通	P 112　20% 床面 台部内面に煤付着 P L 26
4	甕 土師器	A 16.0 B 14.0 C 5.0	口縁部一部欠損。やや突出した平底。体部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。頸部は「く」の字状を呈し，やや外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ハケ目整形後ナデ。体部内面ナデ，外面ハケ目整形後ナデ。	石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P 115　70% 床面 P L 26
5	甕 土師器	A 18.3 B 9.3 C 6.0	やや突出した平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部には粘土紐を貼り付けている。	体部内・外面ハケ目整形後ナデ。	雲母・スコリア・礫 橙色 普通	P 116　100% 床面 P L 26

第27号住居跡（第55図）

位置　調査区の北部，R27j_2区。

規模と平面形　長軸4.82m，短軸［4.06］mの長方形と推定される。

長軸方向　N－57°－E

壁　壁高は8～18cmで，やや外傾して立ち上がる。

床　平坦である。撹乱により遺存状態が悪い。

炉　住居中央部に位置し，平面形は，長径105cm，短径86cmの大きな楕円形とその南側に張り出し部をもつ地床炉である。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土大・中ブロック中量，ローム粒子少量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック，焼土粒子少量

貯蔵穴　南コーナー部に位置し，長軸192cm，短軸84cmの隅丸長方形で，深さは78cmである。平坦な底面から外傾して立ち上がり，断面は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム大・中ブロック・ローム粒子・炭化材・炭化粒子少量

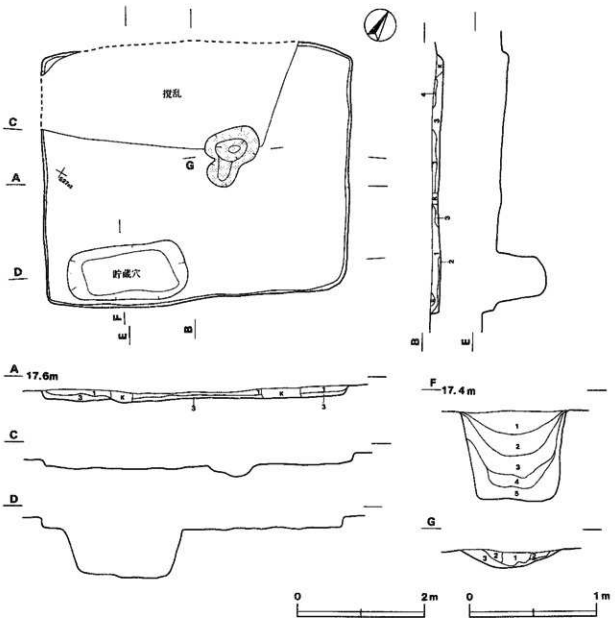
覆土　4層からなる自然堆積土層である。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム ブロック少量
4　にぶい褐色　ローム ブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子少量

遺物　床面と覆土中から，鉢の体部２点，底部１点，高坏の口縁部５点，坩の体部２点，他土師器片265点が出土している。遺物量は少なく，一個体の残存率も低い。第56図１と２の壺は覆土中より，３・４・５の壺もそれぞれ覆土中から，６の球状土錘と７の磨石が覆土中より出土している。

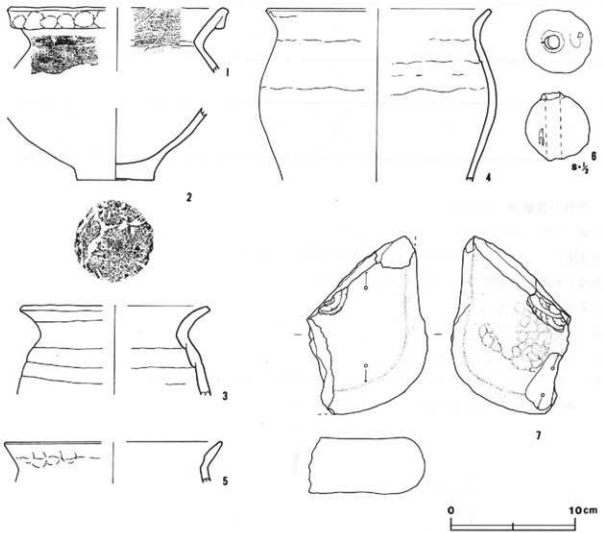
所見　本跡は，出土遺物から古墳時代前期（４世紀）の住居跡と考えられる。



第55図　第27号住居跡実測図

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第56図1	壺 土師器	A［17.2］ B（ 5.2）	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。複合口縁。	口縁部外面ヘラ削り後ナデ，内面ハケ目整形。頸部外面ハケ目整形。	長石・雲母・パミス 灰白色 普通	P117　5％ 覆土中 PL27



第56図　第27号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第56図 2	壺 土師器	B (5.9) C 6.3	底部片。突出した平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ハケ目整形後ヘラナデ，内面ナデ。底部外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄色 普通	P118　5% 覆土中 PL27
3	壺 土師器	A [15.3] B (7.1)	口縁部片。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ハケ目整形後ナデ。口縁部・体部に輪積み痕有り。	長石・雲母・パミス にぶい橙色 普通	P119　5% 覆土中 PL27
4	壺 土師器	A [18.3] B (14.0)	口縁部片。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部外面ナデ，内面ハケ目整形後ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ，内面ハケ目整形後ヘラナデ。	長石・雲母・パミス 褐灰色 普通	P120　5% 覆土中 PL27
5	壺 土師器	A [17.6] B (3.2)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ハケ目整形後ナデ。頸部外面指頭押圧痕有り。	長石・石英・パミス にぶい橙色 普通	P121　5% 覆土中 PL27

図版番号	種別	計測値（cm）				出土地点	備考
		長さ	幅	孔径	重量（g）		
第56図6	球状土錘	3.6	3.4	0.9	35.8	覆土中	DP21 PL27

図版番号	種別	計測値（cm）				石質	出土地点	備考
		長さ	幅	厚さ	重量（g）			
第56図7	磨石	（14.2）	（9.7）	4.5	（671.4）	流紋岩	覆土中	Q5 PL27

第28号住居跡（第57図）

位置　調査区の北西部，R26js区。

重複関係　本跡は，第22号住居跡と重複している。本跡が，第22号住居跡に掘り込まれており古い。

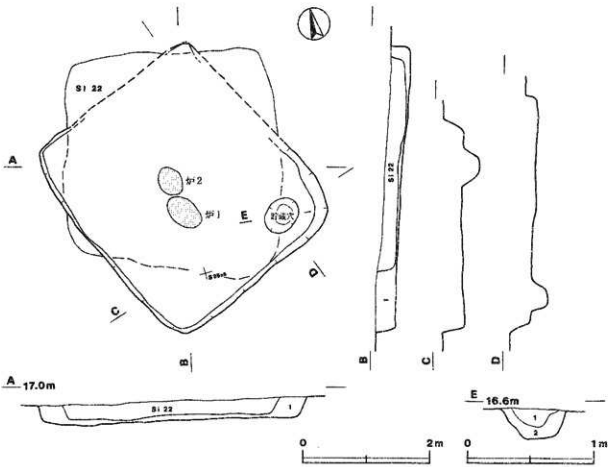
規模と平面形　長軸3.76m，短軸3.35mの方形である。

主軸方向　N－25°－W

壁　壁高は16～35cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦であるが，遺存状態が悪い。

炉　2か所。炉1は中央部からやや南寄りに位置し，長径62cm，短径40cmの楕円形を呈する。炉2は炉1の北側に隣接してあり，径48cmの円形を呈する。炉1・2ともに地床炉である。



第57図　第28号住居跡実測図

貯蔵穴　南東のコーナー部に位置し，長径60cm，短径46cmの楕円形で，深さは27cmである。平坦な底面から外傾して立ち上がり，断面はほぼ逆台形である。

貯蔵穴土層解説

1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量　　2　暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量・炭化粒子微量

覆土　本跡は，第22号住居跡に掘り込まれている。1層からなる自然堆積土層である。

土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量

所見　本跡からの出土遺物はなく，時期は不明である。

表2　大山Ⅰ遺跡住居跡一覧表

住居番号	位置	主軸方向（長軸方向）	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設 主柱穴	貯蔵穴	炉	ピット	出入口	炉の種類	覆土	出土遺物	備考（遺物説明）
1	U25c5	N－43°－W	長方形	5.24 × 4.19	13～33	平坦	／	1	／	／	／	炉2	自然	土師器（高台），土製品，炭化種子	
2	U26b2	N－42.5°－W	方形	5.71 × 5.50	3～10	平坦	4	／	／	／	／	炉1	人為	土師器（ミニチュア土器）	
3	T25h8	N－36°－W	長方形	4.14 × 3.63	13～38	平坦	／	／	2	／	／	炉1	自然	土師器（甕台，坩）	
4	T25gx	N－29°－W	［方形］	[6.22 × 5.66]	2～12	平坦	／	／	／	／	／	炉1	自然	土師器片	
5	T25ba	N－26°－E	［方形］	[8.48] × 7.90	26～32	平坦	4	2	／	／	／	炉1	自然	土師器（高杯，器台，甕，台付甕，壺），土製品，炭化種子	
6	T26ba	N－51°－E	方形	6.00 × 5.90	15～44	平坦	4	1	／	／	／	炉1	自然	土師器（壺）	
7	T26dg	N－27.5°－W	［方形］	[5.44 × 5.00]	8～12	平坦	／	／	／	／	／	炉1	自然	土師器（器台，坩，壺，甑）	
10	S26i5	N－7°－E	方形	4.49 × 4.24	27～47	平坦	／	／	／	／	／	炉1	自然	土師器（高杯，器台，台付甕，壺，甑），土製品，炭化種子	
12	S26d2	N－9°－W	長方形	6.25 × 5.55	37～61	平坦	／	1	1	／	／	炉1	自然	土師器（鉢，高杯，器台，壺，ミニチュア土器），土製品	
13	S26g6	N－21.5°－W	長方形	5.85 × 4.78	4～22	平坦	4	／	／	／	／	炉1	自然	土師器（坩），土製品，炭化種子，炭化米	
14	S26f9	N－30°－W	方形	4.20 × 3.90	22～40	平坦	／	／	／	／	／	炉1	人為	土師器（高杯，器台，台付甕，壺）	
15	S26a1	N－33.5°－E	長方形	3.14 × 2.62	10～20	平坦	／	／	／	／	／	炉1	自然	土師器（壺）	
16	R26i1	N－0°	方形	(3.50) × 3.15	5～10	平坦	／	／	1	／	／	炉1	人為	土師器（ミニチュア土器）	
17	R26g2	N－46°－W	方形	4.56 × 4.46	44～50	平坦	／	／	1	1	／	炉1	自然	土師器（鉢，器台，台付甕，壺，ミニチュア土器）	
18	S25i4	N－70°－W	長方形	5.53 × 4.83	12～22	平坦	4	1	／	／	／	炉1	自然	土師器（器台，坩，甑，壺）	SI－19より古い。
19	S25j4	N－82°－W	長方形	3.42 × 3.02	12～37	平坦	／	／	2	1	／	炉1	自然	土師器（器台，壺，ミニチュア土器），鉄製品	SI－18より新しい。
20	S26b5	N－0°	［方形］	[4.15 × 3.95]	－	平坦	／	1	／	／	／	炉1	自然	土師器（台付甕）	
21	S26c9	N－12°－W	長方形	6.13 × 5.55	12～30	平坦	／	1	1	／	／	炉2	人為	土師器（鉢，ミニチュア土器），土製品，石製品	
22	R26j6	N－11°－E	方形	3.44 × 3.33	19～35	平坦	4	／	／	／	／	炉1	自然	土師器（台付甕，壺）	SI－28より新しい。
23	R26k	N－30°－W	［長方形］	4.23 × (3.62)	40～52	平坦	1	／	1	／	／	炉1	人為	土師器（壺），土製品，石製品	
24	R26j9	N－82°－W	長方形	6.81 × 6.02	15～47	平坦	4	1	1	1	／	炉1	自然	土師器（鉢，高杯，器台，坩，甕，台付甕，壺），土製品，ガラス小玉，炭化種子	
25	S27b1	N－7°－W	長方形	5.10 × 4.55	20～42	平坦	／	／	／	／	／	炉1	自然	土師器（器台，台付甕，壺，ミニチュア土器）	
26	S27b2	N－8°－W	方形	5.82 × 5.63	25～39	平坦	2	／	／	／	／	炉1	人為	土師器（器台，甕，台付甕，壺，甑）	
27	R27j2	N－57°－E	［長方形］	4.82 × [4.06]	8～18	平坦	／	1	／	／	／	炉1	自然	土師器（鉢，壺），土製品，石製品	
28	R26j1	N－25°－W	方形	3.76 × 3.35	16～35	平坦	／	1	／	／	／	炉2	自然	土師器片	SI－22より古い。

(2) 竪穴遺構

当初，第8・9・11号住居跡として調査した各遺構については，床面に踏み固められた硬化面が見られないこと，炉・貯蔵穴及び柱穴等の内部施設がないこと，そして一辺4m以下の小型の遺構である等のことから，居住を目的とした竪穴住居跡と区別できる。そのため，それぞれを第1～3号竪穴遺構と改称した。以下，改称した遺構と遺物について記載する。

第1号竪穴遺構（第58図）

位置　調査区の西部，S25g9区。

規模と平面形　長軸4.00m，短軸3.45mの長方形である。

長軸方向　N－10°－W

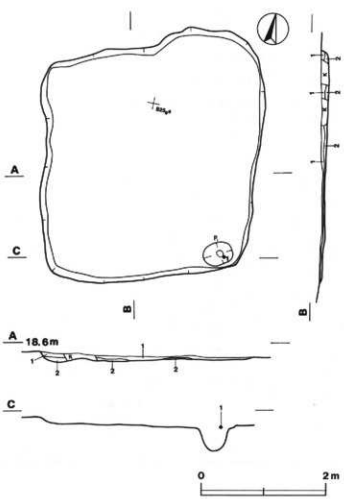
壁　壁高は4～8cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，硬化面は見られない。

ピット　1か所（P_1）。P_1は長径48cm，短径36cmの楕円形で，深さ40cmである。性格は不明である。

覆土　薄く2層が堆積している。自然堆積土層である。

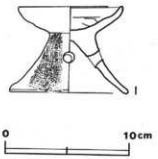
土層解説
1　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量　2　褐　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック少量



第58図　第1号竪穴遺構実測図

遺物　土師器甕口縁部片2点，体部片55点が出土している。遺物のほとんどが南東コーナー部のピット中層および下層から出土している。第59図1の器台は，ピット内から出土している。

所見　本跡から出土した遺物が少量で時期を決定することは難しいが，他の住居跡や竪穴遺構と遺構の形態が同様であることから古墳時代前期頃と考えられる。



第59図　第1号竪穴遺構出土遺物実測図

第１号竪穴遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第59図 1	器台 土師器	A 8.4 B 7.0 D 9.6 E 4.8	器受部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は内彎気味に外傾して立ち上がる。脚部に４孔。	器受部内・外面ナデ。脚部外面ハケ目整形後ナデ。内面ハケ目整形後ナデ。	長石・スコリア 橙色 普通	P23 95% ピット PL27

第２号竪穴遺構（第60図）

位置　調査区の西部，S26h$_6$区。

規模と平面形　長軸4.88m，短軸3.79mの長方形である。

長軸方向　N－92°－W

壁　壁高は12～17cmで，やや外傾して立ち上がる。

床　平坦であるが，硬化面はない。北部壁寄りと南東コーナー部に焼土の広がりが見られる。

覆土　３層からなる自然堆積土層である。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量　　子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒　3　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

遺物　覆土から土師器片６点が出土している。

所見　本跡から出土した遺物が少量で，時期を決定することは難しいが，古墳時代前期の遺構と考えられる。

第60図　第２号竪穴遺構実測図

第3号竪穴遺構（第61図）

位置　調査区の中央部，S26i7区。

規模と平面形　長軸3.07m，短軸2.62mの長方形である。

長軸方向　N－47.5°－E

壁　壁高は8～30cmで，外傾して立ち上がる。

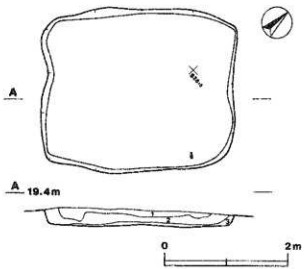
床　平坦で，全面的に柔らかい。

覆土　3層からなる自然堆積土層である。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物　覆土中から土師器片（甕）3点が出土している。

所見　本跡から出土した遺物が極少量で，時期を決定することは難しいが，古墳時代前期の遺構と考えられる。



第61図　第3号竪穴遺構実測図

表3　大山1遺跡竪穴遺構一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向（長軸方向）	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設 主柱穴	貯蔵穴	ピット	炉人口	炉・電	覆土	出土遺物	備考
1	S25g9	N－18°－W	長方形	4.00 × 3.45	4～8	平坦	／	／	1	／	／	自然	土師器（甕台）	
2	S26h0	N－92°－W	長方形	4.88 × 3.79	12～17	平坦	／	／	／	／	／	自然	土師器片	
3	S26i7	N－47.5°－E	長方形	3.07 × 2.62	8～30	平坦	／	／	／	／	／	自然	土師器片	

2　遺構外出土遺物

当遺跡の古墳時代の遺構に混入して出土した縄文土器や石鏃，試掘時のグリッド調査，遺構確認中に出土した遺物は，実測図・拓影図及び一覧表で掲載する。

(1)　縄文土器

当遺跡から出土した縄文時代の遺物は，縄文時代前期が主体であるが，縄文時代早・中・後期の土器片も出土している。

第1群　縄文時代早期の土器　（第62図1・2）
第2群　縄文時代前期の土器　（第62図3～41）
第3群　縄文時代中期の土器　（第62図42～47）
第4群　縄文時代後期の土器　（第62図48～50）

第1群土器（第62図1・2）

1は，縦位の燃糸文を施した早期前葉の夏島式土器である。2は，胎土に繊維を含み貝殻条痕文を内・外面に

施した条痕文系土器である。

第2群土器（第62図3～41図）

3～6は，胎土に繊維を含み無節斜縄文を施文した黒浜式土器である。7～13は，前期後半の浮島式土器である。7は，半截竹管による変形爪形文を施文し口縁部に縦位の条線文をいれている。8は，半截竹管による沈線文を施文している。9・10は，貝の腹縁を使った変形爪形文が施文されている。11は，半截竹管による沈線を施し口縁部隆帯に縦位の条線文を施している。12・13は，半截竹管による連続刺突文が施されている。14～41は，前期後葉の興津式土器である。14は，半截竹管による沈線と刺突文を施文している。15は，変形爪形文を施文し口縁部に縦位の条線文を施している。16は，爪形文を施し口縁部に縦位の条線文を施している。17は，変形爪形文の上に半截竹管による連続刺突文を施文している。18は，刺突文と口縁部に条線文を施している。19・20・24・28は，沈線を施している。21は，沈線と横位の刺突文を施し口縁部に縦位の条線文を施している。22・23は，半截竹管による押し引き文と刺突文を施している。25は，貝殻腹縁文と沈線を施文している。26は，隆帯を貼り刺突文と沈線を施している。27は，口縁部に隆帯を貼り貝殻腹縁文で施文している。28・29は，沈線を施している。30～41は，半截竹管による押し引き文を施文している。

第3群土器（第62図42～47）

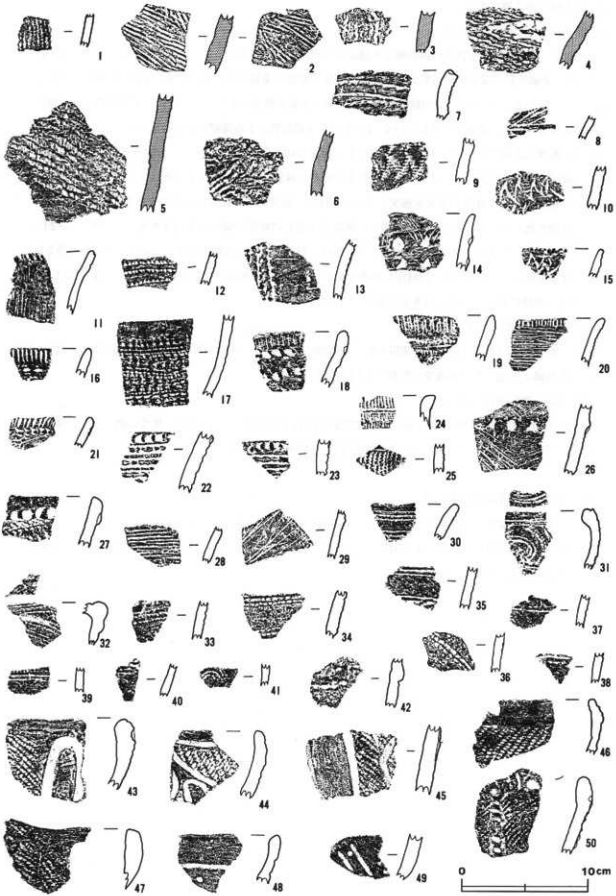
42は，胎土に雲母を含み口縁部に隆帯を貼り口唇部に刻みをもつ中期中葉の阿玉台式土器である。43～47は，沈線や磨消縄文を施した中期後葉の加曽利EⅢ式土器である。

第4群土器（第62図48～50）

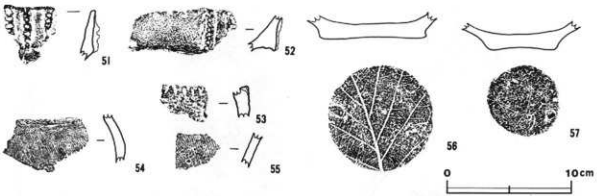
48・49は，沈線区画内に刺突文を施した後期前葉の称名寺式土器である。50は，地文に縄文を施し隆帯に刻みをいれ，口縁部には刺突文を施している後期前葉の堀之内式土器である。

(2) 土師器（第63図51～57）

51・52は，土師器壺の口縁部片で棒状附文に刻みをいれ，内面を赤彩している。53は，口縁部片で口唇部に刻みをいれ，内面を赤彩している。54・55は，地文に撚糸文を施文している。56は，木葉痕をもつ底部片である。57は，ヘラ記号をもつ底部片である。



第62図　遺構外出土遺物実測・拓影図(1)

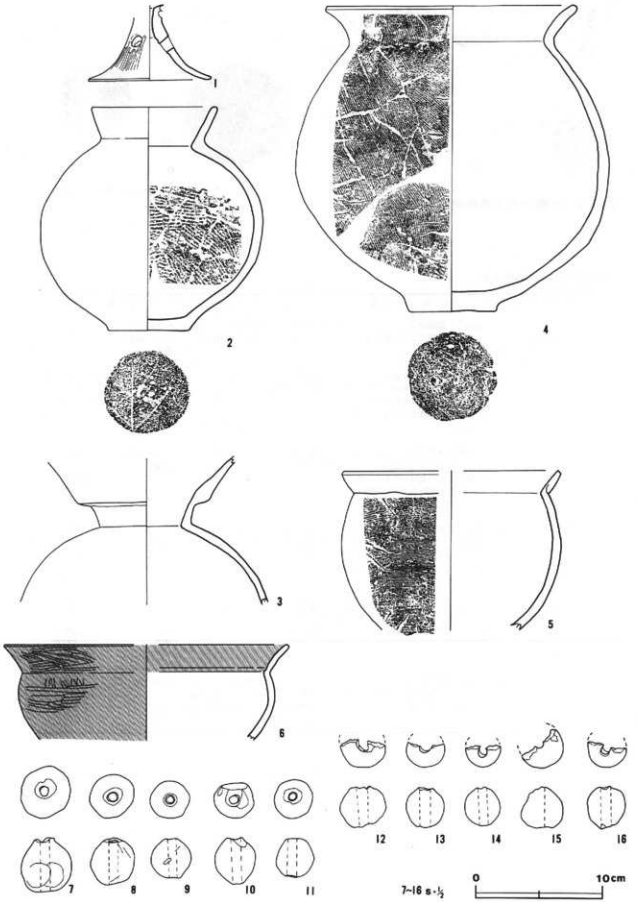


第63図　遺構外出土遺物実測・拓影図(2)

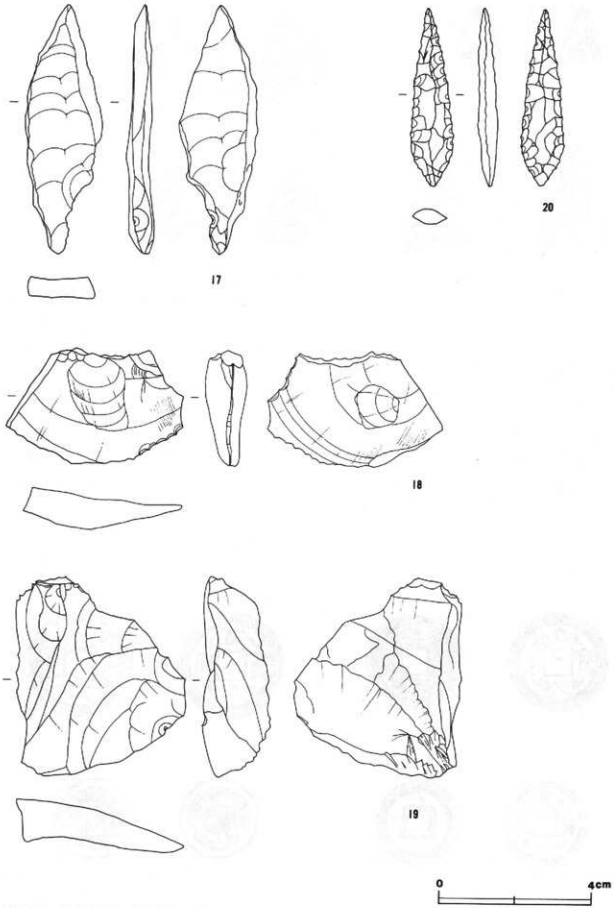
(3)　その他の遺物

遺構外出土遺物観察表

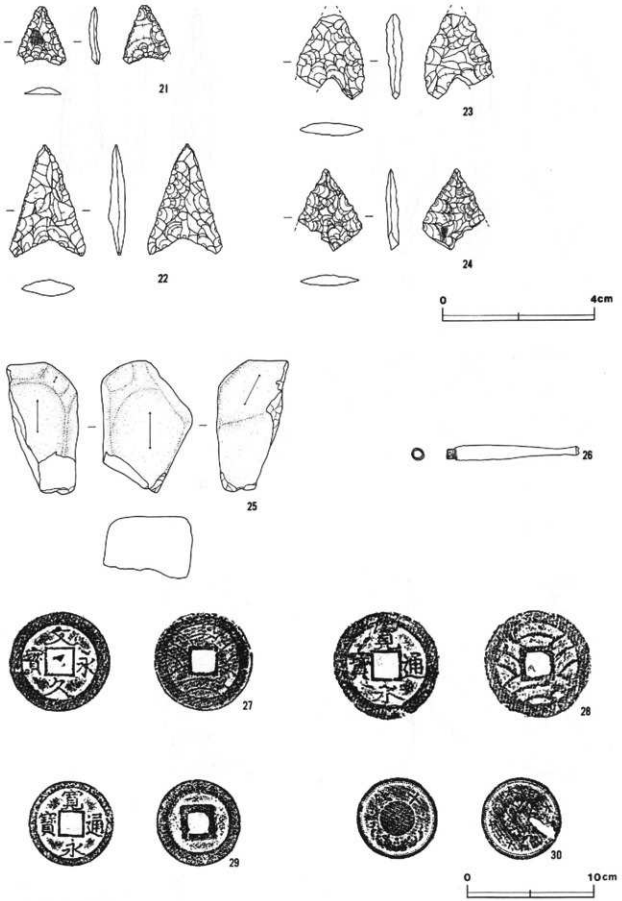
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第64図 1	器台 土師器	B (5.9) D 9.7 E 4.9	脚部片。脚部は「ハ」の字状に下方に開く。脚部に3孔。器受部中央に単孔。	脚部内面ハケ目整形後ナデ，外面縦位ヘラ磨き，端部横位ヘラ磨き。	石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 137　50% 表土 P L 27
2	壺 土師器	A 10.1 B 17.6 C 6.3	口縁部・体部一部欠損。やや突出した平底で，木葉痕有り。体部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。頸部は「く」の字状で立ち上がり口縁部に至る。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ハケ目整形，外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・パミス 明赤褐色 普通	P 139　70% 表土 P L 28
3	壺 土師器	B (11.4)	口縁部・体部上半片。体部は球形を呈すると思われる。頸部は「く」の字状を呈し，外反しながら口縁部に至る。口縁部外面下半に明瞭な稜をもつ。複合口縁。	口縁部内・外面ナデ。頸部横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	P 140　20% 表土 P L 28
4	甕 土師器	A 20.0 B 24.0 C 7.0	体部一部欠損。やや突出した平底で，粉痕有り。体部はやや偏平な球形を呈し，中位より下方に最大径をもつ。頸部は「く」の字状を呈し，外反気味に立ち上がる。	口縁部内面ハケ目整形後ナデ，外面丁寧な横ナデ。体部外面上・中位ハケ目整形，下位ヘラ削り後ナデ。	スコリア・礫 橙色 普通	P 141　60% 表土 P L 27
5	甕 土師器	A [17.3] B (12.5)	口縁部・体部片。体部は球形を呈すると思われる。頸部は「く」の字状を呈し，外傾して口縁部に至る。複合口縁。	口縁部内面ハケ目整形，外面ナデ。体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ハケ目整形後ナデ。	長石・スコリア・パミス 橙色 普通	P 142　20% 表土 口縁部・体部外面に煤付着 P L 28
6	甕 土師器	A [22.6] B (7.5)	口縁部・体部片。頸部は「く」の字状を呈し，緩やかに外反する。頸部内面下位に鈍い沈線がある。	口縁部内面ハケ目整形後ナデ，外面ヘラ磨き。体部内面ハケ目整形後ナデ，外面ヘラ磨き。口縁部内・外面及び体部外面赤彩。	雲母・スコリア・パミス 赤色 普通	P 143　5% 表土 P L 27



第64図　遺構外出土遺物実測図(1)



第65図　遺構外出土遺物実測図(2)



第66図　遺構外出土遺物実測・拓影図(3)

図版番号	種別	計測値（cm）				出土地点	備考
		長さ	幅	孔径	重量（g）		
第64図7	球状土錘	2.8	2.6	0.5	19.5	表採	DP22 PL28
8	球状土錘	2.5	2.3	0.4	11.1	表採	DP23 PL28
9	球状土錘	2.1	1.6	0.5	8.4	表採	DP24 PL28
10	球状土錘	2.4	（2.1）	0.6	（8.2）	表採	DP25 PL28
11	球状土錘	2.1	2.1	0.5	8.6	表採	DP26 PL28
12	球状土錘	2.2	（2.5）	0.5	（6.0）	表採	DP27 PL28
13	球状土錘	2.1	（2.0）	0.6	（4.7）	表採	DP28 PL28
14	球状土錘	2.0	（2.0）	0.6	（3.9）	表採	DP29 PL28
15	球状土錘	2.2	（2.4）	0.5	（6.1）	表採	DP30 PL28
16	球状土錘	2.3	（2.1）	0.5	（4.6）	表採	DP31 PL28

図版番号	種別	計測値（cm）				石質	出土地点	備考
		長さ	幅	厚さ	重量（g）			
第65図17	ナイフ型石器	6.6	2.1	0.5	7.7	安山岩	U27dz覆土中	Q8 PL28
18	剥片	3.0	4.6	1.1	11.8	チャート	U26az覆土中	Q13 PL28
19	剥片	5.2	4.4	1.6	30.5	チャート	U27dz覆土中	Q14 PL28
20	有舌尖頭器	4.7	1.2	0.6	2.1	安山岩	表採	Q9 PL28
第66図21	石鏃	（1.5）	0.75	0.2	（0.4）	黒曜石	表採	Q1 PL28
22	石鏃	3.0	2.0	0.4	1.7	チャート	表採	Q6 PL28
23	石鏃	（2.2）	1.0	0.35	（1.6）	チャート	表採	Q10 PL28
24	石鏃	2.2	（1.6）	0.3	（0.7）	黒曜石	表採	Q11 PL28
25	砥石	10.4	7.1	5.7	485.1	凝灰岩	表採	Q12 PL28

図版番号	種別	計測値（cm）				出土地点	備考
		長さ	幅	孔径	重量（g）		
第66図26	煙管	（10.4）	1.3	0.9	（11.5）	表採	M3, 吸いロ PL28

図版番号	銭種	初鋳年		出土地点	備考
		年号	（西暦）		
第66図27	文久永寶	文久3年	（1863）	表採	M4 PL28
28	寛永通寶	年代不詳		表採	M5 PL28
29	寛永通寶	享保11年	（1726）	表採	M6 PL28
30	10銭アルミ貨	昭和15年	（1940）	表採	M7

第4節　まとめ

今回の調査によって，当遺跡は古墳時代前期の集落跡であることが明らかになった。ここでは，検出された竪穴住居跡と出土遺物を中心に概観しまとめとしたい。

(1)　竪穴住居跡

当遺跡における竪穴住居跡は25軒で，北側の台地縁辺部から北側小支谷にかけて不規則に存在している。時代・時期で見ると，住居跡25軒の内，時期不明3軒を除く22軒が古墳時代前期（4世紀）のものと考えられる。さらに，当遺跡内の竪穴住居跡は3期に大別され，出土遺物から第18号住居跡が最も古く，第19・24号住居跡が最も新しい遺構と考えられる。

規模で見ると，第5号住居跡（長軸8.48m）が大形である。次いで第24号住居跡（長軸6.81m）が大きく，第15・19・22・28号住居跡（長軸3.14～3.76m）は小形である。

主軸方向で見ると，北西方向が北東方向の約3倍あり，真北を指すものが2軒（第16・20号住居跡）ある。

平面形状は，長方形よりも方形のものがやや多い。

竪穴住居跡は，大きく次の2つに分類することができる。

A類　主柱穴・貯蔵穴・ピット・炉等の内部施設を有するもの
　　（第1～3・5・6・12・13・16～24・26～28号住居跡）

B類　炉以外に内部施設を有しないもの
　　（第4・7・10・14・15・25号住居跡）

A類は19軒で，全体の76%である。床面が踏み固められ，炉をもち，主柱穴・貯蔵穴・ピット等の内部施設を有する。このことから，居住を目的とする建物と考えられる。しかし，上記の内部施設全てを備えているものは第24号住居跡1軒のみで，住居としての形態はまちまちである。

B類は6軒で，全体の24%であるが，炉以外の内部施設がなく，床面の踏み固めも弱いことから，簡易の住居施設であったと考えられる。

なお，本遺跡中，焼失家屋と思われるものは，第1・3・4・6・7・10・17・21・24号住居跡の9軒で，全体の36%である。

(2)　出土遺物

本遺跡の出土遺物は，大半が古墳時代前期の五領式土器で，4世紀中・後期のものが多い。出土遺物の特徴的な点をまとめてみると次の通りである。

- 量的には，器種として壺・甕が圧倒的に多い。
- 壺・甕の体部は，球形のものが多く，東海系の影響を受けている。
- 器受部の一部に大きな切り込みのある器台は，本県内に出土例が少ない。（第10号住居跡）
- 一住居内から接合の困難な多種多量の土師器片が出土している。（第5・12・21・26号住居跡）

なお，旧石器時代，縄文時代，中・近世については，出土遺物が少量であった。そのため，僅かにその生活の一斑を垣間見ることしかできないが，本遺跡は，甚五郎崎遺跡，下高井向原Ⅰ遺跡，下高井向原Ⅱ遺跡等の周辺の遺跡とも関連付けて考える必要があろう。

参考文献

・財団法人茨城県教育財団「取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書甚五郎崎遺跡・下高井向原Ⅰ遺跡・下高井向原Ⅱ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第107集』1996年3月
・東北・関東前方後円墳研究会「東北・関東における前方後円墳の編年と画期」　1996年1月
・財団法人茨城県教育財団「研究ノート」第5号　1996年4月

付　章

遺跡周辺確認遺構

第29号住居跡（第67図）

位置　遺跡北東部S28js区

規模と平面形　長軸5.16m，短軸5.00mの方形である。

主軸方向　N－57.5°－W

壁　壁高は30～78cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部から南寄りに踏み固められている。。

炉　中央部から北西寄りに位置し，長径78cm，短径64cmの楕円形を呈した地床炉である。

炉土層解説

1	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量	3	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
2	暗 褐 色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	4	赤 褐 色	ローム粒子多量，炭化粒子少量，ローム粒子微量

貯蔵穴　東壁際中央付近に位置し，径48cmの円形で，深さは42cmである。平坦な底面から外傾して立ち上がり，断面は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	3	褐　色	ローム粒子少量
2	暗 褐 色	ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量			

覆土　8層からなる人為堆積土層である。

土層解説

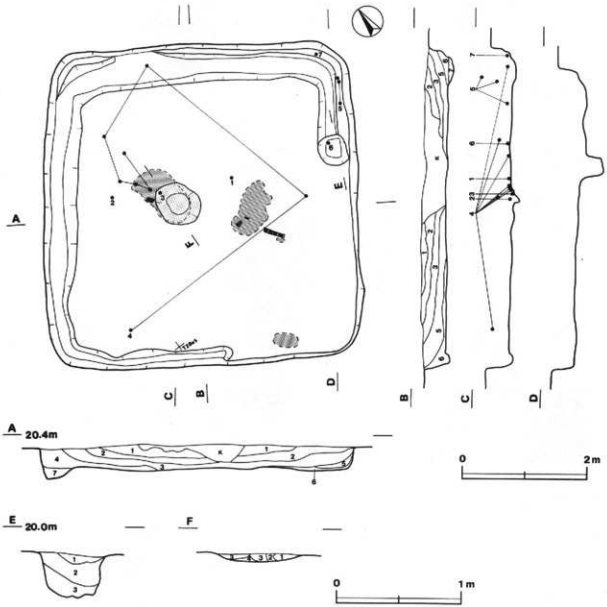
1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	5	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
2	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量	6	褐　色	ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
3	黒　色	ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	7	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
4	暗 褐 色	ローム中・小ブロック・ローム粒子少量	8	褐色	ローム大・中ブロック・ローム粒子中量

遺物　覆土下層から中層にかけて，高坏の坏部1点，脚部2点，坩の口縁部1点，台付甕の脚部1点，底部1点他土師器片254点が出土している。第68・69図1の鉢と2の器台は中央部付近の床面から正位で，3の粗製器台は中央部の焼土中から正位で，4の壺は北から西側にかけて散在し，5の壺は東コーナー部の中層から正位で，6の甕は東壁際の貯蔵穴内から正位で，7の甕は東コーナー部の覆土下層から正位でそれぞれ出土している。

所見　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代前期（4世紀）の住居跡と考えられる。

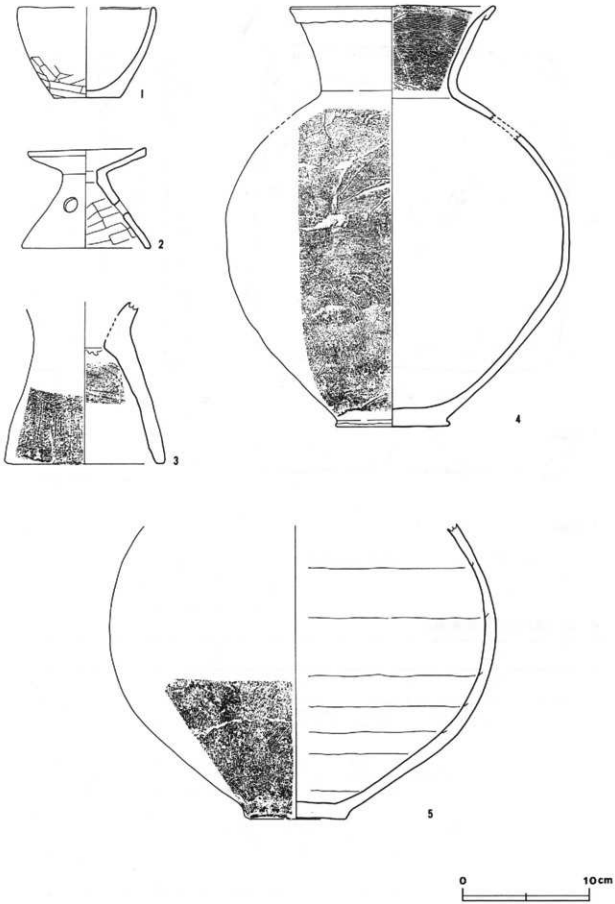
第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 1	鉢 土師器	A [10.8] B 7.1 C 5.2	体部一部欠損。平底。体部は「ハ」の字状に立ち上がり，上端部がやや内彎する。	体部外面ハケ目整形後ヘラナデ，内面ハケ目整形後ナデ。底部外面ハケ目整形，内面ナデ。	雲母・パミス・スコリア 明赤褐色 普通	P122 60% 床面 PL28
2	器台 土師器	A 9.2 B 7.9 D 10.1 E 5.8	器受部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に下方に開く。器受部は大きく外傾して立ち上がる。器受部上端に稜線有り。脚部に3孔。器受部中央に中孔。	器受部外面ハケ目整形後ナデ，内面ナデ。脚部外面ハケ目整形後ヘラナデ，内面ハケ目整形後ナデ。	パミス・スコリアにぶい黄橙色 普通	P123 90% 床面 PL29

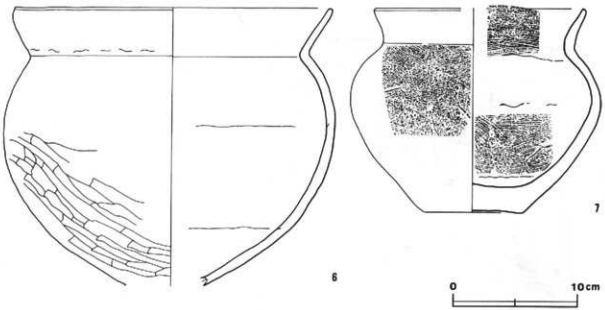


第67図　第29号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	粗製器台 土師器	B（12.7） D　12.6 E　10.5	器受部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に下方に開く。器受部はやや外傾して立ち上がる。中央に貫通口を有す。	器受部内・外面ハケ目整形後ナデ。脚部外面ハケ目整形後ナデ，内面ハケ目整形。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P124　90% 床面 PL29
4	壺 土師器	A　16.3 B［33.0］ C　9.1	体部一部欠損。突出した底部，平底。体部は球形状を呈す。口縁部は外反して立ち上がる。複合口縁。	口縁部内・外面ハケ目整形後ヘラナデ。体部外面ハケ目整形後ヘラナデ，内面ナデ。体部内面輪積み痕有り。	雲母・パミス・スコリア にぶい黄橙色 普通	P125　70% 床面 PL28・29
5	壺 土師器	B（23.0） C　8.1	口縁部欠損，体部上端一部欠損。突出した底部，平底。体部は球形状を呈し，最大径を中位にもつ。	体部外面ハケ目整形後ヘラナデ，内面上半ハケ目整形後ナデ，下半ハケ目整形。	雲母・スコリア 橙色 普通	P126　70% 覆土中層 二次焼成 体部外面に煤付着 PL29



第68図　第29号住居跡出土遺物実測図(1)



第69図　第29号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第69図 6	甕 土師器	A 25.6 B (22.2)	底部欠損，体部一部欠損。体部は球形状を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面ハケ目整形後ヘラナデ，内面ハケ目整形後ナデ。体部外面ハケ目整形後ヘラナデ，内面ナデ。	パミス・スコリア 橙色 普通	P127　85% 貯蔵穴 二次焼成 体部外面に煤付着 PL30
7	甕 土師器	A [17.0] B 16.4 C 7.9	口縁部一部欠損。平底。体部は偏平な球形を呈し，上位に最大径をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面ハケ目整形後ナデ，内面ハケ目整形。体部外面ハケ目整形，内面上半ナデ，下半ハケ目整形。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P128　60% 覆土下層 PL28

第30号住居跡（第70図）

位置　遺跡北東部T28b9区

規模と平面形　長軸4.76m，短軸4.50mの長方形である。

主軸方向　N－22°－W

壁　壁高は14～30cmで，やや外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部から南寄りに踏み固められている。焼土と炭化物の広がりが中央部及び北東・南西コーナー付近にある。

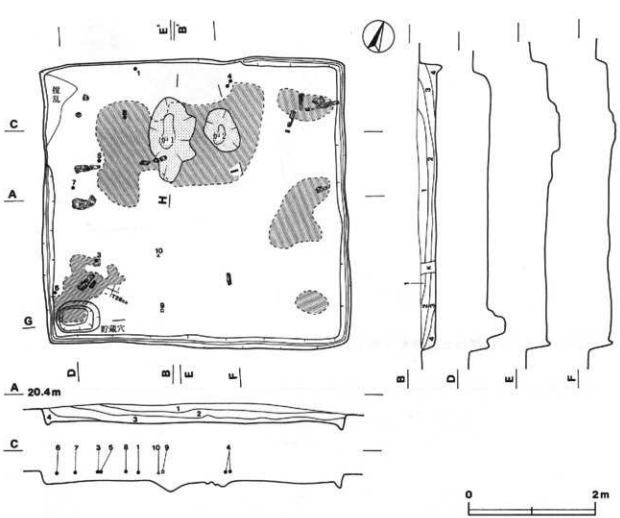
炉　2か所。炉1は中央部から北西寄りに位置し，長径132cm，短径76cmの不整楕円形を呈する。炉2は炉1の北側に隣接し，長径72cm，短径48cmの楕円形を呈する。炉1・2はともに地床炉である。

炉1土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土大・中ブロック・焼土粒子多量，ローム粒子微量
3　赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

炉2土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
2　明赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　橙　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量



第70図　第30号住居跡実測図

貯蔵穴　南西のコーナー部に位置し，長軸68cm，短軸50cmの隅丸長方形で，深さは38cmである。平坦な底面から段差をともないながら外傾して立ち上がる。断面は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

覆土　4層からなる人為堆積土層である。

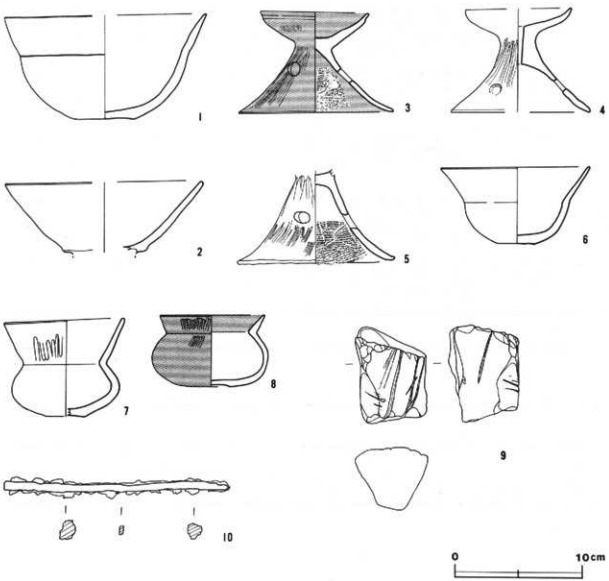
土層解説

1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　出土遺物は土師器細片で，中央部から南西コーナー部にかけ多数出土した。第71図1の鉢，4の器台は北壁付近覆土下層から出土している。3の高坏，6の坩は横位の状態で南西コーナー部覆土下層から出土している。5の器台，8の坩は潰れた状態で北西コーナー部覆土下層から出土している。7の坩は西壁付近覆土下層

から出土している。9の砥石は南壁付近覆土下層から出土している。

所見　本跡は，床面から多量の炭化物と焼土塊が確認されている事から焼失家屋と考えられる。遺構の形態及び出土遺物から古墳時代前期（4世紀）の住居跡と考えられる。



第71図　第30号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第71図 1	鉢 土師器	A［16.2］ B　8.3 C　4.5	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾しながら立ち上がる。頸部からさらに外傾し口縁部に至る。	口縁部内・外面ナデ，端部横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ナデ。	長石・雲母・パミス 明褐色 普通	P129　40% 覆土下層 口縁部・体部剥離 PL29
2	高　坏 土師器	A［16.0］ B（　5.7）	坏部片。坏部外面下位に稜有り，やや内彎気味に外傾しながら立ち上がる。	坏部内面丁寧なヘラ磨き，外面丁寧なナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P130　10% 覆土中 PL29

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	鬱台 土師器	A 8.6 B 8.1 D 12.3 E 5.0	坏部・脚部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に下方に開く。器受部は外反しながら立ち上がる。器受部外面上位に稜をもつ。脚部に3孔。	器受部内面ヘラ磨き，外面ハケ目整形後ナデ，脚内面ハケ目整形後ナデ，外面ハケ目整形後ナデ，端部横ナデ。器受部内・外面及び脚部内・外面赤彩。	長石・石英・パミス 赤色 普通	P131 80% 覆土下層 PL29
4	鬱台 土師器	A [8.3] B 8.2 D [11.0] E 5.8	坏部・脚部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に下方に開く。器受部は内彎気味に外傾しながら立ち上がる。脚部に3孔。器受部中央に単孔。	器受部内面ヘラ磨き，外面ナデ。脚部内面ハケ目整形後ナデ，端部横ナデ，外面ヘラ磨き。器受部内・外面及び脚部外面赤彩。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	P132 30% 覆土下層 PL29
5	鬱台 土師器	B (7.4) D 12.5	坏部欠損。脚部は「ハ」の字状に下方に開く。脚部に3孔。	脚部内・外面ハケ目整形後ナデ。	長石・石英・雲母・パミス 明褐色 普通	P133 50% 覆土下層 PL29
6	坩 土師器	A 11.9 B 6.1 C 3.0	平底。体部は偏平な球形を呈し，底部から内彎気味に外傾し立ち上がる。頸部から口縁部にかけさらに外傾する。	口縁部内・外面ナデ，端部横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・雲母・パミス にぶい黄橙色 普通	P134 95% 覆土下層 PL29
7	坩 土師器	A 9.7 B 7.9 C [2.8]	口縁部・底部一部欠損。平底。体部は偏平な球形を呈し，中位に最大径をもつ。頸部から口縁部にかけ外傾しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P135 80% 覆土下層 体部内面剥離 PL29
8	坩 土師器	A 8.4 B 5.7	丸底。口縁部・体部一部欠損。体部は偏平な球形を呈し中位に最大径をもつ。口縁部は体部に比べ短く，外傾しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部内面ナデ，外面ヘラ磨き。口縁部内・外面及び体部外面赤彩。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P136 80% 覆土下層 PL29

図版番号	種別	計測値 (cm)				石質	出土地点	備考
		長さ	幅	厚さ	重量 (g)			
第71図9	砥石	7.6	5.6	5.5	253.3	砂岩	覆土中	Q7 PL30

図版番号	種別	計測値 (cm)				出土地点	備考
		長さ	幅	厚さ	重量 (g)		
第71図10	不明鉄製品	(13.2)	(0.7)	a (0.4) b (0.1)	(10.5)	覆土下層	M2 PL30

写　真　図　版

大　山　Ⅰ　遺　跡

調査前風景

遺構確認状況

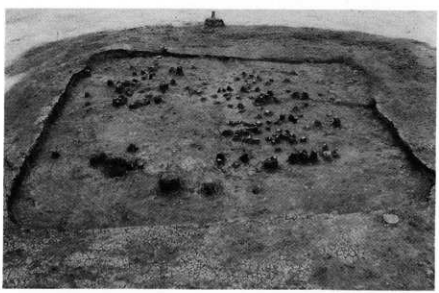
第１号住居跡完掘状況

第 2 号住居跡完掘状況

第 3 号住居跡完掘状況

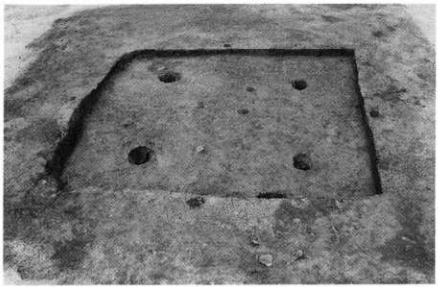
第 4 号住居跡完掘状況

第 5 号住居跡完掘状況

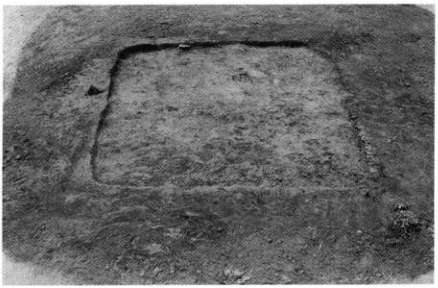


第 5 号住居跡遺物出土状況

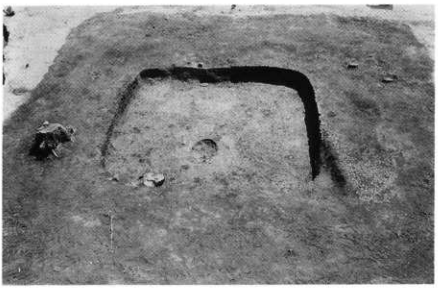
第 5 号住居跡遺物出土状況



第6号住居跡完掘状況



第7号住居跡完掘状況

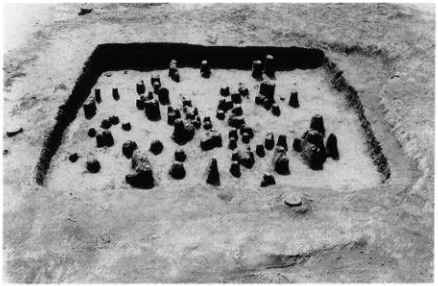


第10号住居跡完掘状況

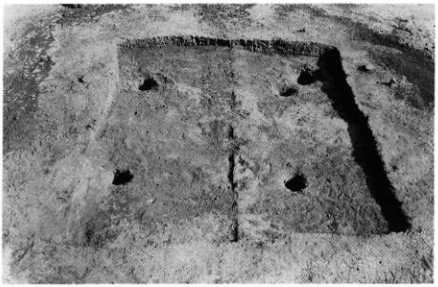
第10号住居跡
遺物出土状況

第10号住居跡
遺物出土状況

第12号住居跡完掘状況



第12号住居跡
遺物出土状況



第13号住居跡完掘状況

第14号住居跡完掘状況

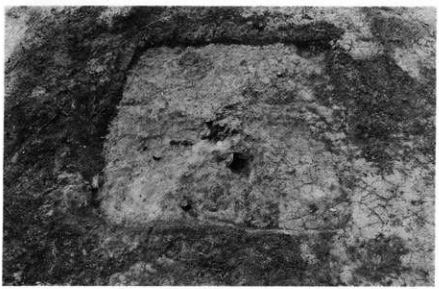
第15号住居跡完掘状況

第16号住居跡完掘状況

第17号住居跡完掘状況

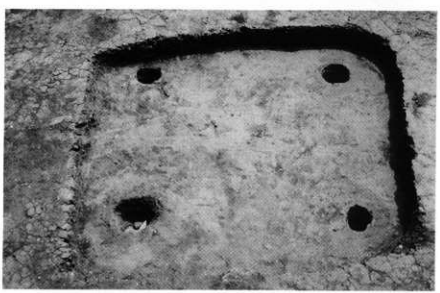
第18・19号住居跡
完掘状況

第18・19号住居跡
遺物出土状況

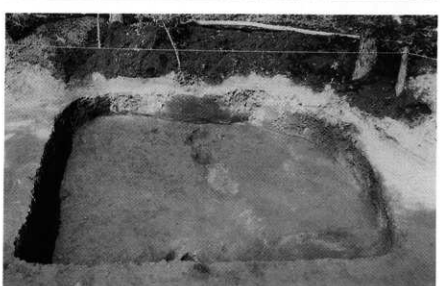


第20号住居跡完掘状況

第21号住居跡完掘状況



第22号住居跡完掘状況



第23号住居跡完掘状況

第24号住居跡完掘状況

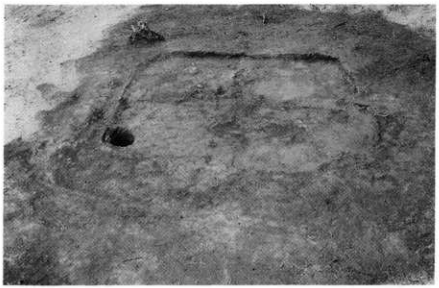
第24号住居跡
遺物出土状況

第24号住居跡
遺物出土状況

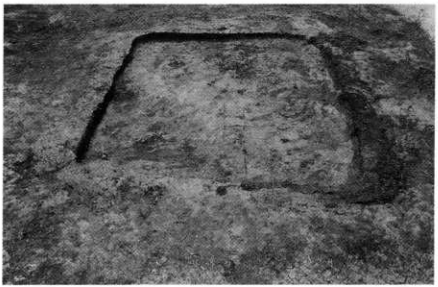
第25号住居跡完掘状況

第26号住居跡完掘状況

第27号住居跡完掘状況

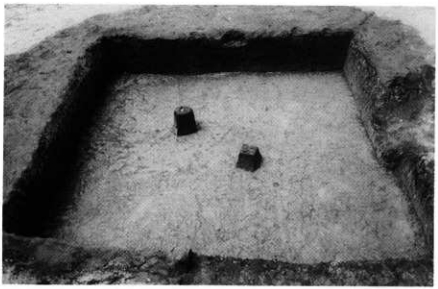


第 1 号竪穴遺構完掘状況



第 2 号竪穴遺構完掘状況

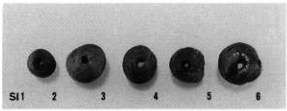
第 3 号竪穴遺構完掘状況

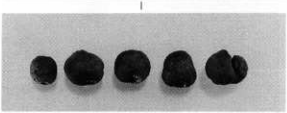


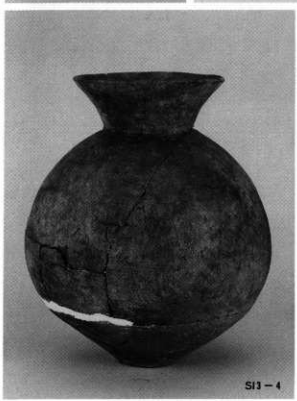
旧石器出土状況

第29号住居跡完掘状況

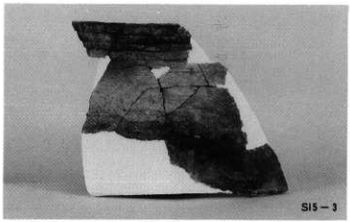
第30号住居跡完掘状況

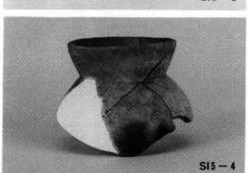




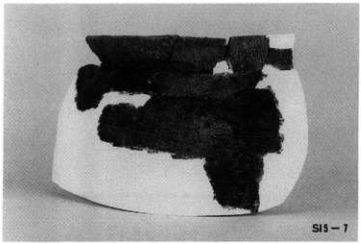


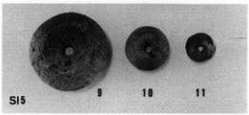
第1・2・3号住居跡出土遺物

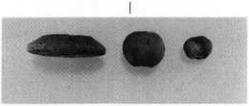


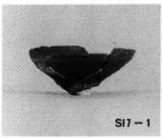


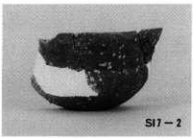
第３・５号住居跡出土遺物

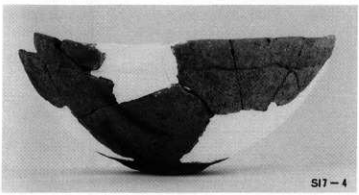


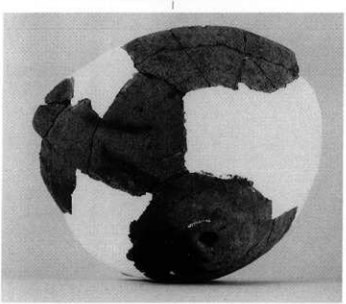


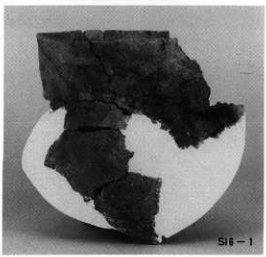




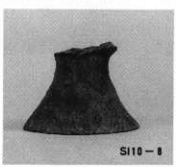


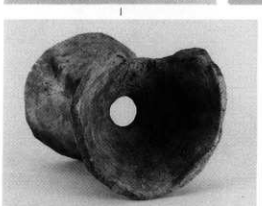




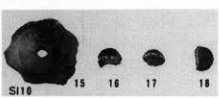


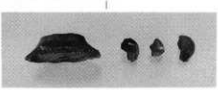
第５・６・７号住居跡出土遺物

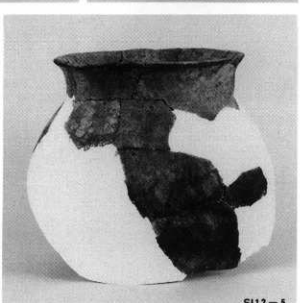




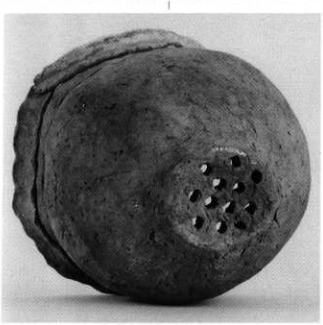
第７・10号住居跡出土遺物







第10・12号住居跡出土遺物



第10・12・13・14号住居跡出土遺物

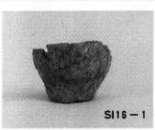
SI14－2

SI14－3

SI14－4

SI14－5

SI15－1


SI16－1

SI17－1

SI17－3

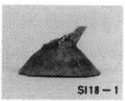
SI17－4

SI17－5

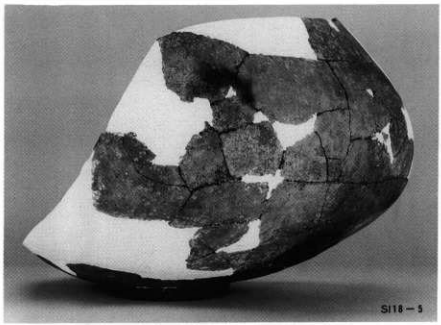
SI17－7

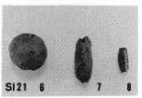
SI17－2

第14・15・16・17号住居跡出土遺物

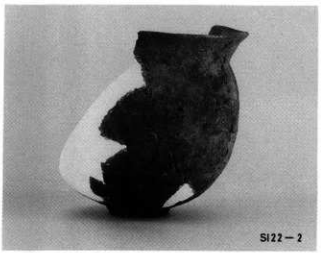


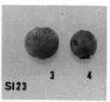
第17・18号住居跡出土遺物

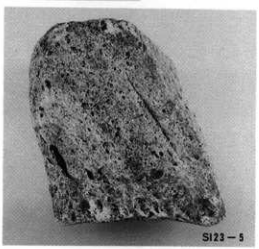




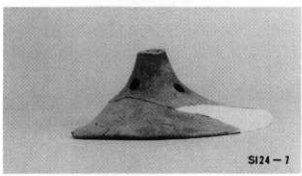
第18・19・20・21号住居跡出土遺物





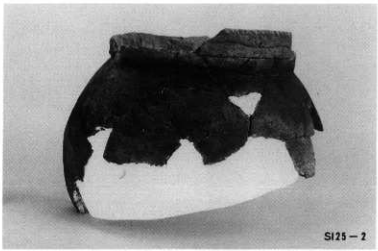


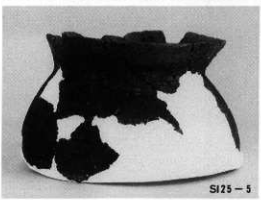
第22・23・24号住居跡出土遺物

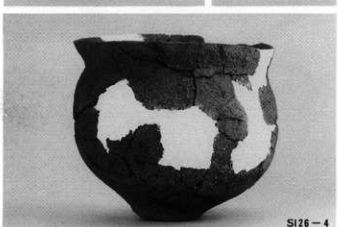


第24号住居跡出土遺物

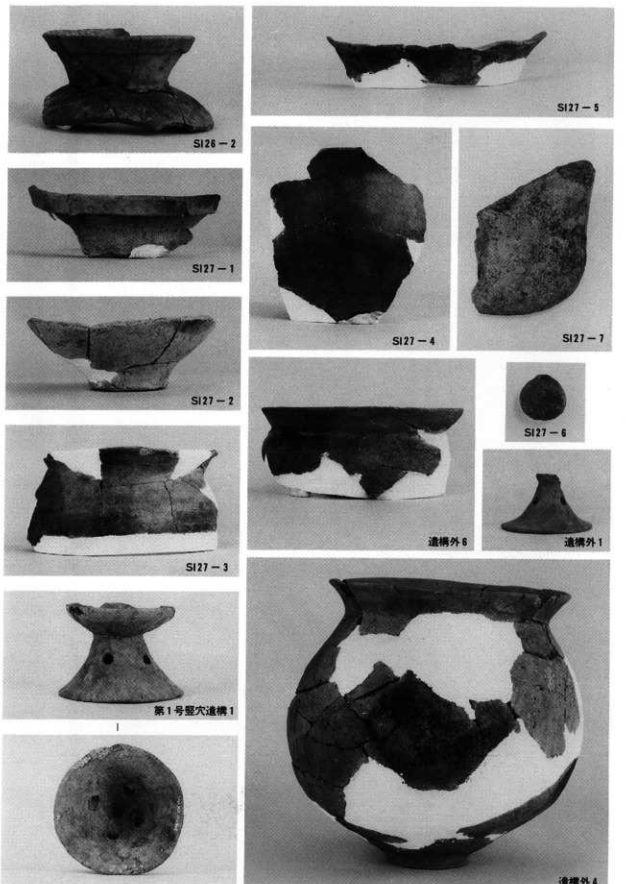
第24号住居跡出土遺物



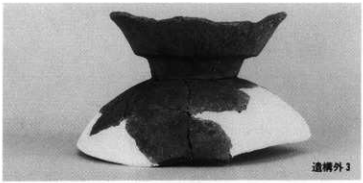


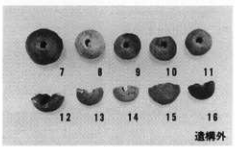


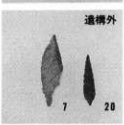
第25・26号住居跡出土遺物

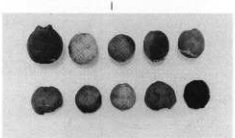


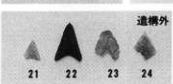
第26・27号住居跡，第1号竪穴遺構出土遺物

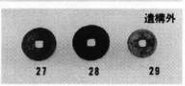


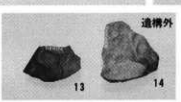


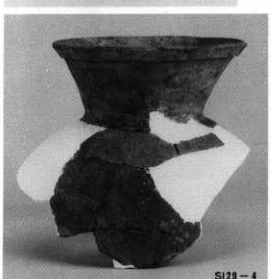




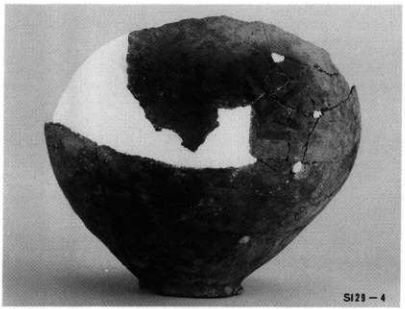


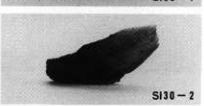




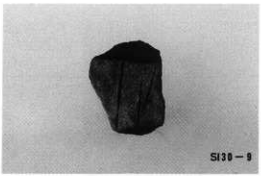


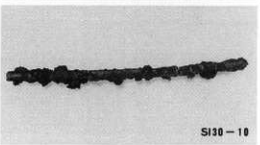
第29号住居跡，遺構外出土遺物

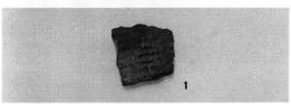


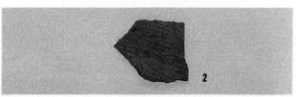


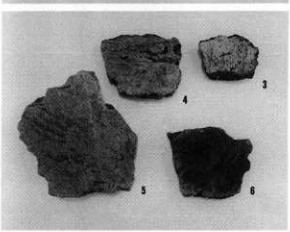
第29・30号住居跡出土遺物

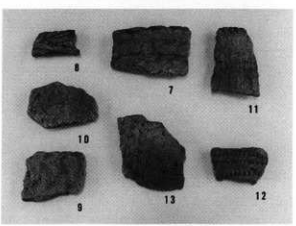


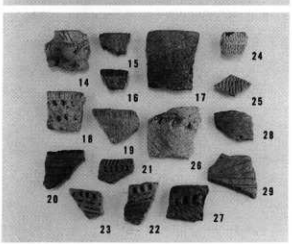


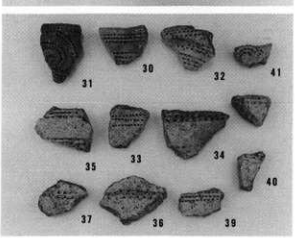




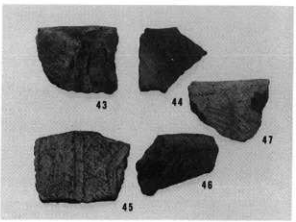


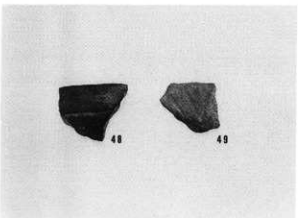


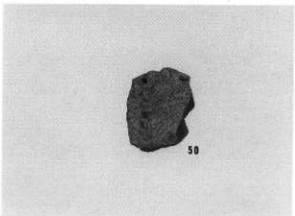


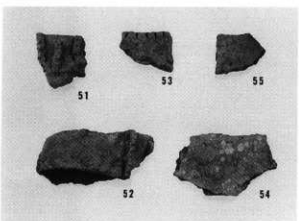


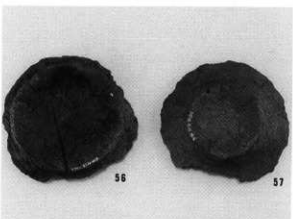
第29・30号住居跡，遺構外出土遺物











遺構外出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第123集

取手都市計画事業下高井特定土地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書II

大山Ⅰ遺跡

平成9(1997)年6月23日　印刷
平成9(1997)年6月30日　発行

発行　財団法人　茨城県教育財団
水戸市見和1丁目356番地の2号
茨城県水戸市生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷　ワタヒキ印刷株式会社
TEL029－221－4381